2020年度

シ　ラ　バ　ス

久留米信愛短期大学

KURUME SHIN-AI COLLEGE

久留米信愛短期大学の建学の精神と教育理念

建学の精神は、キリストの教えに基づいた真の価値観を持つ人間を育成することである。ショファイユの幼きイエズス修道会創立者レーヌ・アンティエの言葉に、「人々が神を知り、神を愛するようになるために、私たちの全生涯を捧げましょう」、そして「マリアにおいて幼子となられた神の愛を世に示す」とあるように、創立者と幼きイエズス修道会のカリスマが本学の建学の精神の根底にある。

教育理念はこの建学の精神に基づいて、以下のように示される。
カトリックの精神を基盤として、学生の全人格的な開花を目指す。学生一人ひとりが主体性を確立し、それぞれの可能性を最大限に伸ばして自己形成を図ると共に、豊かな心をもって社会の建設に貢献する人間を育成する。この教育理念を具現化するため、5つの柱に従い教育する。

1. キリストの教えに根ざした教育
2. 一人ひとりを大切にする教育
3. 能力の開発を目指す教育
4. 自己形成を促す教育
5. 社会貢献への態度を形成する教育

久留米信愛短期大学及び学科の教育目的・目標

建学の精神「キリストの教えに基づいた真の価値観を持つ人間を育成する」に基づいた本学全体及び学科の教育目的・目標は以下の通りである。

本学全体の教育目的・目標は、「自己を他者に生かす」ことのできる「豊かな心をもって社会の建設に貢献する人間を育成する」ことである。

幼児教育学科の教育目的・目標は、「自己を他者に生かす喜びを知り、子どもとの関わりの中で実践できる保育者を養成する。そのために子どもの発達の理解と支援に必要な知識、保育方法・技術を身につけた保育者を育成する」ことである。

フードデザイン学科の教育目的・目標は、「食に関するあらゆる場において、豊かな感性と総合的な技術をもった栄養士を養成する。すなわち、自分を他者に生かす喜びをもち、健康的な食事を計画・調理・提供できる基礎知識と食空間を演出できる応用力を身につけた栄養士を育成する」ことである。

はじめに

皆さんの入学を、心より歓迎いたします。

シラバス（syllabus）という言葉については、既にご存知かもしれませんが、開講される科目について事前に立てられた授業の計画や内容の概略を記したもののことです。皆さんの学びのガイドブックとも言うべき本冊子には、それぞれの科目ごとにディプロマ・ポリシーとの関連、授業の目的、到達目標、授業の概要、各回の授業計画、成績評価の方法・基準、留意事項、準備学習（必要時間含む）、課題のフィードバック、テキストおよび参考書等、その科目を学んでいく上で必要なことが記載されています。授業が始まる前に、目を通しておいてください。その科目の全体像が予め分かっていると、各回の授業の間につながりができ、理解しやすくなると思います。

また、前期・後期の授業開始の前には、履修ガイダンスが開催されます。卒業および免許・資格の取得などに必要な科目について、見落としがないように心がけましょう。

それから、皆さんが本学で学生生活を過ごされる上で、さまざまな約束事、決まりを1冊にまとめた“ルールブック”として「学生便覧」があります。その中に、例えば学則、履修規程、成績考査規程、各学科のカリキュラムなども掲載されています。繰り返しになりますが、卒業、免許・資格の取得、単位の修得方法、成績評価などに関する事柄は、それらの中で定められています。

これまでの学校生活に比べて、自主的に考え、自ら判断し、自らの意志と責任で行動する場面が増えてくると思います。卒業後の進路や人生プランなどを視野に入れながら、本学における2年間の学生生活を、未来へ向けての確かな足場を固める時期、“雌伏の時”としてください。

2020年4月

教務部長

履修上の留意事項

履修に際しては、各学期の授業開始前に行われる学科別の履修ガイダンスやシラバスを参考にしてください。ここでは、各学科に共通する用語・事項等について説明します。

1. 講義

教員が学生に対し、当該科目の専門的な知識・内容などについて解説する授業形式。
本学では1単位につき15時間を定めています。

2. 演習

教員の講義とともに、学生も討議・研究発表等を行いつつ指導を受ける授業形態。
本学では1単位の授業時間を30時間と定めています。

3. 実験・実習・実技

本学ではいずれも1単位につき45時間の授業と定めています。

4. インターンシップ

在学中に一定期間企業等において、自分の専攻や希望する職業に関連する就業体験を積むことにより、学習効果を高める教育プログラムのことです。

5. 選択科目

卒業必修以外の科目であり、学生の意志によって履修を決定する科目のことです。
ただし、選択科目であっても、免許・資格の必修科目の場合もあるので注意してください。

6. 選択必修科目

複数の科目の内から、1ないし複数の科目の履修が義務づけられている科目のことです。

7. コマ

1授業時限（90分）を指します。

8. 授業の回数

1学期15回の授業を行います。

9. 授業の出席

成績評価の前提として、授業回数の3分の2以上の出席が必要です。
遅刻、早退は3回で1回の欠席となります。

10. 履修届と履修中止願

履修届とは、授業科目を履修し、単位を修得するために提出する届のことです。
履修中止願は、履修届に記載した科目を、所定の手続きに従って学期の途中で中止する場合に提出する願のことです。

11. 成績考査

筆記試験、論文、レポート、口頭試験、実技、作品等によって行われる学業成績の評価のことで、合格した場合は、その科目の修了を認める単位が与えられます。

12. 成績評価

本学では、成績をAA（90～100点）、A（80～89点）、B（70～79点）、C（60～69点）、D（59点以下）、F（失格・放棄）で表し、AA、A、B、Cが合格となります。

13. グレード・ポイント・アベレージ（Grade Point Average： GPAと略称）

本学では、成績のＡＡを4点、Ａを3点、Ｂを2点、Ｃを1点、ＤとＦを0点として、次の計算式によって平均点（GPA）を算出します。履修中止が認められた科目の単位数は、計算式の分母に含まれません。

$$GPA = \frac{（AAの修得単位数）\times 4 +（Aの修得単位数）\times 3 +（Bの修得単位数）\times 2 +（Cの修得単位数）\times 1}{履修総単位数（D, Fの単位数を含む）}$$

14. 追試験と特別追試験

追試験は、試験を受けられなかった者が後日、認定されて受験する試験のことです。
特別追試験は、追試験を受けられなかった者および追試験において不合格であった者が受験する試験のことです。

15. 再試験と特別再試験

再試験は、不合格になった科目について再び受験する試験のことです。
特別再試験は、再試験を受けられなかった者および再試験において不合格であった者が受験する試験のことです。

16. 再履修

単位を修得できなかった科目を、次学期以降に再び履修することです。

17. 科目等履修生

本学の学生でない者で本学の授業科目を履修する者のことです。

18. オフィスアワー

学生の質問・相談などに応じるための時間として、教員があらかじめ設定している時間帯のことです。
前期と後期とでは時間帯が異なる場合があります。

19. 学生便覧

学生生活に必要な学則や諸規程などを掲載している冊子のことです。
分からないとき、確かめたいときには学生便覧を開いてみてください。

20. 学則

学校の組織や教育課程、管理などについての事項を定めた規則のことです。

21. 卒業

学則に定められた全課程を履修し終えることです。
本学では、2年以上在学し、62単位以上を修得しなければなりません。

22. カリキュラムとカリキュラム・マップ

カリキュラムとは開講される科目全体を示した教育課程のことであり、カリキュラム・マップとは各々の科目の学習成果を示したものです。

23. 3つのポリシー

アドミッション・ポリシーとは入学者受け入れ方針、カリキュラム・ポリシーとは教育課程の編成方針、ディプロマ・ポリシーとは学位授与の方針のことです。

24. CAP制

授業科目には単位数が定められています。単位数は科目ごとに異なっており、 通常の講義科目では2単位、演習科目では1単位、実験・実習・実技科目では1単位となっています。
講義科目1単位は、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、また、演習科目1単位は、大学における30時間の演習に加えて15時間予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、さらに試験等により合格の評価を受けることで与えられるものです。つまり、単位を修得するには、教室外の自己学習時間が必要とされています。これは、多数の科目を履修すると、学習時間が確保できず、単位が取得できないことを意味します。
ある科目の単位を取得するには、その科目を履修することを学期(前期ならびに後期)の始めに登録する必要があります。単位取得に必要な学習時間の確保のため、各学生が1学期に履修を登録できる総単位数に上限を設定しています。これをCAP制といいます。

原則として、各期に履修登録できる総単位数の上限は、下記となっています。

1年前期	1年後期	2年前期	2年後期
30単位	25単位	25単位	20単位

ただし、下記の学外実習科目は上限を超えて履修登録できます。

両学科	英語Ⅴ(1単位)、ヨーロッパ文化(1単位)、ボランティア(1単位)
幼児教育学科	保育実習Ⅰ(4単位)・Ⅱ(2単位)・Ⅲ(2単位)、教育実習(5単位)の計13単位
フードデザイン学科	校外給食管理実習Ⅰ(1単位)・Ⅱ(1単位)、フードインターンシップ(1単位)、医療秘書実務実習(1単位)の計4単位

また、優秀な学生に対しては、より多くの科目の履修を認めます。前学期において、GPAが3.2以上の場合は、次の学期に2単位多く履修登録ができます。

25. カリキュラム編成及び科目の教育内容に学生の意見を反映させる仕組み

科目の教育内容やカリキュラムの編成に関する意見がある場合は、学期末に行われる授業評価アンケートの裏側の自由記述欄に意見を書いてください。授業内容やカリキュラム編成に関して、学科及び教務部にてその意見を検討します。

目　次

建学の精神と教育理念、教育目的･目標 …… 1
はじめに …… 2
履修上の留意事項 …… 3
目次 …… 6
幼児教育学科
カリキュラム・ポリシー …… 11
ディプロマ・ポリシー …… 12
カリキュラム・マップ …… 13
履修系統図 …… 15
開講一覧表（履修届控） …… 16
キリスト教概論 …… 19
信愛教育Ⅰ …… 20
信愛教育Ⅱ …… 21
信愛教育Ⅲ …… 22
信愛教育Ⅳ …… 23
英語Ⅰ …… 24
英語Ⅱ …… 25
英語Ⅲ …… 26
英語Ⅳ …… 27
英語Ⅴ …… 28
フランス語Ⅰ …… 29
フランス語Ⅱ …… 30
生活とスポーツⅠ …… 31
生活とスポーツⅡ …… 32
情報科学 …… 33
キャリアガイダンスⅠ …… 34
キャリアガイダンスⅡ …… 35
日本文学 …… 36
日本国憲法 …… 37
心理学 …… 38
ヨーロッパ文化 …… 39
生活と環境 …… 40
生命と自然 …… 41
基礎統計学 …… 42
ボランティア …… 43
保育原理 …… 44
教育原理 …… 45
教職基礎論 …… 46
社会福祉論 …… 47
子ども家庭福祉 …… 48
子ども家庭支援論 …… 49
社会的養護Ⅰ …… 50
社会的養護Ⅱ …… 51
発達心理学 …… 52
子どもの理解と援助 …… 53
保育方法･技術 …… 54
幼児理解 …… 55
子ども家庭支援の心理学 …… 56
保育･教育相談支援 …… 57
子どもの保健 …… 58
子どもの健康と安全 …… 59
子どもの食と栄養Ⅰ …… 60
子どもの食と栄養Ⅱ …… 61
教育課程論 …… 62
保育内容総論 …… 63
保育内容　健康 …… 64
保育内容　人間関係 …… 65
保育内容　環境 …… 66
保育内容　言葉 …… 67
保育内容　表現 …… 68
音楽表現 …… 69
造形表現 …… 70
身体表現 …… 71
言語表現 …… 72
保育指導法Ⅰ …… 73
保育指導法Ⅱ …… 74
乳児保育Ⅰ …… 75
乳児保育Ⅱ …… 76
特別支援教育･保育Ⅰ …… 77
特別支援教育･保育Ⅱ …… 78
声楽 …… 79
幼児音楽Ⅰ …… 80
幼児音楽Ⅱ …… 81
幼児音楽Ⅲ …… 82
ピアノⅠ …… 83
ピアノⅡ …… 84
ピアノ演奏法 …… 85
器楽合奏 …… 86
音楽保育 …… 87
基礎造形Ⅰ …… 88
基礎造形Ⅱ …… 89
体育 …… 90
モンテッソーリ教育法Ⅰ …… 91
モンテッソーリ教育法Ⅱ …… 92
レクリエーション概論 …… 93
スポーツ･レクリエーション概論 …… 94
レクリエーション指導法 …… 95
在宅保育論 …… 96
チャイルドプロジェクト …… 97
保育実習指導Ⅰ …… 98
保育実習指導Ⅱ …… 99
保育実習指導Ⅲ …… 100
保育実習Ⅰ …… 101
保育実習Ⅱ …… 102
保育実習Ⅲ …… 103
教育実習 …… 104
保育･教職実践演習（幼稚園） …… 105

フードデザイン学科
カリキュラム・ポリシー ・・・・・・・・・・ 109
ディプロマ・ポリシー ・・・・・・・・・・ 110
カリキュラム・マップ ・・・・・・・・・・ 111
履修系統図 ・・・・・・・・・・ 113
開講一覧表（履修届控） ・・・・・・・・・・ 114
キリスト教概論 ・・・・・・・・・・ 116
信愛教育Ⅰ ・・・・・・・・・・ 117
信愛教育Ⅱ ・・・・・・・・・・ 118
信愛教育Ⅲ ・・・・・・・・・・ 119
信愛教育Ⅳ ・・・・・・・・・・ 120
英語Ⅰ ・・・・・・・・・・ 121
英語Ⅱ ・・・・・・・・・・ 122
英語Ⅲ ・・・・・・・・・・ 123
英語Ⅳ ・・・・・・・・・・ 124
英語Ⅴ ・・・・・・・・・・ 125
フランス語Ⅰ ・・・・・・・・・・ 126
フランス語Ⅱ ・・・・・・・・・・ 127
キャリアガイダンスⅠ ・・・・・・・・・・ 128
キャリアガイダンスⅡ ・・・・・・・・・・ 129
日本文学 ・・・・・・・・・・ 130
日本国憲法 ・・・・・・・・・・ 131
心理学 ・・・・・・・・・・ 132
ヨーロッパ文化 ・・・・・・・・・・ 133
生活と環境 ・・・・・・・・・・ 134
生命と自然 ・・・・・・・・・・ 135
基礎統計学 ・・・・・・・・・・ 136
ボランティア ・・・・・・・・・・ 137
公衆衛生学 ・・・・・・・・・・ 138
社会福祉概論 ・・・・・・・・・・ 139
解剖学 ・・・・・・・・・・ 140
生理学 ・・・・・・・・・・ 141
生化学Ⅰ ・・・・・・・・・・ 142
生化学Ⅱ ・・・・・・・・・・ 143
生化学実験 ・・・・・・・・・・ 144
食品学総論 ・・・・・・・・・・ 145
食品学各論 ・・・・・・・・・・ 146
食品学実験 ・・・・・・・・・・ 147
食品加工学実習 ・・・・・・・・・・ 148
食品衛生学 ・・・・・・・・・・ 149
食品衛生学実験 ・・・・・・・・・・ 150
基礎栄養学Ⅰ ・・・・・・・・・・ 151
基礎栄養学Ⅱ ・・・・・・・・・・ 152
応用栄養学Ⅰ ・・・・・・・・・・ 153
応用栄養学Ⅱ ・・・・・・・・・・ 154
応用栄養学実習 ・・・・・・・・・・ 155
臨床栄養学概論 ・・・・・・・・・・ 156
臨床栄養学実習 ・・・・・・・・・・ 157
栄養指導論 ・・・・・・・・・・ 158
栄養指導演習 ・・・・・・・・・・ 159
栄養士情報処理演習 ・・・・・・・・・・ 160
栄養指導実習 ・・・・・・・・・・ 161
公衆栄養学概論 ・・・・・・・・・・ 162
調理学 ・・・・・・・・・・ 163
基礎調理学実習Ⅰ ・・・・・・・・・・ 164
基礎調理学実習Ⅱ ・・・・・・・・・・ 165
応用調理学実習Ⅰ ・・・・・・・・・・ 166
応用調理学実習Ⅱ ・・・・・・・・・・ 167
給食計画論 ・・・・・・・・・・ 168
給食実務論 ・・・・・・・・・・ 169
給食管理実習Ⅰ ・・・・・・・・・・ 170
給食管理実習Ⅱ ・・・・・・・・・・ 171
校外給食管理実習Ⅰ ・・・・・・・・・・ 172
栄養士基礎演習 ・・・・・・・・・・ 173
フードプロジェクトⅠ ・・・・・・・・・・ 174
フードプロジェクトⅡ ・・・・・・・・・・ 175
フードプロジェクトⅢ ・・・・・・・・・・ 176
フードプロジェクトⅣ ・・・・・・・・・・ 177
栄養・生化学演習 ・・・・・・・・・・ 178
栄養士総合演習Ⅰ ・・・・・・・・・・ 179
栄養士総合演習Ⅱ ・・・・・・・・・・ 180
校外給食管理実習Ⅱ ・・・・・・・・・・ 181
フードアナリスト概論 ・・・・・・・・・・ 182
フードアレンジ演習 ・・・・・・・・・・ 183
フードインターンシップ ・・・・・・・・・・ 184
製菓・製パン演習 ・・・・・・・・・・ 185
医療事務総論 ・・・・・・・・・・ 186
情報処理演習 ・・・・・・・・・・ 187
医療事務演習 ・・・・・・・・・・ 188
医療秘書実務学 ・・・・・・・・・・ 189
医療秘書実務実習 ・・・・・・・・・・ 190
介護概論 ・・・・・・・・・・ 191
薬と検査 ・・・・・・・・・・ 192
マークシートの記入法 ・・・・・・・・・・ 193

幼児教育学科

幼児教育学科の皆さんへ

幼児教育学科の教育目的・目標は「自己を他者に生かす喜びを知り、子どもとの関わりの中で実践できる保育者を養成する。そのために子どもの発達の理解と支援に必要な知識、保育方法・技術を身につけた保育者を育成する」です。

この教育目的・目標をかなえるため、次項のカリキュラム・マップにそったカリキュラムを用意しています。

また、皆さんの興味・関心に合わせて学びを深めるために、以下の3つのプログラムの科目、プラスαの学びとして、幼児教育・保育に関係する資格を取得するための科目を開講しています。

〇モンテッソーリ教育プログラム

専用の演習室において、モンテッソーリの理論と独自の教具を使った実践を行い、モンテッソーリ教育の基本を学びます。

〇音楽教育プログラム

音楽に関するより専門的で高度な技術を習得し、音楽面に秀でた保育者を目指します。

〇子育て支援プログラム

認定ベビーシッターの資格取得を目指した学びの中で、子育て支援に関するより深い知識と技術を見につけます。

さらにプラスαの学びとして、レクリエーション・インストラクターやスポーツ・レクリエーション指導者の資格取得を目指した学びの中で、仲間づくりや人々のふれあい活動を支援する力を養うことができます。

どの科目を履修すれば良いか、しっかりと考えて選択することはとても大切です。単に免許、資格を取得するために履修科目を決定するのではなく、将来、保育者として地域社会に貢献するために「今、何を学ぶべきか」を考え、また、子どもたちの成長に深く関与するためには「どんな能力を伸ばし、どのような適性を身に付けなければならないか」を考えて履修科目を選択しましょう。

今、保育者には単に保育技術だけでなく、家族に対する支援や地域社会との連携など様々なことが求められています。そのためにも、積極的に学ぶことは将来の大きな糧となります。これからの2年間で皆さんが大きく成長されることを期待しています。

幼児教育学科長

カリキュラム・ポリシー

教育目的・目標に基づいた幼児教育学科のカリキュラム・ポリシー(教育課程編成・実施の方針)は以下の通りです。

幼児教育学科は、ディプロマ・ポリシーに掲げた目標を達成するため以下の教育内容と方法を実施する。

1. 教育内容

① 全学科共通の「信愛教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、「キリスト教概論」を履修し、キリストの教えに基づく価値観を土台に人格形成の基本を養う。

② 基礎教育科目群の履修を通して、現代社会に生きる人間としての教養を身につけるとともに、キャリアガイダンスⅠ・Ⅱ」で自らのキャリアを考え、社会人としての基礎を築く。

③ 「乳児保育Ⅰ・Ⅱ」、「特別支援教育・保育Ⅰ・Ⅱ」、「発達心理学」と保育内容科目群の履修を通して子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深めて、一人ひとりの子どもの発達についての対応を学ぶ。

④ 子どもの保健や食と栄養に関する科目群の履修を通して、子どもの発達に合わせた支援の方法を学ぶ。また、「教育課程論」、「子どもの理解と援助」、「保育指導法Ⅰ・Ⅱ」、「保育方法・技術」、「モンテッソーリ教育法Ⅰ・Ⅱ」を通して、子どもの発達に合わせた保育の考え方や方法を学ぶ。

⑤ 言語・音楽・身体・造形表現に関する科目群を通して保育者に求められる表現の技術の習得を図る。

⑥ 保育実習・教育実習の事前に実習の計画・準備、実習後に振り返りを行い、その中で保育者になるための自己研鑽を行う。また「保育・教職実践演習(幼稚園)」のなかで実習を含む今までの学習を振り返り、自己の不足している点を明らかにし、それを補う学びを行い自己の研鑽力を高めて行く。

⑦ 「保育原理」「教育原理」「教職基礎論」の履修を通して日本の保育制度や基本的考え方などについて学ぶとともに、目指すべき保育者像を明らかにしてゆく。また社会福祉関係の科目群の履修を通して社会福祉の制度等の基本的な知識、現代社会における福祉の考え方などを学ぶとともに、実際の相談支援の方法等についての知識の習得を図る。そして教育実習・保育実習を通して保育の実際を学び、その中で子どもを取り巻く環境や保育者の使命についての理解を深める。

⑧ 「チャイルドプロジェクト」や選択科目群を自分の興味・関心に合わせて履修し、自らの研究課題設定やグループワークを通して学びの中で創意工夫する力を養う。

2. 教育方法

① 学修に対する自己評価、履修カルテの活用などを通して学びのフィードバックを行い、教育目的・目標に基づいたカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーの整合性を図る。

② 専門教育科目では模擬保育などのロールプレイの手法を取り入れ、学生が実践力を高めることを図る。

③ ピアノなど個別の能力差のある分野については、個別指導を行い個々の能力に合わせた指導を実施する。

④ 主体的な学びの力を高めるために「チャイルドプロジェクト」や選択科目群の中でアクティブ・ラーニングを取り入れた教育方法を実施する。

ディプロマ・ポリシー

教育目的・目標に基づいた本学及び幼児教育学科のディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）は以下の通りです。

卒業までに身につけることとして、以下に掲げることが求められる。その所定の単位を修めた学生には卒業を認定し、短期大学士の学位を授与する。

全学共通カリキュラムの「信愛教育Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を履修し、キリストの教えに基づく豊かな人格形成の基本を養うとともに、専門領域の学習の土台を培う。

所属学科における理論的・実践的授業を履修し、地域社会に専門的職業を通して貢献できる総合能力である以下の8項目を身につける。

幼児教育学科は、

1. キリストの教えに基づく価値観を土台とした子どもとの関わりを実践できる。
2. 現代社会に生きる人間に必要な教養を身につけ、社会の一員として責任ある行動ができる。
3. 子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深め、一人ひとりの子どもに対応した関わりができる。
4. 子どもの発達に合わせた支援の方法を身につけ、それを保育計画・実践に活用できる。
5. 保育者として必要な表現技術を習得し、子どもや保護者との円滑なコミュニケーションができる。
6. 保育者に求められる自己研鑽力を身につけ、保育者としての能力を伸ばすことができる。
7. 子どもを取り巻く環境と保育者の果たす使命を知り、家庭や地域社会に保育者として貢献できる。
8. 創意工夫して実践する力を養い、保育の実践に活用できる。

幼児教育学科　カリキュラム・マップ

ディプロマ・ポリシー8つの項目によるカリキュラム・マップ

ポイント　　◎：2ポイント　○：1ポイント

領域・分野	授業科目	ディプロマ・ポリシー							
		1	2	3	4	5	6	7	8
基礎教育科目	キリスト教概論	◎	○						
	信愛教育Ⅰ	◎	○						
	信愛教育Ⅱ	◎	○						
	信愛教育Ⅲ	◎	○						
	信愛教育Ⅳ	◎	○						
	英語Ⅰ		◎						
	英語Ⅱ		◎						
	英語Ⅲ		◎						
	英語Ⅳ		◎						
	英語Ⅴ		◎						
	フランス語Ⅰ		◎						
	フランス語Ⅱ		◎						
	生活とスポーツⅠ		◎		○				
	生活とスポーツⅡ		◎	○	○				
	情報科学					◎			○
	キャリアガイダンスⅠ		◎					○	
	キャリアガイダンスⅡ		◎					○	
	日本文学		◎						
	日本国憲法		◎					○	
	心理学		◎	○	○				
	ヨーロッパ文化	○	◎						
	生活と環境		◎						
	生命と自然		◎				○	○	
	基礎統計学		◎						
	ボランティア	◎	○						
専門教育科目	保育原理		○				○	◎	
	教育原理		○				○	◎	
	教職基礎論							◎	
	社会福祉論		○				○	◎	
	子ども家庭福祉		○	○			○	◎	
	子ども家庭支援論						○	◎	
	社会的養護Ⅰ			○				◎	
	社会的養護Ⅱ			○	○		○	◎	
	発達心理学			◎	○			○	
	子どもの理解と援助			○	◎			○	
	保育方法・技術				◎		○		○
	幼児理解			○				◎	
	子ども家庭支援の心理学			○	○			◎	
	保育・教育相談支援			○	○			◎	○
	子どもの保健			○	◎			○	
	子どもの健康と安全			○	◎				
	子どもの食と栄養Ⅰ			○	◎			○	
	子どもの食と栄養Ⅱ			○	◎			○	
	教育課程論				◎				○
	保育内容総論			◎	○				
	保育内容　健康			◎	○				
	保育内容　人間関係			◎	○				
	保育内容　環境			◎	○			○	
	保育内容　言葉			◎	○				
	保育内容　表現			◎	○	○		○	
	音楽表現					◎	○		○

専門教育科目	造形表現					◎			○
	身体表現				○	◎			○
	言語表現					◎			○
	保育指導法Ⅰ			○	◎		○	○	○
	保育指導法Ⅱ			○	○	○	◎		
	乳児保育Ⅰ			◎	○			○	
	乳児保育Ⅱ			◎	○			○	
	特別支援教育・保育Ⅰ			◎	○			○	
	特別支援教育・保育Ⅱ			○	◎			○	
	声楽					◎			
	幼児音楽Ⅰ					◎	○		
	幼児音楽Ⅱ					◎	○		
	幼児音楽Ⅲ					◎			○
	ピアノⅠ					◎	○		
	ピアノⅡ					◎	○		
	ピアノ演奏法					◎	○	○	
	器楽合奏				○	◎			
	音楽保育					○			◎
	基礎造形Ⅰ					◎			○
	基礎造形Ⅱ					◎			○
	体育				○	◎	○		○
	モンテッソーリ教育法Ⅰ				◎				○
	モンテッソーリ教育法Ⅱ				◎				○
	レクリエーション概論								◎
	スポーツ・レクリエーション概論				○			○	◎
	レクリエーション指導法				○	○	○		◎
	在宅保育論				○			◎	○
	チャイルドプロジェクト						○		◎
	保育実習指導Ⅰ						◎	○	○
	保育実習指導Ⅱ			○	○	○	◎		
	保育実習指導Ⅲ			○	○		◎	○	
	保育実習Ⅰ						○	◎	○
	保育実習Ⅱ						○	◎	
	保育実習Ⅲ			○	○		○	◎	
	教育実習			○	○			◎	
	保育・教職実践演習（幼稚園）						◎	○	○
ポイント合計		13	46	40	49	37	31	53	28
ポイント割合（%）		4.4	15.5	13.5	16.5	12.5	10.4	17.8	9.4

履修系統図〔幼児教育学科〕

ディプロマ・ポリシー	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	備考
キリストの教えに基づく価値観を土台とした子どもとの関わりを実践できる	キリスト教概論 信愛教育Ⅰ	信愛教育Ⅱ	信愛教育Ⅲ	信愛教育Ⅳ ボランティア	
現代社会に生きる人間に必要な教養を身につけ、社会の一員として責任ある行動ができる	英語Ⅰ フランス語Ⅰ 生活とスポーツⅠ 情報科学 キャリアガイダンスⅠ 日本文学 心理学 生活と環境 生命と自然 日本国憲法 基礎統計学	英語Ⅱ フランス語Ⅱ 生活とスポーツⅡ	英語Ⅲ キャリアガイダンスⅡ	英語Ⅳ	英語Ⅴ ヨーロッパ文化
子どもの心身の発達についての知識を習得し、子ども理解を深め、一人ひとりの子どもに対応した関わりができる	保育内容総論 保育内容　人間関係 保育内容　表現	乳児保育Ⅰ 特別支援教育・保育Ⅰ 発達心理学 保育内容　健康	乳児保育Ⅱ 保育内容　言葉 保育内容　環境		
子どもの発達に合わせた支援の方法を身につけ、それを保育計画・実践に活用できる		保育方法・技術 教育課程論 子どもの保健	特別支援教育・保育Ⅱ 保育指導法Ⅰ 子どもの食と栄養Ⅰ 子どもの健康と安全 モンテッソーリ教育法Ⅰ	子どもの理解と援助 保育指導法Ⅱ 子どもの食と栄養Ⅱ モンテッソーリ教育法Ⅱ	
保育者として必要な表現技術を習得し、子どもや保護者との円滑なコミュニケーションができる	言語表現 声楽 ピアノⅠ 基礎造形Ⅰ	幼児音楽Ⅰ ピアノⅡ 基礎造形Ⅱ	音楽表現 幼児音楽Ⅱ ピアノ演奏法 造形表現 体育	器楽合奏 幼児音楽Ⅲ 身体表現	
保育者に求められる自己研鑽力を身につけ、保育者としての能力を伸ばすことができる	保育実習指導Ⅰ 教育実習指導	保育実習指導Ⅱ		保育・教職実践演習（幼稚園） 保育実習指導Ⅲ	
子どもを取り巻く環境と保育者の果たす使命を知り、家庭や地域社会に保育者として貢献できる	教育原理 社会福祉論 子ども家庭福祉 幼児理解 教育実習 保育実習Ⅰ	教職基礎論 保育原理 社会的養護Ⅰ	子どもの家庭支援の心理学 子ども家庭支援論 社会的養護Ⅱ 保育実習Ⅱ	保育・教育相談支援 在宅保育論 保育実習Ⅲ	
創意工夫して実践する力を養い、保育の実践に活用できる		レクリエーション概論 チャイルドプロジェクト	レクリエーション指導法	音楽保育 スポーツ・レクリエーション概論	

開講一覧表
（履修届控）

クラス		番号		氏名	印

令和2年度入学 幼児教育学科			単位									履修届(単位)				修得単位				合計修得単位	問番号マークシート
												1年		2年		1年		2年			
			学則	開講	卒業必修		教職必修	保育必修	レク必修	スポレク必修	ベビ必修	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
基礎教育科目	キリスト教概論	講	2	2	2							2									1
	信愛教育Ⅰ	演	1	1	1							1									2
	信愛教育Ⅱ	演	1	1	1			＊5			＊5		1								3
	信愛教育Ⅲ	演	1	1	1									1							4
	信愛教育Ⅳ	演	1	1	1										1						5
	英語Ⅰ	演	1	1			＊3					1									6
	英語Ⅱ	演	1	1									1								7
	英語Ⅲ	演	1	1	＊1									1							8
	英語Ⅳ	演	1	1				2			2				1						9
	英語Ⅴ	演	1	1								1									10
	フランス語Ⅰ	演	1	1	＊2		＊4					1									11
	フランス語Ⅱ	演	1	1									1								12
	生活とスポーツⅠ	講	1	1	1		1	1			1	1									13
	生活とスポーツⅡ	実	1	1	1		1	1			1	1									14
	情報科学	講	2	2			2					2									15
	キャリアガイダンスⅠ	演	1	1								1									16
	キャリアガイダンスⅡ	演	1	1										1							17
	日本文学	講	2	2								2									18
	日本国憲法	講	2	2			2					2									19
	心理学	講	2	2				＊5			＊5	2									20
	ヨーロッパ文化	演	1	1	2							1									21
	生活と環境	講	2	2								2									22
	生命と自然	講	2	2								2									23
	基礎統計学	講	2	2								2									24
	ボランティア	演	1	1								1									25
	小計		33	33	12		8	10	0	0	10	20	3	2	2						
専門教育科目	保育原理	講	2	2	2			2			2		2								26
	教育原理	講	2	2			2	2			2	2									27
	教職基礎論	講	2	2			2	2			2		2								28
	社会福祉論	講	2	2				2			2	2									29
	子ども家庭福祉	講	2	2	2			2			2	2									30
	子ども家庭支援論	講	2	2				2			2			2							31
	社会的養護Ⅰ	講	2	2				2			2		2								32
	社会的養護Ⅱ	演	1	1				1			1			1							33
	発達心理学	講	2	2			2	2			2		2								34
	子どもの理解と援助	演	1	1				1			1				1						35
	保育方法・技術	演	1	1			1	＊7			＊7		1								36
	幼児理解	講	2	2			2					2									37
	子ども家庭支援の心理学	講	2	2				2			2			2							38
	保育・教育相談支援	演	1	1			1	1			1				1						39

1年前期		1年後期		2年前期		2年後期	
本人印	受付印	本人印	受付印	本人印	受付印	本人印	受付印

区分	科目		単位									履修届(単位)				修得単位				合計修得単位	問番号マークシート
			学則	開講	卒業必修		教職必修	保育必修	レク必修	スポレク必修	ベビ必修	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期		
専門教育科目	子どもの保健	講	2	2	2			2			2		2								40
	子どもの健康と安全	演	1	1				1			1			1							41
	子どもの食と栄養Ⅰ	演	1	1				1			1			1							42
	子どもの食と栄養Ⅱ	演	1	1				1			1				1						43
	教育課程論	講	2	2			2	2			2		2								44
	保育内容総論	演	1	1			1	1			1	1									45
	保育内容健康	演	1	1			1	1			1		1								46
	保育内容人間関係	演	1	1			1	1			1	1									47
	保育内容環境	演	1	1			1	1			1			1							48
	保育内容言葉	演	1	1			1	1			1			1							49
	保育内容表現	演	1	1			1	1			1	1									50
	音楽表現	演	1	1			1	1			1			1							51
	造形表現	演	1	1			1	1	*10	*10	1			1							52
	身体表現	演	1	1			1	1			1				1						53
	言語表現	演	1	1			1	1			1	1									54
	保育指導法Ⅰ	演	1	1			1	*7			*7			1							55
	保育指導法Ⅱ	演	1	1			1								1						56
	乳児保育Ⅰ	講	2	2	2			2			2		2								57
	乳児保育Ⅱ	演	1	1				1			1			1							58
	特別支援教育・保育Ⅰ	演	1	1			1	1			1		1								59
	特別支援教育・保育Ⅱ	演	1	1				1			1			1							60
	声楽	演	1	1	1			*7			*7	1									61
	幼児音楽Ⅰ	演	1	1	1		*6						1								62
	幼児音楽Ⅱ	演	1	1	1									1							63
	幼児音楽Ⅲ	演	1	1	1										1						64
	ピアノⅠ	演	1	1	1		*6					1		(1)							65
	ピアノⅡ	演	1	1	1								1		(1)						66
	ピアノ演奏法	演	1	1				*7			*7			1							67
	器楽合奏	演	1	1	1										1						68
	音楽保育	演	1	1				*7			*7				1						69
	基礎造形Ⅰ	演	1	1	1		1					1									70
	基礎造形Ⅱ	演	1	1	1								1								71
	体育	演	1	1	1		1							1							72
	モンテッソーリ教育法Ⅰ	演	1	1										1							73
	モンテッソーリ教育法Ⅱ	演	1	1											1						74
	レクリエーション概論	講	2	2					2	2			2								75
	スポーツ・レクリエーション概論	講	2	2						2					2						76
	レクリエーション指導法	演	1	1					1	1				1							77

クラス		番号		氏名	印

区分	科目		単位 学則	開講	卒業必修		教職必修	保育必修	レク必修	スポレク必修	ベビ必修	履修届(単位) 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	修得単位 1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	合計 修得単位	問番号 マークシート
専門教育科目	在宅保育論	講	2	2							2				2						78
	チャイルドプロジェクト	演	2	2	2			*7			*7		2								79
	保育実習指導Ⅰ	演	2	2				2			2	2									80
	保育実習指導Ⅱ	演	1	1				*8			*8		1								81
	保育実習指導Ⅲ	演	1	1				*9			*9				1						82
	保育実習Ⅰ	実	4	4				4	*11	*11	4	4									83
	保育実習Ⅱ	実	2	2				*8			*8	2									84
	保育実習Ⅲ	実	2	2				*9			*9	2									85
	教育実習	実	5	5			5		*11	*11		5									86
	保育・教職実践演習(幼稚園)	演	2	2			2	2			2				2						87
	小計		90	90	20	30	35	60	8	10	62	15	22	19	16						
合計			123	123	32	30	43	70	8	10	72	35	25	21	18						

*1 または *2 のいずれか2単位以上
*3 または *4 のいずれか2単位以上
*5 いずれか6単位以上
*6 いずれか1単位以上
*7 いずれか6単位以上
*8 または *9 のいずれか3単位以上
*10 いずれか1単位以上
*11 いずれか4単位以上、

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
キリスト教概論 Intoduction to Christianity	1 年前期	講義	2	卒業必修 資格選択必修	横田 君代

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	◎	○						

授業の目的	旧約聖書による人間像を学ぶ。神の似姿として創造された人間本来の姿を学び、命の尊さを心に刻む。同時に(原)罪を犯した結果、弱さを背負い、闇の中で生き続ける人間の現実について知る。また、新約聖書を通して、その弱い人間を救いに来られたイエスの教えを学ぶ。愛とゆるしに貫かれたイエスの教えをもとに、キリスト教的価値観について学びながら、生きることの意味や、人間本来の在り方、真の幸せについて深く考察する。
到達目標	1. キリスト教的人間像に基づく人本来の在り方と命の尊さを心に刻む。 2. 人生において、特に重大な決断や判断のために、基準となる価値観を身につける。 3. 特に、愛とゆるしなどのキリスト教的価値観の重要性の認識を深め、学んだことを日常生活に活かせるようになる。
授業の概要	授業のテーマに即した聖書の箇所を、聖書本文と視聴覚教材などを用いて学び、聖書からのメッセージを読み取る。また、グループワークによる分かち合いを通して、他の人の考えを尊重する態度を養う。 毎回の授業では、配布プリントに従って、学んだ内容の振り返りと感想を書く。

授業計画

1	オリエンテーション 授業内容と授業のねらいについて学ぶ。キリスト教における基本用語を知る。「聖書」という書物を概観する。	9	イエス・キリストの生涯(1) 人となられた神の子、イエス・キリストについて基本的なことを知る。イエスの生涯を概観する。
2	旧約聖書による人間像(1) 「天地創造」を通して、なぜ人間と世界が存在するのかを知り、その世界をどのように守っていくのかを考える。	10	イエス・キリストの宣教生活と教え(1) イエスの教える幸福とは何か？ 山上の垂訓を通して考える。(グループワーク)
3	旧約聖書による人間像(2) 神の似姿として造られた人間の命の尊さと性の意味を学ぶ (グループワーク)	11	イエス・キリストの宣教生活と教え(2) キリスト教におけるもっとも重要な教え「愛すること」について学ぶ。キリスト教的愛の概念について知る。
4	旧約聖書による人間像(3) (原)罪について学ぶ。人間の悪や苦しみの理由について考察する。(グループワーク)	12	イエス・キリストの宣教生活と教え(3) イエスの教える正義。正義は愛の始まりであることを知る。(グループワーク)
5	旧約聖書による人間像(4) 罪を犯し、神を離れた人間がどのようなものであるかを考察する。(グループワーク)	13	イエス・キリストの受難と復活(1) イエス・キリストの救いの業の頂点である受難と復活について基本的なことを学ぶ。
6	旧約聖書における人間像(5) モーセの物語を通して、神と人間の関係について学ぶ。(グループワーク)	14	イエスの受難と復活(2) イエス・キリストの受難をとおして、苦しみの意味ついて学び、復活が何を意味するのかについて考察する。
7	旧約聖書における人間像(6) 人間を向上させるルール、十戒を通して、規則と自由について学ぶ。(グループワーク)	15	小テスト(2) 9～14回までのまとめと小テスト
8	小テスト(1) 1～7回までの旧約聖書による人間像についてのまとめと小テスト		

成績評価の方法・基準	2回の小テスト(80%)、毎回の授業の感想、および受講態度(20%)で評価する。	
留意事項	毎回、聖書を持参すること。 授業の進行状況によって、順番が入れ替わったり内容が少し変わったりする可能性もある。	
準備学習 (予習・復習等)	次の授業で扱われる聖書の箇所を、事前に読んでおく。小テスト前にはそれまで習ったことをしっかりと復習して準備する。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	授業の振り返り(配布プリント)を中心に復習する。小テストの解答・解説は次の時間に行うので、理解できていなかった点を学びなおす。	
テキスト	「聖書」新共同訳(日本聖書協会) プリント配布	
参考書等	「信愛教育ガイドブック」 久留米信愛短期大学	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
信愛教育Ⅰ Shin-Ai Education Ⅰ	1年前期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	宗教部長・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	◎	○						

授業の目的	「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って、社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅰでは＜愛と奉仕＞をテーマとして、ボランティア活動を体験し、愛と奉仕の精神を身につける。
到達目標	1. ＜ボランティア＞についての理解が深まる。 2. ボランティア活動の体験を通して、自己を他者に生かすことのすばらしさを味わう。 3. 愛と奉仕の精神が身につく。
授業の概要	全学礼拝をもって授業を始める。＜愛と奉仕＞をテーマとし、学長講話、外部講師の講演等を通して「自己を他者に生かすこと」「愛と奉仕」「ボランティア活動を行うための心構え」を学び、グループワークで、ボランティア活動の準備と実践計画を立て、ボランティア活動を実践する。

授業計画

1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 1. 2020 年度の年度目標についての説明 2.「愛と奉仕」を具体化するためのクラス目標を立てる	9	朝の祈り（小グループ活動） 「有意義な短大生活を送るために」 1・2年合同 分かち合い （グループワーク）
2	朝の祈り 学友会活動 教職員紹介・クラブ紹介	10	全学礼拝 学友会活動（定期総会） 一年間の学友会活動 について
3	全学礼拝 聖母祭聖歌練習	11	全学礼拝 講演:「ボランティアについて」（外部講師）
4	聖母祭 （神の母聖マリアを讃える宗教行事） ① 講話: 「救い主の母」聖母マリアについて ② みことばの祭儀	12	朝の祈り（小グループ活動）「ボランティア活動①」 ２～３人で活動について調べ、資料を作る （グループワーク）
5	朝の祈り 学長講話 「自己を他者に生かす」	13	朝の祈り（小グループ活動）「ボランティア活動②」 資料について発表を行い、小グループで 実践の日時、場所を決める （グループワーク）
6	チャペル礼拝（学年・学科別） チャペルにて静かな祈りの一時を体験する	14	朝の祈り（小グループ活動） 「ボランティア活動③」 （グループワーク）
7	朝の祈り（学科・学年・クラス別） 「愛と奉仕」・・・愛に生きる （ビデオ鑑賞）	15	朝の祈り（小グループ活動） ＜ボランティア活動＞実践の反省と感想 （グループワーク）
8	朝の祈り 「安全について」 （講演とビデオ鑑賞）		

成績評価の方法・基準	受講態度(20%) ノート(35%) レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。	
留意事項	積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。	
準備学習 （予習・復習等）	ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。	
テキスト	「聖書」 新共同訳 日本聖書協会、 プリント配布	
参考書等	カトリック聖歌集、 典礼聖歌集	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
信愛教育Ⅱ Shin-Ai Education Ⅱ	1年後期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	宗教部長・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	◎	○						

授業の目的	「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅱでは、「人間の尊厳」をテーマとして、自己を他者に生かす隣人愛への実践の必要性を再認識する。
到達目標	1. 人間は等しく尊い存在であることを理解するようになる。 2. 人間は神の似姿であることを知るようになる。 3. 人間の尊厳のために隣人愛が不可欠であることの理解が深まる。
授業の概要	全学礼拝によって授業を始める。＜人間一人ひとりの存在の尊さ＞をテーマとし、学長講話、外部講師の講演やビデオ鑑賞等を通して、「人間は等しく尊い存在」「人間は神の似姿である」ことについて学ぶ。10月の練成会は＜人間の尊厳＞について祈り熟考する時をもつ。12月にクリスマス祭を行う。

授業計画

1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 錬成会の聖歌練習	9	追悼祭 （亡くなられた恩人・親族・友人のために祈る） ① 講話 死について ② みことばの祭儀
2	朝の祈り （クラス別活動） （ビデオ鑑賞） M・コルベ神父の生き方から「人間一人ひとりかけがえのない尊い存在であること」を学ぶ	10	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 学長講話 「人間は等しく尊い存在」
3	朝の祈り （クラス別活動） 担任・副担任の講話 「一人ひとりを大切にするとは」	11	全学礼拝 学友会活動 （定期総会） 学友会新総務委員長の選出等
4	練成会(Ⅰ): テーマ ＜人間一人ひとり存在の尊さ＞ 指導司祭による講話 (1)	12	全学礼拝 クリスマス・ミサのための聖歌練習
5	練成会(Ⅱ): 指導司祭による講話 (2) グループワーク （分かち合い）	13	クリスマス祭 ① 講話: クリスマスについて ② クリスマス・ミサ
6	練成会(Ⅲ): 各クラス内で、小グループの発表とまとめ クラス別発表と講評 ・ みことばの祭儀	14	朝の祈り 理事長講話 「学院創立について」
7	全学礼拝 学友会活動 （信愛祭に向けて） リーダーシップ・責任感・協調性を培う	15	朝の祈り(小グループ活動) 「人間の尊厳」についての講話・講演等をふまえて、各グループで討議し、各自でまとめる。（グループワーク）
8	全学礼拝 追悼祭の聖歌練習		

成績評価の方法・基準	受講態度(20%) ノート(35%) レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。	
留意事項	積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。	
準備学習 （予習・復習等）	ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。	
テキスト	「聖書」 新共同訳 日本聖書協会、 プリント配布	
参考書等	カトリック聖歌集、 典礼聖歌集	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
信愛教育Ⅲ Shin-Ai Education Ⅲ	2年前期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	宗教部長・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	◎	○						

授業の目的	「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって、建学の精神を浸透させること、特に、信愛教育Ⅲでは、＜賜物としての生命＞をテーマとして、キリストの教えに基づいた＜生命＞について理解する。
到達目標	1. 人間に与えられた「賜物としての生命」を学ぶ。 2. 宗教・人種・性別・個性等の違いを認め合い、理解する。 3.「共に生きる社会」を自覚できるようになる。
授業の概要	全学礼拝をもって授業を始める。＜賜物としての生命＞について、学長講話、外部講師による講演、ビデオ鑑賞等を通して学び、また、「命の尊さ」について事例研究を各自で行い、発表しまとめをグループワークで行う。

授業計画

1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 1. 2021年度の年度目標についての説明 2. 年度目標を具体化するためのクラス目標を立てる	9	朝の祈り　(クラス別活動) 「有意義な短大生活を送るために」 1・2年合同　小グループ分かち合い
2	朝の祈り 学友会活動・・・教職員紹介、クラブ紹介	10	全学礼拝 学友会活動（定期総会） 一年間の学友会活動　について
3	全学礼拝 聖母祭の聖歌練習	11	全学礼拝 講演:「貧困や飢餓に苦しむ海外の子供たち」 （外部講師）
4	聖母祭　(神の母聖マリアを讃える宗教行事) ① 講話: 「神の母」聖マリアについて ② みことばの祭儀	12	朝の祈り（小グループ活動） 各自研究したことを発表する。② （グループワーク ）
5	全学礼拝 学長講話 「賜物としての生命」について	13	朝の祈り 事例の調査と各自の発表を通してグループ討議し、まとめる ③　（グループワーク ）
6	チャペル礼拝　(学年・学科別) チャペルにて静かな祈りの一時を体験する	14	全学礼拝 学友会活動 学生生活活性化のために
7	朝の祈り　(学年・学科・クラス別活動) 「安全について」　(講演とビデオ鑑賞)	15	朝の祈り（小グループ活動） 「賜物としての生命」についての講話・講演をふまえて各グループで討議し、各自でまとめる。（グループワーク）
8	朝の祈り　(クラス別活動) 対立している事例を調べる。① （グループワーク ）		

成績評価の方法・基準	受講態度(20%)　ノート(35%)　レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。	
留意事項	積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。	
準備学習 （予習・復習等）	ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。	
テキスト	「聖書」 新共同訳　日本聖書協会、　プリント配布	
参考書等	カトリック聖歌集、 典礼聖歌集	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
信愛教育Ⅳ Shin-Ai Education Ⅳ	2年後期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	宗教部長・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	◎	○						

授業の目的	「キリストの教えに基づいた真の価値観と豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を理解し、実践することによって建学の精神を浸透させること、特に信愛教育Ⅳでは＜世界の平和＞をテーマとし、本当の意味での＜平和＞について学び、実践することを目的とする。
到達目標	1. キリスト教と平和の関係がわかるようになる。 2. 愛と正義が平和の支えであることを悟るようになる。 3. 平和のために、自己を他者に生かす生き方を実践するようになる。
授業の概要	全学礼拝をもって授業を始める。＜世界の平和＞をテーマとし、学長講話、担任・副担任講話、練成会、クリスマス祭等を通して、「平和への努力」、「コミュニケーションの大切さ」等を学ぶ。10月には「平和」について考え祈る練成会、11月には亡くなられた方々のための追悼祭、12月にクリスマス祭を行う。

授業計画

1	全学礼拝(聖歌・祈り・聖書朗読) 錬成会の聖歌練習	9	追悼祭 （亡くなられた恩人・親族・友人のために祈る） ① 講話 死について ② みことばの祭儀
2	朝の祈り ＜平和について＞ ノーベル平和賞受賞者マザー・テレサのビデオ鑑賞	10	全学礼拝 学長講話 「平和への努力」
3	朝の祈り 担任・副担任の講話 「コミュニケーションの大切さ」について	11	全学礼拝 学友会活動 （定期総会） 学友会新総務委員長の選出等
4	練成会(Ⅰ): テーマ ＜平和＞ 指導司祭による講話 (1)	12	全学礼拝 クリスマス・ミサのための聖歌練習
5	練成会(Ⅱ): 指導司祭による講話 (2) グループワーク （分かち合い）	13	クリスマス祭 ① 講話: クリスマスについて ② クリスマス・ミサ
6	練成会(Ⅲ): 各クラス内で、小グループの発表とまとめ クラス別発表と講評 ・ みことばの祭儀	14	朝の祈り 理事長講話 「学院創立について」
7	全学礼拝 学友会活動 （信愛祭に向けて） リーダーシップ・責任感・協調性を培う	15	朝の祈り （小グループ活動） 「平和」についての講話・講演をふまえて、討議し、各自でまとめる。 （グループワーク）
8	全学礼拝 追悼祭の聖歌練習		

成績評価の方法・基準	受講態度(20%) ノート(35%) レポート(45%)を合わせて総合的に評価する。	
留意事項	積極的に参加し、ノート提出が求められるので、欠席しないこと。	
準備学習 （予習・復習等）	ノート等で前回学んだことを復習し、事前に全学礼拝で朗読される聖書の箇所を読むこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。	
テキスト	「聖書」 新共同訳 日本聖書協会、 プリント配布	
参考書等	カトリック聖歌集、 典礼聖歌集	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
英語Ⅰ English Ⅰ	1年前期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修	緒方 登美恵

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	高校までに学んできた英語を基礎として、保育の現場で役立つ英語を学び、日常生活で使用する身近な語彙、行事の時の簡単な招待状の書き方、保護者との簡単な電話連絡等保育の現場で欠かせない日常生活の事柄を英語で表現できるような英語力を身につける。
到達目標	1. はじめて会う保護者と英語で簡単な挨拶を交わすことができるようになる。 2. 遊び道具の名前や遊び方を英語で表現できるようになる。 3. 英語の歌を歌いながらゲームができるようになる。
授業の概要	テキスト「新・保育の英語」を用い、本文では園生活のさまざまな場面に応じて出てくる語句や口語表現を学習する。各章のテーマに関係ある語句の発音練習、Listening の練習、先生と子供たちや保護者との対話を、英作文をかね、会話練習を行う。各レッスン毎に復習プリントを用いて、グループ・ワークを行う。

授業計画

1	オリエンテーション 1. 授業の進め方 2. 試験と評価の仕方 3. 高校までの英語状況アンケート調査	9	L.4 In the Sandbox （1） 1. 外あそび・遊具 2. <p> と<b>の発音練習。
2	L.1 The School Year begins （1） 1. 新学期・園の人々・園舎 2. (hear＋目的語＋～ing)の表現 （英語絵本）	10	L.4 In the Sandbox （2） 3. 花の名前を覚える。 4. 遊びの時に用いる表現 5. プリントを用いて Group Work を行う
3	L.1 The School Year begins （2） 3. 初めて会う保護者との挨拶 4. 園舎の説明 5. プリントを用いて Group Work を行う	11	L.5 In the Playground （1） 1. 園庭 2. pick up の異なった意味
4	L.2 Arrival （1） 1. 登園・家族 2. 家族関係の名称 3. I wish we had～, let us know in advance（表現）	12	L.5 In the Playground （2）. 3. Ring-around-a Rosie の歌とゲーム 4. Let's sing together. (Group Work)
5	L.2 Arrival （2） 4. ＜th＞の発音練習 5. 指人形作り 6. Let's sing together. ＜Finger Family＞.	13	L.6 Lunchtime （1） 1. 昼食・献立表 2. お手伝いの表現 (help + 人+＜動詞の原形＞)
6	L.3 Playtime in the Classroom （1） 1. 室内あそび・欠席の連絡 2. ＜bowl, sew＞,と＜dot , cough＞,の発音練習。	14	L.6 Lunchtime （2） 3. 昼食時に準備する物や食べ物の名前 4. お弁当に関する簡単な会話 (Group Work)
7	L.3 Playtime in the Classroom （2） 3. 遊びの表現 4・プリントを用いて Group Work を行う ＜第1回小テスト（L.1～ L.2）＞	15	L.3～6 までの総復習。 ＜第2回小テスト（L.3～L.6）＞
8	＜Beauty and the Beast＞ ビデオ鑑賞 英語を聞き取り、dictation を行う。		

成績評価の方法・基準	小テスト(70%)、受講態度(20%)、提出物(10%)の総合評価	
留意事項	テキスト・ノート・ プリント・辞書は各自、毎時間持ってくること。	
準備学習 （予習・復習等）	配付された復習ノート(プリント)で復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、復習や予習で解からなかった点を質問し、解決すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出物・作品にはコメントを添え、小テストは採点して、次週の授業で返却、総評する。	
テキスト	「English for Nursery Schools and Kindergartens （新・保育の英語)」 森田和子著 三修社	
参考書等	「Childcare English （保育の英会話)」赤松 直子・久冨 陽子著 萌文書林	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
英語Ⅱ English Ⅱ	1年後期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修	緒方 登美恵

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	高校までに学んできた英語を基礎として、保育の現場で役立つ英語を学び、日常生活で使用する身近な語彙、行事の時の簡単な招待状の書き方、保護者との簡単な電話連絡等保育の現場で欠かせない日常生活の事柄を英語で表現できるような英語力を身につける
到達目標	1. 衣類・持ち物の名前と数え方が英語で表現できるようになる。 2. 動物・昆虫の名前や子どもの感情や様子を英語で答えられるようになる。 3. 保護者に電話連絡や、行事の案内状が書けるようになる。
授業の概要	テキスト「新・保育の英語」を用い、本文では園生活のさまざまな場面に応じて出てくる語句や口語表現を学習する。各章のテーマに関係ある語句の発音練習、Listening の練習、先生と子供たちや保護者との対話を、英作文をかね会話練習を行う。 各レッスン毎に復習プリントを用いて、グループ・ワークを行う。

授業計画

1	L.7 Changing Clothes and Story Time 1) 1. 着替え・おはなしの時間 2. “The North Wind and the Sun” （話を絵にする）	9	＜Aladdin＞ ビデオ鑑賞 英語を聞き取り、dictation を行う。
2	L.7 Changing Clothes and Story Time (2) 3. 衣類の名前 4. 持ち物の数え方・・・a pair of～ 5. プリントを用いて Group Work	10	L.11 Preparation for Sports Day (1) 1. 運動会の案内状を書く 2. 遠足の案内状を書く。
3	L.8 Nap Time (1) 1. トイレに関する表現・お昼寝 2. 持ち物・・・制服・スモッグ・靴・通園カバン	11	L.12 The Sports Day (1) 1. 動会の競技の名前
4	L.8 Nap Time (2) 3. トイレ・・・園児と先生の会話 4. プリントを用いて Group Work	12	L.12 The Sports Day (2) 2. 競技の時に用いる言葉・動作 3. プリントを用いて Group Work
5	L.9. Blowing Bubbles (1) 1. シャボン玉遊び 2. 歩行 （ハイハイ・つかまり立ち・おんぶ）	13	L.13 Going for a Walk (1) 1. 散歩・地図・お店 2. 慣用表現・・・ Please give her our best regards.等
6	L.9 Blowing Bubbles (2) 3. 昆虫・動物の名前と体の部位名。 Let’s sing. ＜第1回小テスト (L.7～ L.8) ＞ Group Work	14	L.13 Going for a Walk (2) 3. 野菜・果物等の名前とその色の名前 4. 英語で寸劇 Group Work
7	L.10 A Sick Child (1) 1. 緊急連絡	15	L.9～L.13 までの総復習。 ＜第2回小テスト(L.9～L.13)＞
8	L.10 A Sick Child (2) 2. 感情、状態を表すことば 3. 保護者との電話 4. プリントを用いて Group Work		

成績評価の方法・基準	小テスト(70%)、受講態度(20%)、提出物(10%)の総合評価	
留意事項	テキスト・ノート・プリント・辞書は各自、毎時間持ってくること。	
準備学習 （予習・復習等）	配付された復習ノート(プリント)で復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、復習や予習で解からなかった点を質問し、解決すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出されたノートおよびレポートは採点し、コメントを記入し、次週の授業で返却、総評する。	
テキスト	「English for Nursery Schools and Kindergartens」(新・保育の英語)」 森田和子著 三修社	
参考書等	「Childcare English （保育の英会話)」 赤松 直子・久冨 陽子 萌文書林	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
英語Ⅲ English Ⅲ	2年前期	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修	

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	グラマー（文法）、リーディング、リスニングの3つのセクションで構成された総合英語のテキストを用い、グラマーでは英文構成力を養い、リーディングにおいて内容理解につながる文法力をめざす。リスニングでは英語を英語の語順のまま、聞きながら内容を理解していく力を習得する。
到達目標	1. 文法によって、英文構成力が高まる。 2. リーディングによって、内容理解と把握力を身につける。 3. リスニングによって、聞いて理解する力がつく。
授業の概要	ART, Job Hunting , Shopping などの内容を通して、主語、動詞、目的語、補語について確認を行う。 Reading Section では求人広告や説明文などの読み方のポイントを学ぶ。Listening Section ではユニットのタイトルに準じた英問英答の練習問題を Group Work で行う。

授業計画

1	Unit 1. ART （1） 1. 文の構成ー語・句・節・文 2. 基本的な英文の構造	9	Unit 3. Job Hunting （2） 2. 練習問題　3. ＜求人・履歴書＞を読むポイント 4.「求人広告」「募集」「履歴書」を読む
2	Unit 1. ART （2） 3. 練習問題 4.英文の構造を理解するポイント	10	Unit 3. Job Hunting （3） 5. プリントを用いて Group Work 6.「Job Ilnterview」の Listening
3	Unit 1. ART（3） 5. 画家・ブルーゲルについての英文を読む。 6. プリントを用いて Group Work	11	Unit 4. Historical Figures （1） 1. ＜補語＞になるもの 名詞・代名詞・分詞・名詞句・名詞節
4	Unit 2. Fairy Tales （1） 1.「主語」と「主部」の区別 2. 主部となるパターン	12	Unit 4. Historical Figures （2） 2. 練習問題 3. ＜歴史上の人物に関する英文＞を読むポイント
5	Unit 2. Fairy Tales （2） 3. 練習問題 4. ＜物語＞を読むときのポイント	13	Unit 4. Historical Figures （3） 4.「A GREAT INVENTOR」を読む 5. プリントを用いて Group Work
6	Unit 2. Fairy Tales （3） 5. 「The Snow Queen」 の Reading & Listening 6. プリントを用いて Group Work	14	Unit1～Unit 4 までの総復習
7	Unit1～2 の復習 ＜第1回 小テスト(Unit1～2 の範囲)＞	15	Unit 3～4 の復習と質問 ＜第2回 小テスト Unit 3～4＞
8	Unit 3. Job Hunting （1） 1. ＜目的語＞になるものー名詞・名詞句・名詞節		

成績評価の方法・基準	小テスト70%　受講態度20%　提出物10% の総合評価	
留意事項	テキスト、ノート、辞書は各自毎時間持参すること。	
準備学習 （予習・復習等）	前回学んだことを復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、何を学ぶかを把握しておくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	小テストは採点して、次週の授業で返却し、総評する。	
テキスト	「Power-up English ＜Intermediate＞」 JACETリスニング研究会 南雲堂	
参考書等	「英文法 ビフォー・アフター （普及版）」 豊永 彰著 南雲堂	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
英語Ⅳ English Ⅳ	2年後期	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修	

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	グラマー（文法）、リーディング、リスニングの3つのセクションで構成された総合英語のテキストを用い、グラマーでは英文構成力を養い、リーディングにおいて内容理解につながる文法力をめざす。リスニングでは英語を英語の語順のまま、聞きながら内容を理解していく力を習得する。
到達目標	1. 文法によって、英文構成力と英作文力が高まる。 2. リーディングによって、内容理解と把握力が深まる。 3. リスニングによって、聞いて理解する力が速くになる。
授業の概要	LOVE, SHOPPING、ENTERTAINMENT などの内容を通して、動詞の種類と働き、修飾語句等について学習する。Reading Section では手紙文・広告文・説明文等の読み方のポイントを学ぶ。Listening Section ではユニットのタイトルに準じた英問英答の練習を Group Work で行う。

授業計画

1	Unit 5. Love （1） 1. ＜基本5文型＞の復習。 2. 第5文型のポイント	9	Unit 7. Shopping （2） 2. 練習問題 3. ＜説明文＞を読むときのポイント
2	Unit 5. Love （2） 3. 練習問題 4. ＜手紙文＞を読む時のポイント	10	Unit 7. Shopping （3） 4. ＜E-Money＞についての説明文 5. Listening to the conversation
3	Unit 5. Love （3） 5. ＜英文の手紙＞を読む Group Work 6. Listening to the love letter	11	Unit 8. Entertainment （1） 1. ＜修飾語になるもの(1)＞句レベルの修飾語 2. 修飾語句の主なタイプ
4	Unit 6. Health （1） 1. ＜動詞 (1)＞―完了時制― 2. 動詞句	12	Unit 8. Entertainment （2） 3. 練習問題 4. ＜日本語に訳さずに読む＞ポイント
5	Unit 6. Health （2） 3. 練習問題 4. ＜広告＞を読むときのポイント	13	Unit 8. Entertainment （3） 5. ＜An amusement park＞ 英文を前から読む練習 6. プリントを用いて Group Work
6	Unit 6. Health （3） 5. ＜At Jim's Gym＞の広告を読む 6. プリントを用いて Group Work	14	Unit5～Unit8 までの総復習
7	Unit 5～6 の復習 ＜第1回 小テスト(Unit 5～6 の範囲)＞	15	Unit7～8 の復習と質問 ＜第2回 小テスト Unit7～8＞
8	Unit 7. Shopping （1） 1. ＜動詞(2)＞―知覚動詞、使役動詞―		

成績評価の方法・基準	小テスト70% 受講態度20% 提出物10% の総合評価	
留意事項	テキスト、ノート、辞書は各自毎時間持参すること。	
準備学習 （予習・復習等）	前回学んだことを復習し、事前に次の範囲のテキストに目を通し、何を学ぶかを把握しておくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	小テストは採点して、次週の授業で返却し、総評する。	
テキスト	「Power-up English ＜Intermediate＞」 JACETリスニング研究会 南雲堂	
参考書等	「英文法 ビフォー・アフター （普及版）」 豊永 彰著 南雲堂	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
英語Ⅴ English Ⅴ	別に示す	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修	教務部

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	アメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学（ACU）における語学研修やアメリカ文化のプログラムに参加することで、実用英会話の基礎を修得すると同時に、大学寮に滞在し、他国の留学生と文化交流を図ることで、異文化コミュニケーション力を養う。
到達目標	1. 実用英会話の基礎を修得する。 2. アメリカの文化を知る。 3. 異文化コミュニケーションの素養を培う。
授業の概要	姉妹校であるアメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学（ACU）において、実用英会話ならびにアメリカ文化、異文化コミュニケーションなどを学ぶ。授業は、本学生（研修生）対象のプログラムと貴大学の授業に参加するものがある。

授業計画

研修期間 ： 3週間（2月下旬～3月予定）

研 修 先 ： アメリカテキサス州アビリーンクリスチャン大学および大学寮

費　　用 ： 30～33万円程度（授業料・滞在費・食費・旅費含む）

研修内容 ： 実用英会話・アメリカ文化・異文化コミュニケーションなど

成績評価の方法・基準	現地スタッフの評価による。	
留意事項	海外研修の募集や申込締切などに注意すること。 研修先の都合等、経済状況、世界の情勢により、不開講になる可能性がある。 受講生が10名未満の場合は、原則として開講しない。	
準備学習 （予習・復習等）	研修中は事前にテキストに目を通し授業に臨み、授業後は反復練習するとこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	未定	
テキスト	研修先の指定テキストを使用する。	
参考書等	研修先において、指示される。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
フランス語Ⅰ French Ⅰ	1年前期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修	堺 冨美子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	基礎的なフランス語を，特に会話を中心に学んでいく。ABCからはじめ、発音の基礎を学び、フランス語で外国人とコミュニケーションをする方法や，旅行などで使えるフランス語を学ぶ。フランス文化についても学ぶ。フランス語を学ぶことによって、異文化を理解する力と、英語でも通用するコミュニケーション力をつけることができる。
到達目標	1. フランス語の音や表現に慣れる。 2. 簡単な会話を耳で聞いて理解する。 3. 簡単な日常会話を使うことができる。
授業の概要	まずはフランス語の発音や表記に慣れるように、フランス語の歌なども取り入れながら学んでいく。グループワークで発音練習や身近な日常の会話表現などを、実践的に学ぶ。会話を練習する中で、簡単な文法も，必要に応じて少しずつ理解する。スライドやDVDも使い、具体的な会話の場面や、旅行でも役立つ文化を学んでいく。

授業計画

1	概論 フランス語で挨拶をする 母音の発音 グループワーク フランスについてのクイズ 4月の魚!?	9	兄弟はいますか？ ペットを飼っていますか？ 三人称 彼は 彼女は ～です グループワーク フランス語の歌『雨のしずく』
2	アルファベ tuとvousの違い 綴り字記号 みんなが見つけたフランス語 グループワーク フランス語の歌『フレールジャック』	10	三人称を使う グループワーク 彼・彼女は～です ～ではありません フランスのお菓子
3	自分の名前・出身・国籍を言う 名詞の男性形・女性形 フランスの建築物 グループワーク フランス語の歌『飛べ、飛べ、ちょうちょ』	11	三人称を使って会話する avoirを使った表現「持っています」 冠詞 カフェで注文する ① グループワーク
4	自己紹介をする グループワーク 相手の出身や国籍を聞く 職業を言う フランスの食べもの	12	不定冠詞「持っていますか？」 数字11～20まで 年齢を言う 自分と家族の年齢をいう カフェで注文する ② グループワーク
5	否定文 ～ではありません ～に住んでいます フランスの美術館 グループワーク フランス語の歌『ドレミの歌 ノミバージョン』	13	定冠詞 カフェで足りないものをたのむ グループワーク フランス語の歌『アヴィニヨンの橋の上で』
6	あなたは～に住んでいますか？ 住んでいません habiter（住む）のまとめ 数字1～10まで グループワーク フランスの不思議 ①	14	aimerを使った表現 グループワーク 私は～が好き あなたは～が好きですか？ 好きではありません レストランで注文する
7	中間の小テスト 会話テスト：自己紹介をする	15	前期のまとめ グループワーク フランスの外食 カフェの食べ物 フランス人との会話のコツ
8	テストの復習 グループワーク 兄弟姉妹について話す 兄弟がいます、いません 『ドレミの歌～女の子バージョン』		

成績評価の方法・基準	会話テスト50%、平常点（受講態度と会話練習）50%で総合評価する。	
留意事項	フランス語だけでなく、フランスについて、様々なところで興味を持ってほしい。	
準備学習 （予習・復習等）	講義で習ったフランス語を使って、友だちと会話練習をする。	必要時間：45分
課題のフィードバック	毎時間の最後に提出するプリントは、綴りなどをチェックして、次の時間に返却する。	
テキスト	毎時間プリントを配布する。	
参考書等	仏和辞典（電子辞書可） 出版社は問わない。古い物でも構わない。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
フランス語Ⅱ French Ⅱ	1年後期	演習	1	卒業選択必修 免許・資格選択必修	堺 冨美子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	少し発展した内容のフランス語を、会話を中心に学ぶ。簡単な会話でコミュニケーションをとり、買い物ができるレベルまで。前期同様、会話に必要な文法も少しずつ理解する。フランス語を学ぶことで生まれた興味をつなげ、フランス文化への理解を深める。フランス語を習得するために学んだやり方を、英語やその他の事を学ぶのに応用できるようになる。
到達目標	1. フランス語を耳で聞いて理解する。 2. フランス語の表現を文法的に理解し、習得する。 3. フランス語でコミュニケーションをとることができる。
授業の概要	前期に引き続き、少し発展した内容を、会話を中心に学んでいく。レストランやカフェで注文をしたり，簡単な買い物したりできるレベルまで，スライドや DVD など具体的な教材を使い、グループワークで実践的に学ぶ。発音練習もかねて、フランス語の歌も取り入れる。フランス文化についても学び、実際にフランス人と話すことを想定して学ぶ。

授業計画

1	前期の復習　グループで自己紹介 レストランで注文をする　フランスの秋 フランス語の歌『オーシャンゼリゼ』	9	中間の会話テスト 市場で買い物をすることができる
2	数字の復習　où を使った疑問文 グループワーク パリの成り立ち　街を歩く 地図や標識を読む	10	テストの振り返り 動詞を覚える Je peux （～しても良いですか） 店で試着させてもらう表現 グループワーク フランス語の歌『きよしこの夜』
3	パリの街を歩く 公園 森 〇〇を探しています グループワーク	11	時間の表現　看板の営業時間を読む 曜日を覚える 動詞　グループワーク フランスのクリスマス
4	Qu'est-ce que c'est? これは何ですか 定冠詞と不定冠詞　野菜のフランス語 おいしいね！グループワーク 市場に行く 市場の値札など	12	aller à （～に行く） あなたは～に行きますか？ 定冠詞の縮約 地下鉄やバスに乗る グループワーク フランス語の歌『ヒバリ』
5	Qui est-ce? 誰ですか？ 人を表す形容詞 市場に行く 欲しいものを言う　グループワーク フランス語の歌『キャベツの植え方』	13	Tu travailles?（アルバイトしてますか？） C'est comment? どうですか？ グループワーク ～に行きたいのですが
6	Il est comment? どんな人ですか？ 三人称 フランスの市場について 11～20 までの数字 市場でお金を払う言い方　グループワーク	14	Qu'est-ce que tu manges? 何を食べますか？ 部分冠詞　フランスの結婚式と結婚観について グループワーク フランス語の歌『月明かりに』
7	Je voudrais ～ ～がほしいです 形容詞の性数一致 C'est combine? いくらですか　グループワーク フランス語の歌『小さなお船があったよ』	15	後期のまとめ　疑問詞　グループワーク 相づちの会話表現 朝ご飯に食べるもの、飲むもの フランスのホームパーティーに行くときは…
8	色をあらわす形容詞 値段の聞き取り ユーロについて　グループワーク スーパーマーケット		

成績評価の方法・基準	会話テスト50%、平常点（受講態度と会話練習）50%で総合評価する。	
留意事項	フランス語だけでなく、フランスについて、様々なところで興味を持ってほしい。	
準備学習 （予習・復習等）	講義で習ったフランス語を使って、友だちと会話練習をすること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	毎時間の最後に提出するプリントは、綴りなどをチェックして、次の時間に返却する。	
テキスト	毎時間プリントを配布する。	
参考書等	仏和辞典（電子辞書可）出版社は問わない。古い物でも構わない。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
生活とスポーツⅠ Life and sports Ⅰ	1年前期	講義	1	卒業必修 免許・資格必修	新井　真実

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎		○				

授業の目的	近年の子どもたちをとりまく社会を概観すると、遊ぶ空間・仲間・時間の減少、交通事故や犯罪への懸念などが、体を動かして遊ぶ機会の減少を招いている。本授業では、子どもたちが抱える健康問題や、保育・教育現場におけるニーズを考慮した上で、子どもの心と身体の健康づくりのあり方、基本理念について学ぶ。
到達目標	1. 現代の子どもたちの生活をとりまく、健康・運動面の状況と問題点を学ぶ。 2. 幼児体育実践に必要な、基礎的な理論や知識を身につける。 3. 子どもの健康・運動に関わる身近なニュースについて、保育者としての視点をもち考察する。
授業の概要	都市化や少子化の進展による社会環境や人々の生活様式の変化、それらがもたらす子どもたちの健康問題について理解する。その上で、今日の保育・教育現場に求められる体育（幼児体育）のあり方、基本理念について学ぶ。グループディスカッションを通じて、更に考察を深めていく。

授業計画

1	オリエンテーション 近年の子どものからだの異変とその対策 ・遅い就寝、生活リズムの乱れ、増える体温異常　等	9	
2	子どもの生活と運動 ・心地よい空間、ガキ大将の役割、運動量の確保　等	10	
3	子どもの発達と運動 ・乳児期の発育発達と運動、反射、発達の順序性　等	11	
4	幼児体育とは ・体育あそびと運動あそび、幼児体育のねらい　等 小テスト①	12	
5	運動発現メカニズム ・意識的運動(随意運動)、運動技術上達のプロセス　等	13	
6	幼児体育指導上の留意事項 ・子どもとの関わりで配慮する点、用具の理解について　等	14	
7	運動と安全管理 ・運動時に起こりやすいけがや病気、応急処置の基本　等 小テスト②	15	
8	まとめ		

成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢40%、小テスト40%、提出物20%を原則とし、総合評価する。	
留意事項	理解と考察を深めるため、授業内のディスカッションに積極的に取り組むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	取り扱うテーマについて、予めテキストの該当箇所を読み、疑問点を明らかにしておくこと。また、授業後には関連する参考書や新聞記事等を読み、考察を深めること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	提出された課題は添削・採点し、学期末に各人に対してフィードバックを行う。	
テキスト	「幼児体育　理論と実践　初級　第4版　日本幼児体育学会　編」　前橋明ほか著　大学教育出版	
参考書等	授業内で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
生活とスポーツⅡ Life and Sports Ⅱ	1年通年	実技	1	卒業必修 免許・資格必修	新井 真実

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎	○	○				

授業の目的	子どもの運動能力は、画一的な運動指導や習い事よりも、のびのびとした自由あそびの中で向上することが実証されている。本授業では、からだあそびのレパートリー、あそび方の工夫やバリエーションづくりのヒントを習得することで、子どもたちの健康・体力づくりを、楽しみの中で促すためのスキルを総合的に学習する。
到達目標	1. 動くことの楽しさ、仲間といっしょに遊ぶことの楽しさを味わう。 2. 保育・教育現場において活用できる、体育・運動あそびのレパートリーを学ぶ。 3. 指導・援助に必要なコミュニケーション・スキルを身につける。
授業の概要	各回テーマに沿ったからだあそびのバリエーションに触れ、状況を捉えアレンジできる応用力を養う。また、子どもの主体性を引き出しながら、共に挑戦し楽しむ、共有型の援助的サポートを体得していく。試験は、運動あそびの計画・設営・模擬保育形式による発表（グループ）と、リズム種目の実技試験（個人）とする。

授業計画

1	オリエンテーション	17	運動会種目 表現・リズム種目 ―リズム体操・ダンス(2)
2	準備運動 ―子どもと楽しむストレッチ・ウォームアップ	18	運動会種目 表現・リズム種目 ―リズム体操・ダンス(3)
3	からだを使った体育あそび ―用具を使わない体育あそび	19	運動会種目 表現・リズム種目 ―リズム体操・ダンス(4)
4	用具を使った体育あそび ―平均台あそび 等	20	運動会種目 表現・リズム種目 ―リズム体操・ダンス(5)
5	用具を使った体育あそび ―フープあそび 等	21	復習とまとめ 実技試験(2)の課題発表・説明
6	用具を使った体育あそび ―縄あそび 等	22	実技試験(2) ―個人による実技試験
7	用具を使った体育あそび ―マットあそび 等	23	講評とまとめ
8	用具を使った体育あそび ―バルーンあそび 等		
9	復習とまとめ 実技試験(1)の課題発表・説明		
10	実技試験(1)に向けたグループワーク①		
11	実技試験(1)に向けたグループワーク②		
12	実技試験(1) ―グループ発表		
13	講評とまとめ		
14	運動会種目 競技種目 ―かけっこ・障害物競争 等		
15	運動会種目 レクリエーション種目 ―親子競技・ダンス等		
16	運動会種目 表現・リズム種目 ―リズム体操・ダンス(1)		

成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢50%、実技試験30%、レポート20%を原則とし、総合的に評価する。	
留意事項	腕時計・アクセサリー類は外し、長い髪の毛は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。	
準備学習 （予習・復習等）	授業冒頭に当番制で行う「からだあそび紹介」について、予めグループで調べ、所定の様式に沿って計画を立て、進行の練習をした上で当日に臨むこと。	必要時間：指定せず
課題のフィードバック	実技試験は授業内で実施し、並行して採点、講評を行う。	
テキスト	プリント資料	
参考書等	授業内で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
情報科学 Computer Science	1 年前期	講義	2	卒業選択 免許必修	眞部　真紀子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎			○

授業の目的	ネットワーク社会の現代において、保育者にもパソコンスキルが求められている。現場では、保育活動以外の時間は限られているので、事務作業を効率よく進めることが必要となる。本科目は、そのためのスキルを習得することを目的とする。
到達目標	1. Wordによるさまざまな文書作成およびそれに合わせたページ設定ができる。 2. Excelによる名簿管理と差し込み印刷ができる。 3. PowerPointによるスライド作成およびプレゼンテーションができる。
授業の概要	ネットワーク社会の現代に不可欠なメール操作やインターネットについて学習する。Wordでは保護者向けの文書や園だよりを作成し、Excelでは名簿管理と宛名ラベルの印刷、さらにPowerPointで、保護者向けなどのスライドを作成する。

授業計画

1	パソコンのログオン、メールユーザー登録と設定をおこなう。メールの基本操作を理解する。 （1 回目は履修しない学生も出席すること）	9	Excel の基本操作 セルの書式とコピーを理解する。 簡単なグラフ作成ができるようになる。
2	Windows の基本操作、フォルダとファイルの管理。 キーボード・マウス操作と日本語入力に慣れる。	10	Excel の基本操作 データベース機能を使ったデータ管理 差し込み印刷機能を理解する。
3	Word の基本操作 ページ設定を理解する。文字列の書式設定、段落設定を学習し、印刷と保存ができるようになる	11	PowerPoint の基本操作 スライドレイアウトの種類とスライド作成の基本を理解する。
4	Word の基本操作 表の作成と編集を学習する。いろいろな種類の表を作り、理解を深める。	12	PowerPoint の基本操作 オブジェクトの挿入とアニメーション設定の基本を理解する。
5	Word の基本操作 図形の挿入と編集を学習する。図形と文字列の操作に慣れる。	13	各自のテーマでスライドを作成する PowerPoint の基本操作に慣れ、スライド作成の理解を深める
6	【課題】 Word による「園だより」の作成	14	作成したスライドを使ってプレゼンテーションを行う。 【発表】と【作成スライド】
7	【Wordの文書作成問題】 これまで学習した内容に理解度を確認するため文書作成の問題を行う。	15	作成したスライドを使ってプレゼンテーションを行う。 【発表】と【作成スライド】
8	Excel の基本操作 ワークシートへのデータ入力と操作 作表と簡単な計算を学習する。		

成績評価の方法・基準	【課題】(20%)、【Wordの文書作成問題】(25%)、【発表】(20%)、【作成スライド】(25%)、学習態度・意欲(10%)を合わせて評価する。	
留意事項	文字入力が苦手な学生は、空き時間を利用して練習すること。 他の授業のレポートなど、多くの文書作成をする機会を作るようにすること。	
準備学習 （予習・復習等）	授業で行ったパソコン操作を次週までにもう一度行なう。授業時間の作業が終わらなかった学生は、空き時間を利用し完成させる。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	【課題】は次週に解説し、【Wordの文書作成問題】は回答を回収後に解説を行う。【発表】は授業内にコメントする。	
テキスト	「保育者のためのパソコン講座」阿部正平他、萌文書林	
参考書等	「情報リテラシー　アプリ編」富士通エフ・オー・エム株式会社著・制作、FOM出版	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
キャリアガイダンスⅠ Career Guidance Ⅰ	1年通年	演習	1	卒業選択 資格選択必修	増田 吹子・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎					○	

授業の目的	初年次教育として、大学教育に必要とされる学修リテラシー（情報の収集・分析、文章の読解・表現、課題の発見・解決、学習計画の立案・実行、大学生活一般におけるPDCAサイクルの確立等）を身に付ける。また、キャリア教育として、自らの職業観や将来像を確認し、資格を生かした業種・職種への理解を進める。
到達目標	1. 大学教育の意義を理解し、大学教育を受ける方法を身に付け、積極的に取り組む態度を確立する。 2. 大学教育と就業に関する意識を持ち、目指す保育者像を考えることができる。 3. 卒業後の進路を見据え、どのような知識・能力が求められるのかを理解できる。
授業の概要	通年で15回の授業を通して、就業力および社会人基礎力について学習する。教科担当者の他に、就職部教職員や実務経験者等の特別講師等とも連携した授業の中で、上級生や卒業生との交流、グループディスカッション等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、職業観を醸成する。

授業計画

1	オリエンテーション 進路希望調査（1回目） 「職務適性テスト」受験	9	進路希望調査（2回目） 現場で求められる人材について （レポート提出②） （クリッカー活用の双方向型授業）
2	学修リテラシーの習得（1） （ノート提出①） レポート作成の基本的なルール 文章の読解・表現の仕方	10	保育職の職業観（2） （ノート提出⑤） 特別講師（実務経験者）による講話 「保育者として働くということ」
3	キャリア形成（1） 「職務適性テスト」の解説 結果を基に自分の進路について考える	11	キャリア形成（3） （ノート提出⑥） 内定者による就職内定報告会
4	進路決定に向けての課題 （レポート提出①） ポートフォリオを活用したレポート作成と提出 身だしなみ講座（リクルートスーツ）	12	就職試験対策講座（1） 履歴書の内容・書式
5	学修リテラシーの習得（2） （ノート提出②） 特別講師講話 「新聞の読み方や文章表現について」	13	就職試験対策講座（2） 履歴書作成
6	キャリア形成（2） （ノート提出③） 特別講師講話「職業意識」 学生と社会人の違い、働くことの意義について	14	キャリア形成（4） （ノート提出⑦） 卒業生による講話・懇談（グループワーク）
7	保育職の職業観（1） （ノート提出④） 特別講師（実務経験者）による講話 「保育者に求められる資質」	15	進路決定への取り組みを振り返る （レポート提出③） ポートフォリオを活用したレポートの作成と提出
8	保育職の職業観（2） 特別講師（実務経験者）の指導による実習 「保育現場における遊びの実際」		

成績評価の方法・基準	ノート提出35%、レポート・履歴書提出45%、受講態度・姿勢20%で評価する。	
留意事項	授業に日時・場所等は変更になることがあるので、掲示をよく確認すること。 再試験は実施しない。	
準備学習 （予習・復習等）	事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、不明な点は、できるだけ授業時間内に質問して解決すること。また復習して理解を深めるようにすること。	必要時間：45 分
課題のフィードバック	提出されたノートは添削・採点して返却し総評する。	
テキスト	「キャリア形成支援 BOOK」 久留米信愛短期大学キャリア形成支援推進室 「わかる・書ける・使える 保育の基本用語」 長島和代編 わかば社	
参考書等	適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
キャリアガイダンスⅡ Career Guidance Ⅱ	2年通年	演習	1	卒業選択 資格選択必修	増田 吹子・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎					○	

授業の目的	「キャリアガイダンスⅠ」で培った職業観・勤労観および生き方や生活のあり方を土台に、自らの個性・能力を認識し、把握した上で、卒業後の進路を自らの責任で選び、自己実現を目指すための社会的・職業的自立を支える就業力を育成することを目的とする。
到達目標	1. 自分のキャリア形成においてどのような知識・技能が必要になるかを理解する。 2. 社会人また保育者として求められる水準に対応できる各種能力を身に付ける。 3. 就職先の内定を得た上で、社会人・保育者として働くにあたって必要となる姿勢・態度を身に付ける。
授業の概要	通年で15回の授業を通して、就業力および社会人基礎力について学習する。教科担当者の他に、就職部教職員や実務経験者等の特別講師等とも連携した授業の中で、他学科との合同受講や、グループディスカッション等のアクティブ・ラーニングの手法を取り入れ、社会的・職業的自立を目指す。

授業計画

1	オリエンテーション・進路希望調査(3 回目) 就職活動の目標を考える　(レポート提出①) ポートフォリオを活用したレポートの作成と提出①	9	進路希望調査(4回目) 現場で求められる人材について　(レポート提出②) (クリッカー活用の双方向型授業)
2	キャリア形成(1)　(ノート提出①) 特別講師講話 「就職の現状について」	10	スタートアップセミナー(1)　(ノート提出⑥) 特別講師講話 「社会人として働く上で必要とされる心構え」
3	キャリア形成(2)　(ノート提出②) 特別講師(施設・園の人事担当者) 「就職活動の実際・施設の概要・求められる資質等」	11	スタートアップセミナー(2) 特別講師講話 「金融トラブルの防止について」
4	就職試験対策講座　(ノート提出③) 就職活動を始めるにあたっての心構えや面接試験の概要について	12	スタートアップセミナー(3)　(ノート提出⑦) 電話の受け方・お茶の出し方・上座下座等の ビジネスマナーについて(講義・実習)
5		13	スタートアップセミナー(4) 卒業後における大学からのキャリア形成支援 早期離職の防止策について
6	キャリア形成(3)　(ノート提出④) 特別講師講話 「保育者としての心構え」	14	スタートアップセミナー(5) 特別講師講話 「労働法について」
7	就職試験対策講座(3) 求人票の見方・取扱いについて 自己 PR・志望動機の作成	15	就職活動の振り返り　(レポート提出③) ポートフォリオを活用したレポート作成と提出
8	就職試験対策講座(4)　(ノート提出⑤) 就職部教職員による模擬面接		

成績評価の方法・基準	ノート提出35%、レポート提出45%、受講態度・姿勢20%で評価する。	
留意事項	授業に日時・場所等は変更になることがあるので、掲示をよく確認すること。 再試験は実施しない。	
準備学習 (予習・復習等)	事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、不明な点は、できるだけ授業時間内に質問して解決すること。また復習して理解を深めるようにすること。	必要時間:45 分
課題のフィードバック	提出されたノートは添削・採点して返却し総評する。	
テキスト	「キャリア形成支援 BOOK」 久留米信愛短期大学キャリア形成支援推進室 「わかる・書ける・使える 保育の基本用語」 長島和代編 わかば社	
参考書等	適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
日本文学 Japanese literature	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修	

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	古代から現代までの作品読解と鑑賞をとおして、人間の生き方と愛の形を考え、そのアイデンティティーを探り、読み取った事柄を文章化し、鑑賞文としてまとめる。また、各時代を代表する作品にふれることにより、文学史の知識を深め、日本文学の流れを知る。
到達目標	1. 作者の生涯と、その業績を理解する。 2. 作品を味読し、そのテーマに迫る。 3. 作品ごとに自分の感想を文章化し、互いに分かち合う。
授業の概要	全ての作品の通読が困難であるため、作品の一部を抜粋して作った資料をテキストとして味読を図る。また、視聴覚教材の活用や担当者の説明をとおして作者の生涯や当該作品の概要を理解した上で読解に臨み、その読みを深める。更に、可能な限り、受講者相互の意見交換を行い、互いの読みを深める。

授業計画

1	オリエンテーション 『古事記』 1　時代背景　2 概要　3 鑑賞	9	5～8までのまとめ・補足・感想発表
2	『万葉集』 1 時代　2 歌体・部立　3 歌風の変遷 4 鑑賞	10	芥川龍之介『奉教人の死』 1 生涯と業績　2 切支丹物 3 作品(抄)鑑賞
3	『源氏物語』 1 貴族の生活　2 仮名文字の発明 3 作品の概要　4 作品(抄)鑑賞	11	高村光太郎『智恵子抄』 1 生涯　2 作品鑑賞 3 作品鑑賞　―愛のかたち―
4	1～3までのまとめ・補足・感想発表	12	5～11までのまとめ・補足・感想発表
5	与謝野晶子『みだれ髪』 1 生涯と業績　2 作品鑑賞 3「君死にたまふことなかれ」	13	宮沢賢治『銀河鉄道の夜』 1 生涯　2 作品鑑賞 「雨ニモマケズ」
6	島崎藤村『破戒』 1 詩から小説へ　2 作品の概要 3 作品(抄)鑑賞	14	遠藤周作『私の・棄てた・女』 1 キリスト教文学　2 遠藤の挑戦 3 作品(抄)鑑賞　【レポートの提出】
7	夏目漱石『三四郎』 1 生涯と業績　2 作品の概要 3 作品(抄)鑑賞	15	全体のまとめ
8	夏目漱石「私の個人主義」 1 漱石の英国留学　2 主張内容の今日的意義		

成績評価の方法・基準	レポート40%、発表40%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。	
留意事項	資料(作品の抜粋プリント)は用意するが、読解を深めるため作品にはできるだけ目をとおしておく。	
準備学習 (予習・復習等)	授業計画に基づき指定される作品を、予め読んで授業に臨む。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	授業で実施した3回の感想発表はその都度総評を行い、提出されたレポートは次週に返却し総評を行う。	
テキスト	各作品を収めた書籍については各々準備する。	
参考書等	事前に紹介する(基本的に図書館の蔵書より)。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
日本国憲法 The Consutitution of Japan	1年前期	講義	2	卒業選択必修 免許必修・資格選択必修	桑原 広治

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎					○	

授業の目的	日本国憲法は、法律の中でも基本法と呼ばれており、すべての法律の基準となるものである。日本も法治国家であるので、法によって社会が成り立っていると考えると、日本の社会の在り方が日本国憲法に定められていると考えられる。そういう観点から、日本国憲法の内容を理解していく。
到達目標	1. 日本国憲法には、どのようなことが定められているのかを理解する。 2. 日本国憲法の目的や今日的意義を理解する。 3. 日本国憲法における人権保障の考え方を身につける。
授業の概要	まず、日本国憲法の全体について、どういう内容なのかを「前文」「人権」「国会」「内閣」「裁判所」「地方自治」という順に学び、それから、憲法にまつわるトピックである「個人情報保護」や「社会保障」の問題、「裁判員制度」等を題材に憲法の個々の論点の理解を深めていく。なお、教育的配慮から、授業計画は変更することがある。

授業計画

1	オリエンテーション：講義の進め方、内容等の概要説明 （ノートの取り方、講義の進め方等について共通の認識を持つ） 憲法の意味：近代的意味の憲法 日本国憲法と太平洋戦争との関係 憲法の目的（特に個人の尊厳とのかかわりについて）	9	プライバシー権と個人情報保護について
2	憲法前文について 象徴天皇制と天皇の権限について	10	生存権について（1） 憲法25条の特性や役割について学ぶ。
3	日本国憲法上の人権規定について 1. 幸福追求権 2. 精神的自由権 3. 経済的自由権	11	生存権について（2） 具体的な事例を通してその役割について考える。
4	刑事事件上の人権規定 1. 適正手続 2. 自白の禁止	12	自己決定権について（1） 憲法の規定に流れる自己決定権の考え方について学ぶ。
5	統治機構について（1） 国会の構成・機能	13	自己決定権について（2） 具体的にどのような問題として現れるかを学ぶ。
6	統治機構について（2） 内閣の構成・機能	14	裁判員制度について（1） 司法制度のなかでのこの制度の意味や制度の内容を学ぶ。
7	統治機構について（3） 裁判所の構成・機能	15	裁判員制度について（2） 具体的にどのように行われるか映像資料などで学ぶ。
8	地方自治について、予算について 憲法改正について 憲法尊重義務について		

成績評価の方法・基準	定期試験（60%）・受講の積極性（20%）・小レポート（20%）等を総合的に評価する。	
留意事項	講義はパワーポイントを中心に、可能な限り、アクティブ・ラーニング型で進めるが、授業中のノート記録に気を配り、整理を行うこと。合わせて、メモの習慣化を図り、講述（口述）内容を筆記できるようにすること。 授業のはじめには、コミュニケーション・トレーニングの一環としてグループでの話題交換等を取り入れる。 時事問題等に常に関心を持ち、新聞やメディア情報を収集しておくこと。	
準備学習 （予習・復習等）	次回講義の展開を予測しつつ、キーワードを調べるなど、主体的に取り組むこと。 配布資料を読んでおくこと。 毎回ノート整理を行うこと。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	講義中に学生同士の議論の時間やレポートの講評並びに補説の時間を設ける。	
テキスト	適宜プリントを配布する。	
参考書等	「憲法（第7版）芦部信喜・高橋和之 岩波書店、「憲法（新法学ライブラリ）」 長谷部恭男 新世社、「世の中がわかる憲法ドリル」石本伸晃 平凡社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
心理学 Psychology	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格必修	武藤　郁和

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎	○	○				

授業の目的	心理学とは、心の働きやそのメカニズムを明らかにする学問である。現在、医療をはじめ教育や福祉など様々な領域で心理学の知見が活用されている。講義を通して、受講者が心理学の基礎的な知識を得ることで、日常生活における「こころ」の働きについて理解し、応用できるようになることをねらいとする。
到達目標	1. 講義の中で学んだ心理学に関するキーワードを説明できるようになる。 2. 心のメカニズムを明らかにするために心理学が用いている実証科学的な研究の視点について理解する。 3. 身近な出来事を心理学的な観点から考察できるようになる。
授業の概要	心理学が対象とする学問領域は幅広いが、今回は、心理学史、認知・学習・社会・発達・性格・臨床心理学等の主要なトピックについて学習し、ものの感じ方、見方、考え方などの基礎心理を学ぶ。また、私達の身近な生活や人間関係、社会問題にもふれ、実生活への応用について考察していく。

授業計画

1	学習（連合説） 刺激と反応が結びつくことによって学習が行われるという理論について学ぶ	9	知能検査 いくつかの知能検査の概要について学ぶ。 知能検査は受けない。
2	学習（洞察説） 見通しを立てて問題を解決するという理論について学ぶ。	10	欲求・葛藤・防衛（適応）機制 自分の思うようにならないことが多い世の中で、人はどのように行動するのかについて学ぶ。
3	記憶 記憶と忘却のメカニズムとについて学ぶ。 また、より良く記憶する工夫についても学ぶ。	11	パーソナリティ パーソナリティの諸理論（類型論・特性論・構造論）について学ぶ。
4	発達（乳幼児期） 乳幼児の運動および言葉の発達について学ぶ。 また、そもそも言葉とは何なのかについても学ぶ。	12	パーソナリティテスト いくつかのパーソナリティテストの概要について学ぶ。
5	発達（幼児期） 幼児特有の物の見方・考え方について学ぶ。	13	社会と集団 人は他者とのかかわりを持ちながら行動している。ここでは、人間関係における心理メカニズムについて学ぶ。
6	発達（児童期・青年期） 児童期・青年期における心理的特徴と発達課題について学ぶ。	14	知覚・認知 主に視覚に関する事柄を学びながら、情報処理の観点による物の見え方や捉え方について学ぶ。
7	動機付け やる気はどこからくるのか。外発的動機付けと内発的動機付けについて学ぶ。	15	第2回小テスト（8～14回の内容） 心理学史 心理学史および心理学とは何なのかについて学ぶ。
8	第1回小テスト（1～7回の内容）の実施。 知能 知能の構造の理論について学ぶ。		

成績評価の方法・基準	授業で行う2回の小テスト（60%）、レポート課題（20%）、受講態度・姿勢（20%）を総合して評価する。	
留意事項	これまでの自分の行動や考え方を振り返り、関連付けながら学習を進めていくこと。	
準備学習 （予習・復習等）	教科書を読みこみ、授業で学んだ知識の定着をはかること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	授業中に出される問に対して自分なりの答えを見出し、解答例と比較してその違いに気付く。	
テキスト	系統看護学講座　基礎分野　心理学　山村豊・高橋一公著　医学書院。	
参考書等		

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
ヨーロッパ文化 European culture	別に示す	演習	1	卒業選択必修 資格選択必修	教務部

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	○	◎						

授業の目的	春休みの約10日間のヨーロッパ研修（主にフランス、バチカン、イタリア）を通して、ヨーロッパ文化の源であるキリスト教の精神を学び、また学院の経営母体である“ショファイユの幼きイエズス修道会”の母修院での研修によって建学の精神を体得する。また、各国の人々、自然、教会等々に触れ、国際理解を深める。
到達目標	1. キリスト教の精神を学ぶ。 2. 本学の建学の精神を体得する。 3. 国際理解を深める。
授業の概要	3月の春休み中約10日間のヨーロッパ研修地（主にフランス、バチカン、イタリアなど）において、教会をはじめ歴史的建造物や美術館の見学、および市内観光を含めた自主研修（レストランやホテル宿泊での実用会話研修含む）を行う。

授業計画

プログラム予定（3月の10日間）

出発	
↓	
香港	香港市内研修
↓	
パリ	パリ市内研修
↓	自主研修
リヨン	リヨンへ
↓	
ショファイユ	バスにてショファイユへ
↓	
ジュネーブ	ジュネーブ市内研修
↓	
ミラノ	
↓	
フィレンツェ	フィレンツェ市内研修
↓	
ローマ	ローマ市内研修
↓	ローマ市内自主研修
香港	
↓	
帰国	（帰国後レポート提出）

成績評価の方法・基準	研修中の態度（50%）、帰国後のレポート（50%）により評価する。	
留意事項	全学科1・2年生の希望者を対象とし、費用経費を30～33万円程度に見込んでいる。 経済状況・世界の情勢によっては、不開講になる可能性がある。 受講生が10名未満の場合は、原則として開講しない。	
準備学習 （予習・復習等）	事前にヨーロッパの文化等についてネット等を通し調査しておき、研修中はメモおよび日記を記載すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	帰国後のレポートは返却し、総評を行う。	
テキスト	なし	
参考書等	なし	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
生活と環境 Life environmentology	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修	安保 康治

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	生活を取り巻く環境、特に近年重要視される「食と健康」、「食の安全」、「地球の環境」、「環境の破壊」について、社会科学的および自然科学的見地からそのメカニズムなどを理解することで、生活上の対策を学習し、今後の社会生活を豊かなものにする一助とする。
到達目標	1. 食生活についての教養が身につき、健康な生活への意識が向上すること。 2. 地球の環境問題についての教養が身につき、個人的対策が実施できるようになること。 3. 食生活や地球環境についてのメディア情報が理解できるようになること。
授業の概要	「食と健康」では食品に含まれる栄養素の必要性、「食の安全」では微生物や農薬などの反栄養素の問題、また、「地球の環境」では地球を取り巻く環境要因の成り立ちと維持、「環境の破壊」では地球の各環境問題についてメカニズムや対策を学習し、それぞれの課題についてグループワークやディスカッションを行う。

授業計画

1	1. 食と健康 (1)食物と栄養 栄養素の役割と食事摂取基準・食生活管理	9	第1回小テストの総評 3. 地球の環境 (1)地球の誕生 (2)地球の構造 (3)空気の維持
2	(2)肥満 肥満はなぜ起こるのか 皮下脂肪型と内臓脂肪型肥満	10	(4)温度の維持 (5)水の循環 (6)エネルギー資源
3	(3)ダイエット 肥満予防改善の基本的な考え方 肥満予防改善の体質改善	11	4. 環境の破壊 (1)公害の歴史 イタイタイ病・四日市喘息・水俣病など
4	2. 食の安全 (1)食物の腐敗と保存 腐敗と微生物・微生物の生育環境と食物の保存	12	(2)地球の温暖化 CO_2の増加と温度上昇 世界の対策と個人の対策
5	(2)加熱調理 加熱調理の方法とその特徴 加熱調理の目的とその成分変化	13	(3)オゾン層の破壊(メカニズムと対策) (4)酸性雨(メカニズムと対策) (5)ゴミ問題(処理の現状とリサイクル)
6	(3)加工食品とインスタント食品 保存食品・発酵食品・インスタント食品	14	9～13週の課題について グループワーク・ディスカッションおよびレポート作成
7	(4)農薬と食品添加物 (5)食物の有害成分	15	まとめ レポートの総評とまとめ
8	1～7週の課題について グループワーク・ディスカッションおよびレポート作成		

成績評価の方法・基準	提出された2回のレポート80%と受講態度・姿勢20%で評価する。	
留意事項	普段から食と健康や環境問題等について、新聞やTV等のメディア情報に関心をもつことが望まれる。	
準備学習 (予習・復習等)	事前にその範囲のテキストに目を通した上で授業に臨み、授業で理解できなかった点があれば復習して理解するか、授業終了後に質問し解決しておくこと。	必要時間:3時間
課題のフィードバック	提出されたレポートは、最終回の授業で返却し、総評を行う。	
テキスト	「現代人のための生活と環境」安保康治著 開成出版	
参考書等	「現代人のための生活科学」安保康治著 開成出版 生活習慣病の予防 http://www.japa.org/seijinbyou 地球を守る http://kankyo.jsf.or.jp	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
生命と自然 Life and nature	1 年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修	

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎				○	○	

授業の目的	生命の成りたちについて理解し、地球上に生きている生物の生活体系と、生息する自然環境について理解する。また、生息環境にどのように適応しているかについて理解する。さらに、その生息環境を脅かす要因について理解する。
到達目標	1. 生命の成り立ちについて知ること。 2. 生物多様性の重要性について知ること。 3. 生息環境を脅かす要因について知ること。
授業の概要	生物とは何か、どのように成り立ったのかを知り、それら生物がどのような地球上の環境下に適応し、生活しているかを学ぶ。また、生息している環境がどのような特徴を有しているのか、どういう状況であるのかを知り、本来の生息環境でない場合、どのような影響を被っているのかを学ぶ。

授業計画

1	生物とは 1. 生物の起源　2. 生物と無生物との違い	9	生物多様性と環境適応Ⅳ 1. 河川･湖沼に生息する生物とその環境･適応
2	生物の進化 1. 生物の形態の違い　2. 発生過程	10	生物多様性と環境適応Ⅴ 1. 海(沿岸域)に生息する生物とその環境･適応
3	生命のゆりかご･地球Ⅰ 1. 陸上環境(極地･草原･森林･砂漠･山)	11	生物多様性と環境適応Ⅵ 1. 外洋･深海に生息する生物とその環境･適応
4	生命のゆりかご･地球Ⅱ 1. 水環境(河川･湖沼･海･深海)	12	地球の変化と生き物Ⅰ 1. 地球温暖化による生き物への影響
5	生命のゆりかご･地球Ⅲ 1. 大気環境(大気組成･雨･風)	13	地球の変化と生き物Ⅱ 1. 人為的開発による生き物への影響
6	生物多様性と環境適応Ⅰ 1. 草原･砂漠に生息する生物とその環境･適応	14	地球の変化と生き物Ⅲ 1. 環境ホルモンによる生き物への影響
7	生物多様性と環境適応Ⅱ 1. 森林･高山に生息する生物とその環境･適応	15	まとめ
8	生物多様性と環境適応Ⅲ 1. 極地･熱帯雨林に生息する生物とその環境･適応		

成績評価の方法・基準	レポート70%、受講態度･姿勢30%で総合評価する。	
留意事項	普段から自然や生物についての新聞･TV などのメディア報道に関心をもつことが望まれる。	
準備学習 （予習･復習等）	授業で興味･関心を持った生物や自然、環境について、書籍、インターネットなどで調べ、理解を深めること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	提出レポートは、単位認定試験に変えるので、フィードバックは行わない。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
参考書等	講義中に随時提示する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
基礎統計学 Basic Statistics	1年前期	講義	2	卒業選択必修 資格選択必修	眞部　真紀子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		◎						

授業の目的	私たちの周りには多くのデータが存在し、それによって物事を判断している。これらの集められたデータを判断の材料にするために用いられるのが統計学である。本科目は基礎的な統計的知識を学び、「統計感覚」を養うことを目的とする。
到達目標	1. データを数値やグラフで要約することができる。 2. データのばらつきや差を測ることができる。 3. データから関係を探ることができる。
授業の概要	本科目で扱うデータは電卓で計算できる身近なデータにとどめ、基本的な統計値を計算して理解を深めてもらう。またグループワークでダミーデータの統計処理に取り組んでもらう。最後に、MicrosoftのExcelを用いて度数分布表やヒストグラム、関数を使っての基本的な統計値の算出を学習してもらう。

授業計画

1	ガイダンス 基本統計値について知る。 平均値、度数分布表とヒストグラムを学習する。	9	t検定（対応なし）について学ぶ。 平均の差の信頼区間を理解する。
2	基本統計値について知る。 分散と標準偏差でデータの散らばり具合を学習する。	10	t検定（対応あり）について学ぶ。 理解を深めるためダミーデータでグループワークを行う。
3	基本統計値について理解する。（グループワーク） ダミーデータで分散と標準偏差を求めて比較する。	11	【小テスト2】 カイ2乗検定、t検定の違いを理解する。
4	確率と統計の関係を理解し、確率の求めた方、順序、組み合わせの確率を学ぶ。	12	【小テスト2】をグループワークで取り組み、より深く理解する。
5	【小テスト1】 母集団と標本について学ぶ。	13	分散分析について学ぶ。 分散分析の考え方を理解する。
6	信頼推定と信頼区間について学ぶ。 正規分布について理解する。	14	データのばらつきを表す度数分布表やヒストグラム、分散や標準偏差 Excel を用いた統計処理を学ぶ。
7	仮説検定の考え方を知る。 観測度数と期待度数の求め方を理解する。	15	【小テスト3】 これまでの範囲の理解を深める。
8	カイ 2 乗検定を学ぶ。 有意水準について理解する。		

成績評価の方法・基準	授業内で行う【小テスト】3回（各30%）、受講姿勢（10%）で総合評価する。	
留意事項	毎回電卓を持参すること。	
準備学習 （予習・復習等）	前回の授業の復習を行い、分からないことはノートに記し、授業終了後またはオフィスアワーを活用し理解するよう努める。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	【小テスト】後、または次回に授業内で解説し、返却する。	
テキスト	「ファーストブック　統計学がわかる」向後千春・冨永敦子著　技術評論社	
参考書等	「栄養科学シリーズ　基礎統計学」鈴木良雄・廣津信義著　講談社サイエンティフィック	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
ボランティア Volunteer	1・2年通年	演習	1	選択	学生部長・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
	◎	○						

授業の目的	ボランティアが社会に果たす役割と必要性が拡大している。地域からのボランティア活動の要請等に自主的に参加し、活動を通してボランティアの必要性と意義を学ぶ。そして社会が抱える問題等にも関心を持ち、地域社会との連携を図る主体的能力を身につけると共に、自己の資質向上を図る。
到達目標	1. ボランティア活動についての基本的な理解ができる。 2. ボランティア活動を計画し、実践する。 3. 報告会でボランティア活動の発表ができる。
授業の概要	本科目では、地域からのボランティア活動の要請や、本学から紹介される様々な活動に応じて、自らが選択し、計画し、実践する。そして、その活動内容を互いに発表し合い、ディスカッションを行う。

授業計画

1. オリエンテーション
   担当教員より事前・事後オリエンテーションが行われる。
2. 活動期間・時間
   期間は、1・2 年次の 2 年間とする。
   活動時間は、総計 22 時間以上とする。
3. 活動内容
   活動内容は、地域からの要請や本学から紹介されるボランティアを含め、各自の目標に合わせて、自ら選択し実践する。
4. 活動の手順
   事前に所定の届け出を提出する。
   活動先の指導者との打ち合わせを含め、活動後に所定の活動証明書を提出する。
   活動の実践レポートを提出する。
5. まとめ（報告会）
   実践報告書をまとめる。
   報告会において、ボランティア活動のプレゼンテーションを行い、ディスカッションを通して自己の認識を深める。

成績評価の方法・基準	活動の実践レポート（50%）、報告発表（30%）、提出書類（20%）で総合評価する。	
留意事項	活動を通して知り得た情報については、守秘義務を守りボランティア先の規則に従うこと。 提出書類、レポート提出は、期限を守ること。	
準備学習 （予習・復習等）	活動内容を、事前に確認して行うこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	内容により課題が異なるので、その都度対応する。	
テキスト	なし	
参考書等	必要に応じて紹介する	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育原理 Principle of Childcare	1年後期	講義	2	卒業必修 資格必修	桑原　広治

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		○				○	◎	

授業の目的	保育に関する基礎理論を学習する。保育に関する思想・歴史・制度・内容・方法・計画の基礎理論を学ぶことにより、今後の保育者としての成長の土台を培う。幼児教育入門の役割も果たす。この授業の中で、①自分なりの保育観・子ども観を養う、②自分なりの保育スタイルの創造、③自分なりの研究的精神の涵養、を目指す。
到達目標	1. 代表的な子ども観を説明することができ、自分の子ども観と教育観を表現することができる。 2. 幼稚園・保育所・認定こども園の役割や制度を理解し、自分自身の資質・適性を理解することができる。 3. 保育者に必要な知識を学び、保育者に必要とされる態度・使命・責任について省察することができる。
授業の概要	①保育の意味等の基礎知識、②保育の基本原理（内容・方法・計画に関わる7項目）、③保育の歴史と制度（幼稚園・保育所・認定こども園等）、④子どもの発達の原理、以上の順で講じる。そのなかで、なぜ「一人ひとりの子どもを大切にする保育」「一日いちにちを大切にする保育」が必要なのか、個々人の考えをもとに、グループワークやディスカッションを通してアウトプットできる力を目指す。なお、教育的配慮から、授業計画は変更することがある。

授業計画

1	本科目の導入と授業計画（グループワーク、ディスカッション等でアウトプットできる力を目指す） 1. 教職とは何か　2. 社会における仕事　3. 社会人とは何か	9	保育の方法 1. 保育方法の意義　2. 保育における遊び 3. 幼稚園教育要領のポイント
2	保育とは何か 1. 人間の特性　2. 教育と保育 3. 子育てと保育	10	保育の技術　1 1. 感性を育てる　2. 言葉かけ 3. 保育と子育て
3	保育の制度と歴史 1. 初期の保育制度　2. 戦後の保育制度 3. 現在の保育制度	11	保育の形態 1. 保育形態の要因　2. 集団保育の意義 3. 活動の分類
4	幼児の発達と学習 1. 成長と発達　2. 子どもの発達　3. 成熟と学習	12	保育の評価 1. 評価の意義　2. 評価の実際 3. 評価を保育に生かす方法
5	子どもを取り巻く環境 1. 時代の変化と子どもの姿　2. 保護者の子育て意識　3. 保育と家庭支援。DVD視聴「幼稚園教員」「男性保育士」「小学校教員」等。	13	保育の指導案 1. 指導案の目的と役割　2. 作成の手順 3. 記述の内容
6	保育の内容と活動 1. 保育の内容　2. 幼稚園教育要領 3. 保育の活動	14	保育者に求められるもの 1. 求められる人間関係　2. コミュニケーション能力 1.　現場で求められる人材
7	保育のカリキュラム 1. カリキュラムの意味　2. カリキュラムの意義 3. カリキュラムの種類	15	保育の展望と課題 1. これからの保育　2. 子育て支援 3. 時代の変化に対応した保育
8	保育の教材研究 1. 教材の意味　2. 教材と教具 3. 教材研究の実際		

成績評価の方法・基準	定期試験（70%）・受講の積極性（20%）・小レポート（10%）等を総合的に評価する。	
留意事項	講義はパワーポイントを中心に、アクティブ・ラーニング型で進めるが、授業中のノート記録に気を配り、整理を行うこと。合わせて、メモの習慣化を図り、講述（口述）内容を筆記できるようにすること。子どもをめぐる新しい情報や問題について新聞やメディアの報道に関心を持っておくこと。	
準備学習 （予習・復習等）	次回講義の展開を予測しつつ、キーワードを調べる等、主体的に取り組むこと。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	講義中に学生同士の議論の時間やレポートの講評や補説の時間を設ける。	
テキスト	適時、課題シートや資料等を配布する。	
参考書等	「最新　保育原理」上中　修　保育出版社　2019	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
教育原理 Principle of Education	1年前期	講義	2	卒業選択 免許・資格必修	関　聡

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		○				○	◎	

授業の目的	教育に関する基礎理論を学習する。教育に関する理念・歴史・思想、社会的・制度的・経営的事項、教育課程の意義編成を学ぶことにより、今後の保育者としての成長の土台を培う。「教育する者」にとって必要なものとは何か、目指すべき教育の姿とは何かを自覚的に探究することが本科目の目的である。
到達目標	1. 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想を理解する。 2. 教育に関する社会的・制度的・経営的事項（地域との連携及び学校安全への対応含む）を理解する。 3. 教育課程の意義及び編成の方法を理解し、指導計画を作成できる。
授業の概要	1. 教育の意味・意義等の基礎知識。 2. 教育の内容・方法・計画等に関わる理論。 3. 教育の歴史と制度に関わる知識。 4. 子どもの見方や教育の考え方（子ども観・教育観） 5. 教育に関する時事問題。6. 教師の使命と資質の向上。

授業計画

1	教育の意味と意義について 1. 教育の意味（語源から：教と育 education erzieihen） 2. 教育の意義（さまざまな立場から）	9	教育の経営について【グループ・ワーク】 1. 望ましい学校経営と学級経営 2. 学校経営と学級経営のPDCAサイクル
2	子ども・教師・家庭・学校について 1. 教育的関係及び教育的雰囲気 2・社会の変化と家庭の変化	10	学校と地域の連携について 1. 地域との連携と協働 2. 開かれた学校づくり
3	教育の歴史について 1. 主に欧米の歴史 2. 日本の歴史	11	学校安全について 1. 危機管理と事故対応 2. 安全管理と安全教育
4	教育の思想についてⅠ（ギリシャ以降） 1. 古代 2. 中世	12	教育課程の意義について 1. 教育課程（カリキュラム）の意義 2. 幼稚園教育要領と各園の教育課程
5	教育の思想についてⅡ（今日まで） 1. 近世 2. 現代	13	教育課程の編成について 1. 教育課程の編成の基本原理 2. 教育課程と指導計画（長期・中期・短期）
6	教育を巡る社会的状況についてⅠ 1. 社会や子どもの変化 2. 学校や地域の変化	14	カリキュラム・マネジメントについて 1. カリキュラムの見直し 2. カリキュラムのPDCAサイクル
7	教育を巡る社会的状況についてⅡ 1. 教育政策の動向（幼・小・中・高・大） 2. 教育改革の動向（幼・小・中・高・大）	15	教育原理について 1. 教育原理のまとめ 2. レポート作成の注意点
8	教育の制度について 1. 公教育の原理や理念（明治以降） 2. 教育行政と制度（今日的課題）		

成績評価の方法・基準	レポート（80%）・授業態度（20%）を原則として総合評価する。 レポートの採点基準は授業内で説明する。	
留意事項	学修を通して、①教師になる自覚を持つこと、②自分自身を見つめる機会を持つこと、③小さい者・弱い者への温かいまなざしを持つこと、④問題を発見し解決する姿勢を持つこと、以上を身につけてほしい。	
準備学習（予習・復習等）	予習：授業内容に関わる保育現場の状況を参考文献、マスコミ等から情報を得る。 復習：授業内容から自分なりの保育観・子ども観・教育観をつくりあげる。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	レポート作成前後に必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。	
テキスト	テキストは使用しない。	
参考書等	本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
教職基礎論 Fundamentals of the Education	1年後期	講義	2	卒業選択 免許・資格必修	増田　吹子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
							◎	

授業の目的	幼稚園教諭・保育教諭等になるにあたって必要となる、教育（保育）・教師（保育士）についての知識や教育者（保育者）としての考え方や姿勢を身に付けることを目的とする。そのために、従来の教育のあり方や教育についての考え方、現在の教育の問題、これからの教育者に求められる事柄等について学ぶ。
到達目標	1. 教育（保育）重要性や意義について理解している。 2. 教師（保育士）の役割・職務内容・身分・服務義務等について理解している。 3. 教育（保育）の歴史・現状を理解し、これからの教育者（保育者）に求められる役割を考えられる。
授業の概要	講義やワークを通して、教育者（保育者）の職務内容・教育（保育）の歴史等、保育の在り方を考える上で必要な事項について学ぶ。毎回の授業について記入して提出する振り返りを次の授業でフィードバックすることにより、教育（保育）についての理解を深める。

授業計画

1	授業ガイダンス 保育と子ども（ワーク・発表） 理想の保育者像	9	保育者としての成長 記録・研修等を通した専門性や人間性の向上について学ぶ（グループワーク）
2	保育者をめざす 子どもと関わるということについて事例を基に考える （事例検討・発表）	10	現代社会の課題と保育者① 現代の保護者が抱える問題とその背景について学び、保護者との関わりを考える（事例検討・発表）
3	保育するとは①保育者の援助・配慮の考え方 VTR や保育者の記録を基に考える （事例検討・発表）	11	現代社会の課題と保育者② 虐待への対応・カウンセリングマインド等の現代の保育者に求められる考え方について学ぶ
4	保育するとは②保育経験と保育観の変化 保育者の記録や事例を基に考える （事例検討・発表）	12	さまざまな国における保育者 海外と日本の保育の違いについて学び、より良い保育のあり方について考える（ディスカッション）
5	保育するとは③保育者の自己成長感 保育者の記録や事例を基に考える （事例検討・発表）	13	保育者のこれまでを振り返る① 幼稚園の成立と発展に尽くした保育者について学ぶ
6	保育者の生活 教育・保育に関わる法律や要領・指針、事例等から保育者の一日の生活や服務義務について学ぶ	14	保育者のこれまでを振り返る② 保育事業の成立と発展に尽くした保育者、保育における健康指導の歴史について学ぶ
7	子どもの成長と子ども育成力 家庭支援・専門機関との連携について学ぶ （事例検討・発表）	15	現代の保育者の役割―理想の保育者像を再考する 新聞記事を基に現代の保育者の役割について考える （グループワーク）
8	子どもを育てるものの共同性 教育・保育における共同（協同）の意義を考える （事例検討・発表）		

成績評価の方法・基準	レポート①（40%）、レポート②（30%）、毎回の振り返りの提出（30%）	
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行うこと。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	毎回の授業の振り返りは添削し、次回の授業で総評を行う。	
テキスト	岸井勇雄他、「保育者論　―共生へのまなざし―」、同文書院	
参考書等	「育ての心（上）」・「幼稚園真諦」 倉橋惣三　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
社会福祉論 Theory of Social Welfare	1年前期	講義	2	卒業選択 資格必修	重永　茂

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		○				○	◎	

授業の目的	少子・高齢化の進展のもと、社会福祉の公私にわたる政策、制度、実践の状況は変化しつつあり、その現状を基盤とした社会福祉全般の把握を通してその意義、位置づけ、必要性に関し理解を深める。以上の理解のもと、 子ども家庭支援の視点について理解する。
到達目標	1.「生存権保障」の理念に基づく「公的責任」について把握する。 2. 公私にわたる社会福祉事業の現状についての知識を深める。 3. 社会福祉事業の対象（全国民への広がり）について把握する。
授業の概要	現代社会における社会福祉サービスについての正しい理解に関して、成り立ちからの道筋及び現行制度、サービス内容の返遷・現状等の全般及び諸分野ごとの認識を深める。併せて、福祉関連機関・業務内容・専門職員の位置づけ、財政基盤等について理解する。

授業計画

1	社会福祉の考え方と役割 社会福祉に関する基本的視点を通し、正しい理解及び現代的意義を学ぶ。	9	社会福祉法制及び実施体制 現代の社会福祉の法律体系とそれに基づく実施体制（機関、職員、事業内容等）について学ぶ。
2	社会福祉と関連制度・施策 国民生活の安定に向けた社会福祉をとりまく関連諸制度、施策の状況について学ぶ。	10	相談援助（ソーシャルワーク）の意味と方法 社会福祉専門職が活用する専門技術に関する基礎を学ぶ。
3	社会福祉の今日までの道筋（展開・変遷）を理解し、今日的意義について学ぶ。 （1）古代社会～昭和20年までの動向	11	社会福祉に関する諸分野の目的、対象、発展過程、現状、課題等について学ぶ。 （1）地域福祉 （2）高齢者福祉 （3）障害者福祉 （4）子ども家庭福祉 （5）生活困窮者の福祉
4	（2）現代社会～昭和20年以降の動向について学ぶ。 推移・現状・問題点等。	12	
5	（3）児童家庭福祉の制度、施策の現状について学ぶ。 推移・現状・問題点等。	13	
6	（4）欧米における今日までの動向の理解について学ぶ ・英国における歴史的展開 ・米国における歴史的展開	14	[小テスト2]（授業7～13回の範囲）福祉サービス利用者の主体的活用を支える制度の在り方及びその概要を学ぶ。
7	[小テスト1]（授業 1～6回の範囲） 社会福祉体系化 日本の社会福祉の生成　～今日までの道筋を確認し、その特質を学ぶ。	15	まとめ及び補足説明による全般的理解の修得 質問・疑問に答える。
8	社会福祉にかかわる法律と財政 社会福祉事業の実践の基盤的支えである財源に関して学ぶ。		

成績評価の方法・基準	授業で行う2回の小テスト60%（2回の平均値）、レポート20%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。	
留意事項	積極的受講による理解の一環として、疑問、質問は授業中においても随時受け付ける。	
準備学習 （予習・復習等）	授業内容の復習を通して、正しい理解に努めること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	小テストは、実施後に解説し、次回に返却する。	
テキスト	「社会福祉」 直島正樹・原田旬哉　編著　萌文書林	
参考書等	「児童福祉六法」 児童福祉法規研究会　中央法規	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子ども家庭福祉 Child family welfare	1年前期	講義	2	卒業必修 資格必修	宮地　あゆみ

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
		○	○			○	◎	

授業の目的	子どもやその家庭に関連がある諸制度や支援の在り方を学び、児童福祉の専門職としての立場から、子どもや家庭を取り巻いている環境、それぞれの課題や人権擁護の視点など基本的知識を習得する。
到達目標	1. 子どもに関連がある歴史や諸制度について理解する。 2. 子どもや家庭を取り巻いている現状や課題を理解し、支援の在り方について考えられるようになる。 3. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解し、児童福祉の専門職としての自覚を持つようになる。
授業の概要	担当者の保育士、社会福祉士としての実務経験を下に、児童家庭福祉の理念・歴史・課題及び関連施策の体系を学ぶ。 自分の意見やグループで話し合った内容を発表することができるようになる。 児童家庭福祉についてより深く理解するために、関連した資料を配布する。

授業計画

1	子ども家庭福祉の理念と概念	9	子ども虐待・DV とその防止
2	子ども家庭福祉の歴史的変遷および現代社会と子ども家庭福祉	10	貧困家庭、外国籍の子どもとその家庭への対応
3	子どもの人権擁護	11	社会的養護
4	子ども家庭福祉の制度と実施体系	12	障害のある子どもへの対応
5	子ども家庭福祉の施設と専門職	13	少年非行への対応
6	少子化と地域子育て支援　（グループワーク）	14	子育て支援とコミュニケーション　（グループワーク）
7	母子保健と子ども健全育成	15	まとめ
8	多様な保育ニーズへの対応		

成績評価の方法・基準	学期末試験（50%）、講義内レポートおよび発表（30%）、その他（受講態度・発言）（20%）	
留意事項	講義中に配布したプリントなどは、紛失しないようにすること。	
準備学習 （予習・復習等）	事前にテキストに目を通しておくこと。授業で理解できなかったところは復習して理解するようにし、講義後に質問にくること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	毎回の講義後に振り返りシートを配布し、授業の理解度を確認したうえで、その後の講義へと反映させる。	
テキスト	子ども家庭福祉　新・基本保育シリーズ3　中央法規	
参考書等	「愛着障害～子ども時代を引きずる人々～」岡田 尊司　ほか随時紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子ども家庭支援論 Theory of Families Children Support	2年前期	講義	2	卒業選択 資格必修	園田　和江

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						○	◎	

授業の目的	保育士の社会的な役割には、保護者など子育て家庭に対する支援がある。保育士に子育て家庭支援の役割が求められるようになった社会的背景や、多様な家庭の状況などを理解する。基本的知識を基に、それぞれの家庭の状況に応じた適切な支援を考えられるようになる。
到達目標	1. 現代社会の家庭や子育てをめぐる状況と、子ども家庭支援の必要性について理解する。 2. 家庭の状況に応じた家庭支援の体制について説明することが出来る。 3. 多様な家庭の子育てに生じた課題を支援するために、適切な支援のあり方を考えられるようになる。
授業の概要	現代社会において、少子化、核家族化、共働き家庭の増加、家庭や地域の子育て機能の弱体化など、子どもを取り巻く環境は大きく変化している。家庭を支えることは、子どもの最善の利益にも繋がる。担当者は、臨床発達心理士、保育士としての実務経験を下に実践例を紹介するので、具体的な事例を学ぶことになる。

授業計画

1	子ども家庭支援の意義と役割	9	子育て家庭の状況に応じた支援 ③多文化への対応
2	保育士による子ども家庭支援の意義と基本	10	子育て家庭の状況に応じた支援 ④様々な形の家庭への対応
3	家庭生活を取り巻く環境とその変容	11	子育て家庭支援における保育士 ①基本的な態度
4	子育て家庭の福祉を支える社会資源	12	子育て家庭支援における保育士 ②家庭支援のためのカウンセリングマインド
5	地域の子育て家庭への支援	13	子育て家庭支援における保育士 ③社会資源や関係機関との連携
6	子育て支援のプロセス	14	家庭支援のためのソーシャルワーク
7	子育て家庭の状況に応じた支援 ①障害のある子どもへの対応	15	事例検討とまとめ
8	子育て家庭の状況に応じた支援 ②要保護児童等への対応		

成績評価の方法・基準	期末試験50%、授業中の課題30%、授業に取り組む態度20%で採点し、60%以上取得で単位認定。	
留意事項	保育現場での実践力向上のため、演習課題に積極的に取り組むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	次回の講義のテーマを知らせるので、各自予習すること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	課題は、実施後に回収する。次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。	
テキスト	「保育者が学ぶ子ども家庭支援論」植木信一編著　建帛社	
参考書等	「保育パワーアップ講座　基礎編」安梅　勅江編著　小児医事出版社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
社会的養護Ⅰ Social Care Ⅰ	1年後期	講義	2	卒業選択 資格必修	重永 茂

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○				◎	

授業の目的	子どもと家庭を取り巻く環境の変化を受け、養護問題が多様化している現在、社会的養護の意義や必要性が強調されている。現代社会における社会的養護の意義、理念と基本原理、体系、社会的養護を必要とする子どもの心理的ケアや保護者支援の必要性について学習し、社会的養護の中心を担う児童福祉施設の保育士には独自の役割と専門性があることを認識する。
到達目標	1. 近年の養護問題の特徴を学び、現代社会における社会的養護の意義について知識を習得する。 2. 子どもの権利擁護、自立支援、家族関係の再構築等の基本原理や社会的養護の体系について知識を習得する。 3. 社会的養護における保育士の役割と専門性や自立支援の必要性について理解し、説明できるようになる。
授業の概要	テキストや配布資料を使用した講義を中心とし、社会的養護に関する知識の習得を目指す。授業中に出題するレポート課題の考察を通して社会的養護の中心を担う保育士の支援の専門性や基本的な技術、社会的養護の意義や基本原理について学生が自身で主体的に考えられるようになることを目指す。

授業計画

1	子どもの育ちと社会の役割 児童福祉から児童家庭福祉への転換について、子どもと家庭を取り巻く環境の変化から学ぶ。	9	社会的養護の制度・施策 社会的養護に関係する法律や制度を学ぶ。
2	子どもの権利擁護 現代社会において児童の権利とはどのような意味を持つのかを学ぶ。	10	社会的養護の体系 社会的養護のしくみや種類、実施体制を学ぶ。
3	現代社会における社会的養護の意義 「子育ての社会化」と社会的養護について学ぶ。	11	施設養護の特質と基本原則 施設養護の基本的な役割や支援過程、方法等を学ぶ。
4	自立支援 社会的養護における自立支援の必要性について学ぶ	12	施設養護の実際① 児童養護系施設の種類と目的、支援内容と課題等を学ぶ。
5	児童養護の歴史的変遷① 児童養護の始まりから現代までを学ぶ。	13	施設養護の実際② 障がい児系施設等の種類と目的、支援内容と課題を学ぶ。
6	児童養護の歴史的変遷② 先駆者の取り組みを学ぶ。	14	[小テスト2](授業7～13回の範囲) 家庭的養護の特質と基本原則 家庭養護の基本的な役割や支援過程・方法等を学ぶ。
7	[小テスト1](授業 1～6回の範囲) 社会的養護において保育士に求められる視点 保育士の役割と専門的アプローチについて学ぶ。	15	これからの社会的養護 今後に期待される社会的養護の支援体制等について学ぶ。
8	保育士とソーシャルワーク 社会的養護におけるソーシャルワークの必要性、ソーシャルワークの基本原則等を学ぶ。		

成績評価の方法・基準	授業で行う2回の小テスト60%(2回の平均値)、レポート課題20%、受講態度20%で総合評価する。	
留意事項	意欲的に取り組むこと。授業中の携帯電話の使用は禁止する。	
準備学習 (予習・復習等)	学習した内容を復習し、次回学習する内容はテキストを読んでおく。理解しづらい点はピックアップしておき、授業中に質問するなどして理解する。	必要時間:3時間
課題のフィードバック	小テストは、実施後解説及び返却を行う。	
テキスト	「新版 社会的養護Ⅰ」 辰巳隆・波田埜英治 編著 みらい	
参考書等	授業の中で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
社会的養護Ⅱ Social Care Ⅱ	2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	園田　和江

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○		○	◎	

授業の目的	児童の権利擁護や保育士の倫理を土台として、子どもたちや保護者が抱える社会的・心理的課題について理解をすること。施設実習においても、社会的養護の在りかた、入所児童の特徴を理解することは重要である。多面的に子どもを理解し、自立支援に向けて関係機関や他職種との連携について適切な支援を学ぶ。
到達目標	1. 社会的養護に関する社会的背景や状況を理解する。 2. 施設の小規模化と家庭的養護の取り組みを理解する。 3. 子どもの自立支援に向けた援助のあり方について演習を通して理解する。
授業の概要	社会的養護の現状を把握する。被虐待児や障害のある児童の増加があるので、乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設と家庭的養護である里親について深く学ぶ。担当者は臨床発達心理士、保育士、認定音楽療法士なので、子どもや保護者の心理的・社会的課題について援助方法を詳しく解説する。

授業計画

1	社会的養護Ⅰの振り返り 「グループワーク」それぞれの施設の役割について	9	社会的養護の事例検討 ①地域小規模児童養護施設における自立支援 「グループワーク」家庭的養護の現状と課題
2	施設養護の養育：乳児院と児童養護施設の役割 「ディスカッション」子どもと職員の愛着形成について	10	社会的養護の事例検討 ②ハイリスク家庭における支援 「グループワーク」ハイリスク家庭の発見と介入
3	施設養護の実際 ①生活形態や日常生活支援 「グループワーク」施設の 1 日の流れや年間行事	11	ソーシャルワーク ①入所児童の家庭再統合に向けた支援 「グループワーク」他職種との連携
4	施設養護の実際 ②施設擁護の現状と対応 「レポート作成」被虐待児、障がい児、学修支援の必要な子どもの現状と対応	12	ソーシャルワーク ②入所児童と地域住民の友好的な関係の構築 「グループワーク」関係構築に向けて考えられること
5	施設養護の実際 ③治療的・支援的援助(プレイセラピーや芸術療法など) 「グループワーク」治療的支援について	13	年長児童の自立に向けた支援 「グループワーク」自立への支援とアフターケアについて
6	施設養護の実際 ④入所児童の家族への支援 「ディベート」家庭復帰について	14	社会的養護のあるべき姿 「グループワーク」社会的養護の方向性と基本理念
7	家庭養護の実際 ①養育里親やファミリーホームの取り組み 「ディスカッション」委託された子どもについて考えたこと	15	社会的養護における保育士の役割 「プレゼンテーション」児童家庭福祉の援助者としての資質・倫理について
8	家庭養護の実際 ②特別養子縁組制度 「ディスカッション」赤ちゃんポストなど、養子縁組制度について		

成績評価の方法・基準	期末試験 50%、授業中の演習課題 30%、授業に取り組む態度 20%で採点し、60%以上取得で単位認定。	
留意事項	施設実習先での子どもたちを想定し、その現状の正しい理解と対応に向け、積極的に授業へ臨むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	予習と授業内容のふりかえりによって、正しい現状把握を行い、施設実習や実践へ繋がるように取り組むこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	授業内で取り組んだ演習課題は、その場でコメント・解説する。提出した課題については、次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。	
テキスト	「社会的養護Ⅱ」（公)児童育成協会監修　相澤　仁編著　中央法規	
参考書等	授業中に適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
発達心理学 Developmental Psychology	1年後期	講義	2	卒業選択 免許・資格必修	濱田　尚志

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○			○	

授業の目的	人は、胎児期から老年期に至るまで、身体的側面・心理的側面・社会的側面など、様々な側面において年齢とともに変化し、成長していく。本講義では、そうした人の生涯にわたる発達の過程の中でも、特に乳幼児期に重点を置きながら、発達を説明する主要な諸理論を学び、基本的な理解を得ることを目的とする。
到達目標	1. 発達心理学の基本的な知識や概念を理解する。 2. 様々な子どもの行動について、発達段階を理解し心理学的な観点から説明できる。 3. 生活と遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習の過程を理解する。
授業の概要	乳幼児期に重点を置き、発達を説明する主要な諸理論を学ぶ。また身体と運動、認知と思考、言語とコミュニケーション、愛着、感情、自己等のキーワードから子どもの発達プロセスを学ぶ。さらに発達をふまえた遊びや生活を通して学ぶ子どもの学習過程について、臨床心理士としての実務経験に基づいた支援例を紹介しながら、その基礎的な考え方を理解する。

授業計画

1	心理学とは ・心理学の歴史・心理学的な物の考え方 ・心理学を学ぶ意義	9	遊びと仲間関係の発達 ・遊びとは何か　・遊びの発達的変化 ・仲間関係の発達特徴
2	発達とは ・発達が意味するもの　・発達を規定するもの ・発達研究の方法	10	道徳性と向社会的行動の発達 ・思いやりの芽生えと発達　・道徳性の発達 ・向社会的行動の発達
3	乳児の発達 ・赤ちゃん研究最前線 ・有能な乳児	11	子どもの行動の心理学的理解 ・DVD視聴を通して、これまでの学びの振り返りを行う
4	自己の発達 ・自己という意識　・他者と自己の関係	12	保育実践と指導①「活動への動機づけ（モチベーション）の理論について学習する」
5	愛着と親子関係 ・愛着の発達とその機能　・親の子育てと親の発達	13	保育実践と指導②「指導の形態について学習し、学びの場面設定の工夫について考える」
6	感情と動機づけの発達 ・感情とその機能　・動機づけ	14	保育実践と指導③ 「学級集団の成り立ちや崩壊の危機等について学習し、クラス運営について考える」
7	言語・コミュニケーションの発達 ・前言語的コミュニケーション ・言語的コミュニケーション　・養育者の役割	15	まとめ
8	認知と思考の発達 ・ピアジェの発達理論 ・各時期の認知・思考の発達特徴		

成績評価の方法・基準	定期試験による評価（70%）、レポート課題（10%）、毎授業後の振り返りシート（20%）	
留意事項	保育者となることを自覚しながら学ぶこと。	
準備学習 （予習・復習等）	事前に学習する範囲のテキストに目を通してくること。復習では、授業で配布した資料やテキストの要点をまとめ、知識の定着をはかること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	授業内で取り組んだ課題は、次週にコメントし解説する。	
テキスト	エピソードで学ぶ乳幼児の発達心理学―関係のなかでそだつ子どもたち （岡本依子　菅野幸恵　塚田―城みちる著、新曜社　出版）	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館、その他、適宜資料を配付、参考図書を紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子どもの理解と援助 Assessment and Support for Children	2年後期	演習	1	卒業選択 資格必修	濱田　尚志

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎		○		

授業の目的	保育において、子どもの実態に応じた心身の発達や学びは様々である。そのことを理解し、生活や遊びの中で、子ども理解を深める視点と実践方法について学び、子どもの発達をより豊かに育むための知識や技術について学習する。
到達目標	1. 保育の実践において、個々の子どもの発達の段階を把握する意義について理解する。 2. 子どもの体験や学びの過程において、子どもを理解するうえでの基礎知識と具体的な方法を理解する。 3. 子どもの理解に基づく保育士の援助や態度の基本的な姿勢について理解する。
授業の概要	子どもの発達を踏まえて、子どもの理解を深め、保育実践における援助方法についての知識を習得する。臨床心理士としての実務経験を下に演習等を通して、現場で活用する実践力を育み、乳幼児期の教育を担う専門家としての資質の向上を図る。さらに、グループワークを通して、共同する力を身につける。

授業計画

1	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(1) 保育における子どもの理解の意義について学ぶ。	9	子ども理解を深める観察と記録(2) 保育現場において子どもを「見る」視点と記録の意義について理解する。
2	子どもの実態に応じた発達や学びの把握(2) 子どもを理解するために求められる姿勢について考える。	10	子ども理解を深める保育カンファレンス(1) 園内研修の必要性と意義、保育カンファレンスについて把握する。
3	子どもを理解する視点と保育実践(1) 子どもの生活や遊びについて学び、子どもの発達を促す保育の実践を考える。	11	子ども理解を深める保育カンファレンス(2) 子ども理解に役立つ保育カンファレンスの在り方について考え、事例を通したグループワークを実践する。
4	子どもを理解する視点と保育実践(2) 保育環境と子どもの発達の関係について学び、保育者としての姿勢や場面設定を考える。	12	子ども理解に基づく発達援助(1) 保育における発達の課題に応じた援助方法について考える。
5	子どもを理解する視点と保育実践(3) 子ども同士の相互交流と集団における経験と育ちについて学び、クラス運営について考える。	13	子ども理解に基づく発達援助(2) 特別な配慮を要する子どもの理解と援助方法について考える。
6	子どもを理解する視点と保育実践(4) 発達段階における葛藤やつまずきを把握し、個々の発達に応じた支援の方法について考える。	14	事例検討 個々の発達段階を把握した支援の方法について考え、レポートにまとめる。
7	子どもを理解する視点と保育実践(5) 保育環境の理解と構成、変化や移行について学び、チームワークによる協同について考える。	15	まとめと考察 レポート課題の解説および発達援助の考察を行う。
8	子ども理解を深める観察と記録(1) 子ども理解に必要な行動観察の理論と方法について学ぶ。		

成績評価の方法・基準	レポート課題(30%)、授業中の演習課題(50%)、受講態度(20%)を総合して評価する。	
留意事項	演習課題では、実践力につながるように、積極的に取り組むこと。なお、授業中の私語、居眠り、スマートフォンの使用は減点の対象とする。	
準備学習 (予習・復習等)	事前に、テキストや配布した資料を確認し、授業内容を把握すること。また、実践の基盤となる知識を復習し、理解を深めること。	必要時間:45分
課題のフィードバック	レポート課題および演習課題は、実施後に回収する。次週、理解の程度や、質問や疑問などに合わせて、解説する。返却は、授業期間中内に行う。	
テキスト	「子どもの理解と援助」　無藤隆、堀越紀香　他編著　光生館	
参考書等	授業の中で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育方法･技術 Method and Technique of Pre-school Education	1 年後期	演習	1	卒業選択 免許必修･資格選択必修	大原　青子

学科のディプロマ･ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				◎		○		○

授業の目的	保育方法および記述について、一般的な原理･技術を理解し、保育に関する一般的な知識を身につける。 また、モンテッソーリ教育の原理を理解し、全ての保育現場で応用できるような知識を身につける。
到達目標	1. 保育方法に関する一般的な原理を理解し、保育技術に関する一般的な知識を身につける。 2. 保育方法に関する一般的な技術を理解し、保育技術に関する一般的な技術を身につける。 3. モンテッソーリ教育の原理を理解し、全ての保育現場で応用できるような知識を身につける。
授業の概要	担当者の保育士としての実務経験を下に、保育方法･技術に関する一般的な知識や技術を習得するとともに、モンテッソーリ教育法について、その保育方法･技術を探求する。また内容が演習を伴う内容の講義についてはクラスを前･後半に分け、少人数制でグループワークやディスカッションを実施する場合もある。講義全 14 回とまとめ1回の全 15 回行う。

授業計画

1	保育方法･技術について概論	9	保育方法技術の実際 2 -大人の準備･心得(人的環境の整え方)
2	モンテッソーリ教育概論･方法と原理、自立へと導く活動の原理、世界･日本の現状	10	保育方法･技術の実際 3 -自由選択活動と制限のもうけ方 グループワーク／ディスカッション - 集団での活動について（横割り vs 縦割り）
3	モンテッソーリ乳幼児発達理論 -乳･幼児の発達段階概論 -乳･幼児の心理発達	11	保育方法･技術の実際 4 -観察理論 -観察の実際
4	保育室の環境づくり -家庭環境･0歳児の環境 グループワーク／ディスカッション	12	保育方法･技術の実際 5 -自尊心･自信･有用感･所属感の育て方 - 健やかな精神を育てるための大人の態度
5	モンテッソーリ乳幼児発達理論 -脳神経と自律運動の発達	13	モンテッソーリ教育の実践Ⅱ -『日常生活の練習』の意義 - 調理･環境をお世話する活動 - 戸外でのガーデニング活動･自然体験
6	モンテッソーリ教育の実践 -運動発達を促す環境 - 心理･感覚･運動環境 グループワーク	14	モンテッソーリ教育の実践 Ⅱ -感覚･数教育　文化教育～小学校へ
7	保育方法技術の実際 1 -言語　聞く力･話す力の発達 -表現する力	15	まとめ
8	保育室の環境づくり　-1･2歳児の環境		

成績評価の方法･基準	出席(10%)＋提出物･レポート(40%)を原則として総合評価する。	
留意事項	特になし	
準備学習 (予習･復習等)	毎回の講義内容を復習し、ノートをまとめておくこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	教材制作などの提出課題は採点し、次週の授業で返却し総評する。	
テキスト	プリント配布のため特になし。	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育･保育要領」内閣府･文部科学省･厚生労働省 フレーベル館　「新しい世界のための教育」マリア･モンテッソーリ 関 聡(訳) 青土社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
幼児理解 Developmental Clinical Psychology	1年前期	講義	2	卒業選択 免許必修・資格選択必修	萩尾・安元・山内

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○				◎	

授業の目的	現代における幼児の家庭での生育過程は、多岐に渡っている。様々な子どもが集まってくる幼稚園、認定こども園、保育園の果たす役割は、大きくなっている。そういう意味で一人ひとりの子どもに向き合い行動を分析し、内面に潜む心の動きや行動を、どう指導・支援したらよいかを習得できるようにする。
到達目標	1. 幼児間のトラブル対処の現実と実際を知り、色々な対応要素があることを理解する。 2. 年齢や発達段階に応じた絵本選びの視点がわかるようになる。 3. 養育環境の変化を踏まえた、育児支援の現状と課題を知り、役割を理解する。
授業の概要	幼稚園・認定こども園における幼児の実態や指導の実際から幼児教育の現状を知る。また、担当者の幼稚園教諭、保育士また園長としての実務経験を下に、保育現場の実践・エピソードをとおして、子どもをどのように見て理解していくかを学習する。事例をもとに、グループワークやプレゼンテーションを行う。

授業計画

1	子どもを理解する姿勢とは（安元） カウンセリングマインドをベースに幼児理解の方法を考える	9	子どもを取り巻く環境の変化（山内） ・保育の現場における子育て支援の必要性を知る。
2	「わたし」とはなんだろう（安元） 絵本を通して「わたし」を考える 「わたし」を創る「経験」の大切さを知る	10	保育者の役割（山内） ・保育者の資質について 自分自身の内面を見つめなおし、その役割を考える。
3	幼児理解の事例研究①（安元） 遊びや活動の中での幼児理解についての事例を取り上げ考察する	11	保育の過程と理解の方法（萩尾） ・観察を通して理解する 観察とは何だろう
4	幼児理解の事例研究②（安元） 遊びや活動の中での幼児理解についての事例を取り上げ考察する	12	保育の過程と理解の方法（萩尾） ・かかわりながら理解する① 困る経験、とまどう経験からの気づき
5	子育て環境の変化（安元） 子どもを取り巻く環境を知り、保育の場における子育て支援・家庭支援の必要性を知る	13	保育の過程と理解の方法（萩尾） ・かかわりながら理解する② 子ども像の再構築　（グループワーク）
6	子どもの理解①（山内） 視聴覚教材を使用し、園での子どもの活動を知る。	14	保育の過程と理解の方法（萩尾） ・記録から理解する 何を記録するのか　（プレゼンテーション）
7	子どもの理解②（山内） 遊びや活動の中で、幼児理解について事例を取り上げ考察する。	15	保育の過程と理解の方法（萩尾） ・話し合いを通して理解する 課題を共有する
8	子どもの理解③（山内） 発達に沿った年齢別読みきかせ ～絵本で広がる子どもの世界～		

成績評価の方法・基準	レポート、提出物70%、受講態度・姿勢30%で総合評価する。	
留意事項	1～5回は安元、6～10回は山内、11～15回は萩尾が担当する。	
準備学習 （予習・復習等）	年齢に応じた絵本を選んでおく（3，4，5歳児、各1冊）図書館で借りた物、購入したもの等	必要時間：3時間
課題のフィードバック	レポートは次回に返却し、その際に総評を行う。	
テキスト	プリント配布	
参考書等	萩尾：「幼児理解と保育援助」 森上史朗　浜口順子 （ミネルヴァ書房）　安元：「子ども理解とカウンセリングマインド」青木久子著（萌文書林）　山内：保育者論（著者）汐見稔幸。大豆生田啓太	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子ども家庭支援の心理学 Psychology of Child and Family Support	2年前期	講義	2	卒業選択 資格必修	牛島　弘輔

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○			◎	

授業の目的	心理学の基礎的な知識を踏まえ、家族を発達の初期から生涯に及ぶ長い変化の過程として理解できるようになることを目標とする。また、現代の子育ての実態や家庭の現状を理解し、家族がかかえるさまざまな心理的問題について社会的背景をふまえて考察できる視点を習得することを目的とする。
到達目標	1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。 2. 家族の意義を理解し、親子関係や家族関係等を発達的かつ包括的に捉える視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。
授業の概要	生涯発達の視点から、各年代の発達課題を理解する。また、現代社会の課題を理解した上で、現代の家族や家庭の意義を探求する。さらに親育ちやワークライフバランスの考え方を学び、家族を発達的・包括的に捉える視点を習得する。また子どもの心の健康に関する基礎的知識について、臨床心理士としての実務経験に基づいた事例等も紹介しながら学ぶ。

授業計画

1	オリエンテーション ・授業概要と評価方法の説明 ・発達心理学の学びの振り返り	9	多様な子育て家庭の理解と支援 ・育児不安、孤立しがちな家庭への支援
2	生涯発達についての理解① 乳幼児期から青年期にかけての発達の概要	10	特別な配慮を要する家庭への支援 ・関係機関との連携
3	生涯発達についての理解② 成人期・老年期における発達の概要	11	子どもの生活・生育環境とその影響 ・子どもの貧困
4	家族・家庭の意義と機能	12	心の健康の概念 ・健康とは　・精神保健とは
5	親子関係・家族関係の理解 ・家族の中の様々な関係	13	子どものこころの病気① ・生活習慣に関する問題　・言葉に関する問題 ・習癖に関する問題
6	子育ての経験と親としての育ち ・親になることによる発達とそれに関わる要因	14	子どものこころの病気② ・愛着に関する問題 ・問題行動の捉え方と援助の視点
7	子育てを取り巻く社会的状況 戦後から現代までの家族ならびに子育て環境の変化	15	まとめ ※9回～14回までの内容の小テストを実施
8	ライフコースと仕事・子育て ・子育て期のワーク・ライフバランス ※1回～7回までの内容の小テストを実施		

成績評価の方法・基準	小テスト（60%）、授業内の課題（20%）、受講態度・姿勢（20%）で総合評価する。	
留意事項	つどいの広場などの子育て支援の現場を積極的に見学したり、親子活動に参加したりすること。	
準備学習 （予習・復習等）	授業で配布した資料を読み込み、授業で学んだ知識の定着をはかること。授業で学んだテーマに関する新聞記事やニュースに常に関心を持つこと。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	小テストについては次週以降に解説し、総評する。授業内で取り組んだ課題は、その回でコメントし解説する。	
テキスト	予定「シードブック　子ども家庭支援の心理学」 本郷一夫 神谷哲司 編著　建帛社	
参考書等	授業の中で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育・教育相談支援 Counseling and Support in Child Care・Education	2年後期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	園田　和江

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○			◎	○

授業の目的	現代社会において、子どもを取り巻く社会環境の変化や育児のあり方が多様化している。保護者に対して子育て支援を適切に行うために基本的理論や知識を習得し、具体的な相談援助の技術等について学び、適切な支援が行えるようになることを目的とする。
到達目標	1. 保育・教育相談支援の意義について理解する。 2. 保育・教育相談支援の基本的理論と知識を学び、その内容や方法を理解する。 3. 子どもを取り巻く環境を把握し、適切な保護者支援を考えられるようになる。
授業の概要	保護者支援の意義と原則の理解、保護者や家族に対する理解と援助の考え方を学ぶ。さらに地域社会を視野に入れた支援や社会資源との連携等についても理解する。担当者は、臨床発達心理士、保育士としての実務経験を下に実践例を紹介するので、具体的な場面での相談技術を身につけることが出来る。

授業計画

1	保育相談支援の基本的な考え方 ①保育・教育相談支援の意義	9	保育・教育相談支援の具体的な展開 ②関係機関との協働、多様な専門職との連携 「グループワーク」関係機関、専門職についてまとめる
2	保育相談支援の基本的な考え方 ②保育・教育相談支援とソーシャルワーク 「グループワーク」ソーシャルワークについて考える	10	保育・教育相談支援の具体的な展開 ③社会資源の活用と事例分析 「グループワーク」エコマップで整理する
3	保育相談支援の基本的な考え方 ③保育・教育相談支援と生活課題 「グループワーク」生活課題をKJ法で捉える	11	保育・教育相談支援の実際 ①エンパワメント支援計画表の活用 「グループワーク」エンパワメント支援計画表の作成方法
4	保育相談支援の基本的な考え方 ④自己覚知と他者理解 「ディスカッション」価値観について	12	保育・教育相談支援の実際 ②生活のリズムが整わない子どもの事例分析 「グループワーク」エンパワメント支援計画表の作成
5	保育・教育相談支援の方法と技術 ①相談援助者としての基本原則 「ディスカッション」バイスティックの原則について	13	保育・教育相談支援の実際 ③障がいのある子どもと、その保護者への支援の事例 「グループワーク」エンパワメント支援計画表の作成
6	保育・教育相談支援の方法と技術 ②カウンセリングマインドや面接の基本技術 「ロールプレイ」保育者と保護者になり面接を行う	14	保育・教育相談支援の実際 ④虐待の予防と対応の事例分析 「グループワーク」エンパワメント支援計画表の作成
7	保育・教育相談支援の方法と技術 ③家族関係や連携機関の把握 「グループワーク」ジェノグラム・エコマップの作成	15	保育・教育相談支援のまとめ 「プレゼンテーション」保育者として保育・教育相談支援に求められていること
8	保育・教育相談支援の具体的な展開 ①計画・記録・評価 「グループワーク」事例検討		

成績評価の方法・基準	期末試験50%、授業中の演習課題30%、授業に取り組む態度20%で採点し、60%以上取得で単位認定。	
留意事項	実習先での保育士、幼稚園教諭と保護者のかかわり方について関心を持って両者の様子を観察すること。また、子育て支援の現場を見学したり、参加したりすること。	
準備学習 （予習・復習等）	保育・教育相談支援は知識を基礎にして、問題を解決していく実践力が問われる。そのため、予習復習にしっかりと取り組むこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	授業内で取り組んだ演習課題は、その場でコメント・解説する。提出した課題については、次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。	
テキスト	「保育パワーアップ講座　基礎編」安梅　勅江編　日本小児医事出版社	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子どもの保健 Child Health	1年後期	講義	2	卒業必修 資格必修	田中 千絵

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎			○	

授業の目的	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、成長発達、心身の健康状態とその把握方法について理解する。安全な保育環境について学び、保育の専門職として、子どもが地域の中で健やかに育まれることを手助けできるための知識を修得する。
到達目標	1. 子どもの発育・発達を踏まえ、病気だけでなく、積極的に健康増進する方法を学ぶ。 2. 子どもを取り巻く環境と精神保健、地域における母子保健行政について学ぶ。 3. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的関わりや保健活動の計画及び評価等について学ぶ。
授業の概要	子どもの保健では、担当者の看護師および助産師としての実務経験を下に、子どもの健康な成長発達、病気の特徴や予防について課題解決型学習等の手法を取り入れ学習者が能動的に学習に参加する。 子どもを取り巻く環境、代表的な疾患の特徴とガイドラインに基づく対応方法や母子保健政策を学ぶ。

授業計画

1	オリエンテーション 子どもと保育保健 子どもの健康と統計；健康の定義と所統計	9	環境及び衛生管理並びに安全管理 保育現場における事故防止及び安全対策 応急処置
2	子どもの健康と地域における保健活動 子どもの健康に関する現状 子どもの健康課題	10	子どもの病気と予防① 子どもの病気の考え方 感染症
3	子どもの成長・発達と保健① 子どもの身体発育と評価 子どもの生理機能の発達	11	子どもの病気と予防② 感染症と予防対策 感染症の予防・予防接種の種類と方法
4	子どもの成長・発達と保健② 運動機能の発達と評価	12	子どもの病気と予防③ アレルギー疾患とアナフィラキシー アレルギーに対する管理
5	子どもの成長・発達と保健③ 精神機能の発達と評価 母子相互作用	13	子どもの病気と予防④ 栄養の障害・代謝の病気・内分泌の病気 消化器の病気・呼吸器の病気・循環器の病気
6	子どもの心身の健康状態とその把握① 日々の健康観察と心身の不調の早期発見 発達障害と神経疾患	14	子どもの疾患と保育⑤ 血液の病気・悪性腫瘍・その他の病気 皮膚の病気・運動器の病気・眼−耳−鼻の病気
7	子どもの心身の健康状態とその把握② 心因性疾患と内因性疾患 障害のある子どもの保育	15	健康及び安全の実施体制 母子保健と保育・地域における母子保健体制 保健計画の作成
8	子どもの保健と地域における保健活動と虐待防止 子どもの健康課題 児童虐待の現状と対策 子育て支援		

成績評価の方法・基準	筆記試験70% 課題レポート 20% 受講態度・姿勢 10%	
留意事項	いくつかの課題テーマのうちから、2題選び、文献や資料を基に一題につき A4 レポート1枚作成してする。	
準備学習 （予習・復習等）	（準備）オリエンテーション時、各回の内容に関する教科書の該当箇所を伝えるので、事前に教科書を読んでから出席すること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	提出された課題レポートは、次回の授業時に紹介し、返却する。	
テキスト	保育を学ぶ人のための子どもの保健　堀 浩樹・梶 美穂他編著 初版 建帛社	
参考書等	子どもの健康と安全　第1版　遠藤邦夫・三宅捷太他編著 学建書院	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子どもの健康と安全 Child Health and Safety	2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	田中　千絵

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎				

授業の目的	保育指針に基づき、子どもの健康及び安全を確保したうえで、子どもの生活や発達過程を見通し、心身の健康に関する保健活動や環境の調整を行えるよう保育の内容を組織的・計画的に構成し、保育を実践できる方法を習得する。
到達目標	1. 子どもの成長発達を理解し、心身の健康に関する保健活動の計画及び評価について学ぶ 2. 子どもの保育環境における衛生管理および安全管理の方法について学ぶ。 3. 子どもの体調不良時の適切な対応とガイドラインに基づく感染症対策・アレルギー対策について学ぶ。
授業の概要	「子どもの保健」での既習学習をもとに、担当者の看護師および助産師としての実務経験を活かし、子どもの健康や病気・事故について対応だけでなく予防について、実際の場面を想定しながら課題解決型学習の手法を用い実践・評価の方法を学ぶ。

授業計画

1	オリエンテーション 「子どもの健康と安全」の意義と目的 保育所保育指針の目指すもの	9	子どもの体調不良などに対する適切な対応③ アレルギーおよびアナフィラキシー
2	保健的観点をふまえた保育環境および援助① 子どもの健康と保育の環境	10	子どもの体調不良などに対する適切な対応④ 救命手当の基本対応 救急蘇生法の手順
3	保健的観点をふまえた保育環境および援助② 子どもの生活習慣と発達援助	11	感染症対策 感染症の集団発生の予防 感染症発生時と罹患後の対応
4	保育における健康および安全の管理① 衛生管理 施設内・職員の衛生管理と食中毒の予防・対応	12	保育における保健的対応① 3歳未満児の対応 個別的な配慮を要する子どもへの対応
5	保育における健康および安全の管理② 事故防止及び安全対策 事故の現状・子どもの事故の特徴と予防	13	保育における保健的対応② 障害のある子どものへ対応 医療的ケアの必要な子どもへの対応
6	保育における健康および安全の管理③ 事故に対する対応 危機管理・災害発生時の対応	14	保育における保健的対応③ 発達障害のある子どもへの対応
7	子どもの体調不良などに対する適切な対応① 体調不良時の対応	15	健康および安全の管理の実施体制 職員間の連携・協同と組織的取り組み 保健活動の計画及び評価
8	子どもの体調不良などに対する適切な対応② 窒息・けいれん		

成績評価の方法・基準	筆記試験70%　レポート提出20%　受講態度・演習姿勢10%	
留意事項	実技演習を行う時は、保育実習に準じた演習にふさわしい身だしなみを整えて出席すること。	
準備学習 （予習・復習等）	（準備）オリエンテーション時、各回の内容に関する教科書の該当箇所を伝えるので、事前に教科書を読んでから出席すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	第1回目、第10回目にレポートを出題。次回レポート内容について講義で総評する。	
テキスト	「子どもの健康と安全」 第1版　遠藤邦夫編集　学建書院	
参考書等	「保育を学ぶ人のための子どもの保健」 初版　堀　浩樹編著　　建帛社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子どもの食と栄養Ⅰ Food and Nutrition for Children Ⅰ	2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	山下 浩子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎			○	

授業の目的	小児期の栄養と食生活は、生涯にわたり健康生活の基礎となることを学ぶ。とくに保育者として、子どもの心とからだの健康のために大切であることを理解する。また、保育との関連のなかで小児期の適切な食生活指導・食教育を理解する。
到達目標	1. 栄養の基礎知識を習得する。 2. 乳児期、幼児期の望ましい食生活のあり方を理解する。 3. 保育士として、子どもの食育の意義を理解する。
授業の概要	講義形式で、栄養の基礎知識、子どもの食生活の現状と望ましい食生活のあり方について学ぶ。また、保育士としての子どもの食育への取組みを習得するために、自身の食生活チェックやグループディスカッションなど演習を行う。実習では、調乳とだしの取り方を行う。

授業計画

1	子どもの栄養と食生活の現状 子どもたちの栄養の実態について知る。 食育(1)-「楽しく食べることの大切さ」を学ぶ。	9	小児期の栄養・食生活(3)-乳汁期 母乳栄養・人工栄養・混合栄養、調乳について学ぶ。
2	食生活の評価 [課題レポート] 「食事バランスガイド」を使って、自身の食生活について評価を行う。	10	小児期の栄養・食生活(4)-離乳期 「授乳・離乳支援ガイド」に基づき、離乳開始から完了までの支援、離乳食の与え方や献立について学ぶ。
3	栄養の基礎知識(1) 栄養とは何か、五大栄養素の働き、三色食品群について学ぶ。	11	＜実習1＞ レポート① 調乳(無菌操作法)を学ぶ。 冷凍母乳パックの取り扱いを知る。
4	栄養の基礎知識(2) 消化と吸収のしくみについて学ぶ。	12	＜実習2＞ レポート② だしの取り方を学ぶ。 「うま味」を知る。
5	栄養の基礎知識(3) 栄養バランスのとれた食事の指標・評価となる食事摂取基準、食品構成、食品群などについて学ぶ。	13	小児期の栄養・食生活(5)-幼児期 幼児期の栄養の特徴、食習慣の成立、咀嚼力・食行動の発達について学ぶ。
6	小児期の成長と発達 小児期の区分、体の成長・発達の基本、成長の評価方法について学ぶ。／小テスト①	14	小児期の栄養・食生活(6)-幼児期 共食や間食、弁当の意義および食生活上の問題点とその対策について学ぶ。
7	小児期の栄養・食生活(1) [課題レポート] 教育実習を終えて、「子どもの食」について、グループディスカッション・発表を行う。	15	児童福祉施設の食生活(1) 保育所給食の役割、現状、課題について学ぶ。 小テスト②／まとめ
8	小児期の栄養・食生活(2) 胎児の発育と栄養、妊娠期の食生活について、「妊産婦のための食生活指針」などを参照し理解する。		

成績評価の方法・基準	授業内で行う2回の小テスト(40%)、課題・実習レポート(30%)、受講姿勢(30%)で評価する。	
留意事項	教育実習の時期に合わせ、授業予定の週を変更する場合がある。課題・実習レポートは提出期限を守ること。	
準備学習 (予習・復習等)	授業計画に沿って、テキストを読んでおくこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	小テストは、実施後に解説し、次回以降に返却する。課題・実習レポートは、最終回に総評および返却する。	
テキスト	「子どもの食と栄養〔第2版〕」 高内正子監修 今津屋直子編著 保育出版社	
参考書等	「保育所保育指針」ほか随時紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
子どもの食と栄養Ⅱ Food and Nutrition for Children Ⅱ	2年後期	演習	1	卒業選択 資格必修	山下 浩子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎			○	

授業の目的	小児期の栄養と食生活は、生涯にわたり健康生活の基礎となることを学ぶ。とくに保育者として、子どもの心とからだの健康のために大切であることを理解する。また、保育との関連のなかで小児期の適切な食生活指導・食教育を理解する。
到達目標	1. 離乳食の進め方を理解する。 2. 幼児食を通した子どもの食育を理解する。 3.「保育所保育指針」における食育の位置づけと保育士の役割を理解する。
授業の概要	はじめに、「子どもの食と栄養Ⅰ」で学んだ離乳期、幼児期の食のあり方を復習し、各期の食事作り(グループ実習)を行う。内容は、離乳期における離乳食の展開および12～18か月ころの子ども向けの食事と幼児期の日常食、行事食および弁当である。講義においては、保育所における食育を中心に学習する。

授業計画

1	オリエンテーション 「子どもの食と栄養Ⅰ」の復習 食育(2)-食育の視点から給食を考える。	9	＜実習9＞ 幼児食5 レポート⑦ 行事食(クリスマスケーキ)
2	小児期の栄養・食生活(7)-離乳期・幼児期 離乳食の進め方、幼児の食について復習する。 小テスト①	10	
3	＜実習3＞ 離乳食1 レポート① 離乳期9～11か月児の離乳食(お粥他2品)を作り、7～8か月児、5～6か月児向けに展開する。	11	＜実習10＞ 幼児食6 レポート⑧ 行事食(郷土料理「がめ煮」)
4	＜実習4＞ 離乳食2 レポート② 離乳期12～18か月児の食事(昼食)	12	小児期の栄養・食生活(8)-学童期・思春期 学童期・思春期の栄養の特徴、学校給食および食生活上の問題点とその対策について学ぶ。
5	＜実習5＞ 幼児食1 レポート③ 1～2歳児の食事(朝食)	13	小児期の栄養・食生活(9) 保育所における食物アレルギー児への対応について学ぶ。
6	＜実習6＞ 幼児食2 レポート④ 間食(小魚おやき、お茶)	14	食育(3)-子育て支援と食育 食育を通して、保護者へのアプローチの方法を考える(グループディスカッション)。／小テスト②
7	＜実習7＞ 幼児食3 レポート⑤ 3～5歳児の食事(夕食)	15	まとめ 実習レポートの総評を受け、学習内容をまとめる。
8	＜実習8＞ 幼児食4 レポート⑥ 幼児の弁当		

成績評価の方法・基準	授業内で行う小テスト(30%)、実習レポート(40%)、受講姿勢(30%)で総合評価する。	
留意事項	実習レポートの提出は期限を守ること。	
準備学習 (予習・復習等)	授業計画に沿って、テキストを参照し、実習テーマおよび講義の内容を確認しておくこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	小テストは、実施後に解説し、次回以降に返却する。実習レポートは、最終回に総評および返却する。	
テキスト	「子どもの食と栄養〔第2版〕」 高内正子監修 今津屋直子編著 保育出版社	
参考書等	「保育所保育指針」ほか随時紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
教育課程論 Curriculum of Early Childhood Education	1年後期	講義	2	卒業選択 免許・資格必修	増田　吹子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				◎				○

授業の目的	教育・保育における指導計画の必要性を理解し、計画的に教育・保育を展開し、保育の質を向上させるために必要な考え方を身に付けることを目的とする。また、教育課程・全体的な計画の編成や指導計画作成の考え方について理解し、実際に指導計画を作成することを通して計画立案の基礎について理解する。
到達目標	1　教育課程・全体的な計画や評価の考え方や意義、カリキュラムマネジメントについて理解する。 2　計画立案の基礎となる、要領・指針にほける教育（保育）の基本について理解する。 3　教育課程・全体的な計画・指導計画の考え方について理解し、指導計画を立案できる。
授業の概要	入園から修了までの園生活の大綱である教育課程・全体的な計画の概念・基本、指針・要領における教育・保育の基本やカリキュラムマネジメント等について理解する。子どもの姿を踏まえた指導計画の立案など指導計画の考え方を学び、指導計画を作成する（課題解決型学習）。

授業計画

1	授業ガイダンス 教育・保育の基本①保育とは何か 幼稚園・保育所・こども園における保育の目的	9	保育所の理解① 保育所保育指針における保育の基本（保育所保育の目標、養護と教育の一体性）について
2	教育・保育の基本②子どもの育ちと保育 領域（ねらい・内容）、育みたい資質・能力、「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」について	10	保育所の理解② 全体的な計画・長期計画・短期計画・個別計画について
3	教育課程・全体的な計画と指導計画① 教育課程・全体的な計画の考え方や編成の手順について	11	指導計画の基本と作成① 指導計画の作成手順、「子どもの姿」のとらえ方について
4	教育課程・全体的な計画と指導計画② 幼稚園・保育所・認定こども園の概要、認定こども園における全体的な計画の考え方について	12	指導計画の基本と作成② 「子どもの姿」を基に「ねらい」「内容」を考える
5	幼稚園の理解① 幼稚園教育要領における幼児教育の基本（環境を通した教育・幼児期にふさわしい生活）について	13	指導計画の基本と作成③ 「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」を考える
6	幼稚園の理解② 幼稚園教育要領における幼児教育の基本（遊びを通した指導・発達の特性に応じた指導）について	14	指導計画の基本と作成④ これまで学んだことを基に、部分指導の計画を作成する（指導計画の提出）
7	幼稚園の理解③ 教育課程の考え方、教育課程と長期計画の関係について	15	保育の実践と評価 教育・保育の評価、カリキュラムマネジメント、要録について
8	幼稚園の理解④ 長期計画と短期計画の関係について 保育者の援助・配慮の考え方について		

成績評価の方法・基準	定期試験（90%）、指導計画の提出（10%）	
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行うこと。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	課題は随時添削し、授業内で総評を行う。	
テキスト	岩﨑淳子他、「教育課程・保育の計画と評価―書いて学べる指導計画」、萌文書林	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　及び各解説　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育内容総論 Introduction to Early Childhood Education and Care	1 年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	増田　吹子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○				

授業の目的	保育所保育指針、幼稚園教育要領、教育・保育要領の基本を理解し、保育内容について総合的に学ぶことを目的とする。特に5領域の関連性、幼児期の終わりまでに育みたい資質・能力等の保育を構成する際に必要な事項について理解を深め、実際の保育の展開について具体的に学ぶ。
到達目標	1. 保育所保育指針等における保育の基本を踏まえた指導の考え方について理解する。 2. 長期指導計画と短期指導計画の関係等、指導計画の考え方を理解する。 3. 乳幼児の発達的な特徴を踏まえた保育実践の方法を構想する。
授業の概要	保育の基本と保育内容、乳幼児の発達と生活等、保育を展開する上での基本的事項について理解を深める。さらに実習での経験を踏まえながら、乳幼児の発達や興味関心に基づいた保育の展開について、事例検討・発表・模擬保育等の課題解決型学習を通じて保育を構想する力を身に付ける。

授業計画

1	授業ガイダンス 領域とは何か （グループワーク） 「5領域」の意味にについて考える	9	発達段階と保育内容 乳児～5歳児の発達段階と各段階に応じた保育内容について学ぶ
2	幼稚園・保育所の生活と制度 幼稚園・保育所・認定こども園の違いについて学ぶ	10	子育て支援と保育内容 子育て支援が求められる社会背景・子育て支援の内容について学ぶ
3	保育内容の理解① （グループワーク） 一人でする折り紙・友達と遊ぶ折り紙・折り紙を教え合う活動を通して、子どもが経験することを考える	11	保育における計画① 指導計画の意義、子どもの姿のとらえ方、ねらい・内容の考え方について学ぶ
4	保育内容の理解② （事例検討） エピソード記録や VTR を基に、子どもが経験することを考える	12	保育における計画② （グループワーク） グループで指導計画を立案する
5	幼稚園・保育所の一日 （事例検討） 園生活の一日の流れや保育者の配慮について学ぶ	13	保育における計画③ （模擬保育） 前半のグループが保育者になり、他の学生を子どもに見立てて模擬保育を行う
6	遊びや生活を通して学ぶ （事例検討） 「遊び」と「学び」の意味を知り、事例を通して遊びが学びになることについて学ぶ	14	保育における計画④ （模擬保育） 後半のグループが保育者になり、他の学生を子どもに見立てて模擬保育を行う
7	保育内容のとらえ方 保育内容について、指針・要領の特徴、2008 年・2018 年度改訂のポイントを学ぶ	15	模擬保育の振り返り 授業のまとめ
8	5領域と保育内容 （グループワーク） 領域の総合性について、実習での経験を基に学ぶ		

成績評価の方法・基準	最終レポート30%・中間レポート20%・振り返りの提出30%・指導案10%・模擬保育10%	
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行う。 不明な点やさらに学びたいことについては、自主的に質問に来ること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出した振り返りシートは添削し、次回の授業で総評を行う。	
テキスト	大豆生田啓友、「最新保育講座④　保育内容総論（第2版）」、ミネルヴァ書房	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　及び　各解説　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育内容 健康 Childcare Content Health	1年後期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	萩尾 ミドリ

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○				

授業の目的	子どもの発達を、保育所保育指針における乳幼児の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」)と、領域「健康」を通して、子どもに対する理解を深めながら、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を修得する。
到達目標	1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 2. 健康な心と体と、健康で安全な生活のなかに保育者の留意、配慮すべき事項を理解する。 3. 0歳～5歳児までの生活と遊びの実際について事例から指導のポイントを修得する。
授業の概要	保育士としてまた園長としての実務経験を下に、安全に安心して過ごせる保育所、幼稚園、認定こども園での子どもたちの体と心の発達や運動発達を理解する。行事や季節感を取り入れた生活と遊びの中に健康のねらいがあることをグループワークでのニュースレター作りを通して学ぶ。

授業計画

1	本学習の目的、内容説明 ・健康で、安全な幸福な生活のために ・「健康」とは何か	9	＜演習＞ ・0～2歳児の遊び 生活の中にある遊びから戸外遊び
2	＜演習＞ Ⅰ子どもの心と体の健康 ・幼児期の健康な生活とは	10	＜演習＞　（グループワーク）ニュースレター作り ・3～5歳児の生活習慣の獲得 それぞれの年齢における生活習慣の獲得
3	＜演習＞ Ⅱ子どもの身体の発達と運動能力 ・子どもの身体の発達	11	＜演習＞ ・3～5歳児の生活習慣の獲得 ニュースレター　班ごとに発表　（課題レポート）
4	＜演習＞ Ⅱ子どもの身体の発達と運動能力 ・運動能力と動きの獲得	12	＜演習＞ ・3～5歳児の運動遊びの実際 多様な動きの経験と子どもの主体性
5	＜演習＞ Ⅱ子どもの身体の発達と運動能力 ・安全の指導　（課題レポート）	13	＜演習＞ ・3～5歳児の運動遊びのポイント 運動遊びと動機づけ　（課題レポート）
6	＜演習＞ Ⅲ領域「健康」 ・領域「健康」のねらいと内容・内容の取り扱い	14	＜演習＞ ・安全への配慮 子どものけがを未然に防ぐ予測の重要性
7	＜演習＞ ・0～2歳児の生活と動き 這う、立つ、歩くなど生活のひろがり	15	・まとめ：保育者の役割 ふり返り
8	＜演習＞ ・0～2歳児の身辺自立・生活習慣の獲得 行きつもどりつする獲得の過程		

成績評価の方法・基準	課題レポート80%(4回)　受講態度20%で総合評価する。	
留意事項	授業内容や考えを書きとめ、自分の健康管理について関心をもつことが望まれる。	
準備学習 (予習・復習等)	授業後に内容を整理しファイルにすること。 質問内容をまとめ次回提出できるようにしておくこと。	必要時間:　45分
課題のフィードバック	課題は添削をして返却し、次回　振り返る時間をとる。 質問に対しては授業のなかで答えていく。	
テキスト	「保育内容　健康」 河邊貴子著　建帛社	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育内容　人間関係 Childcare Content　Human Relationship	1年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	丸山　輝代

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○				

授業の目的	人が人との関わりの中で生きていくことの大切さを受講者自身が充分に理解し、その関わりの出発点となる乳幼児期の人との関わりの育ちを捉え、支え、深めていく保育者の視点や役割について学ぶことを目的とする。また、生活や遊びを通して人との関わりを育てていく援助のあり方についても学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 領域「人間関係」におけるねらいと内容について理解する。 2. 乳幼児期の人間関係の発達について理解する。 3. 子どもの人間関係を支える保育者の役割と援助の方法について学ぶ。
授業の概要	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている領域「人間関係」のねらいや内容を理解する。また発達段階に応じて、乳幼児がどのように人とかかわる力を身につけていくのか、担当者の幼稚園教諭、保育士としての実務経験から得られた具体的な事例をもとに考え、理解を深める。さらに保育者自身の人間関係についても考える。

授業計画

1	オリエンテーション 人間関係とは何か	9	【グループ発表】 乳幼児期における人との関わりの発達⑤ ・3歳児以上の発達と人との関わり(道徳性の育ち)
2	遊びの中で育つ人との関わり① ・人との関わりを育む遊びの役割と理解する	10	【グループ発表】 乳幼児期における人との関わりの発達⑥ ・育ちにつまずきのある子どもの人との関わり
3	遊びの中で育つ人との関わり② ・遊びを通して保育者としての感覚を磨く	11	人との関わりを育てる保育① ・保育現場の映像を見てみよう
4	遊びの中で育つ人との関わり③ ・遊びを通して子どもの世界を理解する	12	人との関わりを育てる保育② ・みんなで協力する大事さを学ぶ
5	【グループ発表】 乳幼児期における人との関わりの発達① ・0歳児の発達と人との関わり(愛着・基本的信頼感)	13	子どもを取り巻く多様な人間関係 ・家族や地域との関わりについて学ぶ。
6	【グループ発表】 乳幼児期における人との関わりの発達② ・1～2歳児の発達と人との関わり(自我の芽生え)	14	領域「人間関係」のねらいと内容 ・領域「人間関係」と多領域との関係を理解する。 ・保育所保育指針や幼稚園教育要領の内容を知る。
7	【グループ発表】 乳幼児期における人との関わりの発達③ ・以上児の発達と人との関わり(仲間関係の育ち)	15	現代の子どもを取り巻く環境と人間関係をめぐる課題 ※確認テスト
8	【グループ発表】 乳幼児期における人との関わりの発達④ ・以上児の発達と人との関わり(いざこざの意義)		

成績評価の方法・基準	グループ発表(40%)、グループ発表後のレポート課題(20%)、受講態度(20%)、確認テスト(20%)を総合して評価する。	
留意事項	グループワークに積極的な姿勢で参加すること。	
準備学習 (予習・復習等)	授業後に配付資料を見直し、学びを深めること。事前に配布したグループ発表用の文献は繰り返し読み、理解すること。不明な点、さらに学びたい内容があれば質問をすること。	必要時間:45分
課題のフィードバック	授業内で取り組んだ課題(確認テストを含む)は、その場でコメントし解説する。また提出課題は次週以降に添削し、授業の中で総評する。	
テキスト	「幼稚園教育要領解説」文部科学省　フレーベル館、「保育所保育指針解説書」厚生労働省　フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館	
参考書等	授業の中で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育内容 環境 Childcare Content　Environment	2年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	増田 吹子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○			○	

授業の目的	「環境を通した保育」等の保育の基本、幼児と環境の関わり、幼児と環境に関わる現代的問題等について学び、領域「環境」指導における専門的事項を理解することを目的とする。特に、栽培活動等の実際に園で行う保育を模擬的に体験し、それらの活動が領域「環境」においてどのような意味をもつか考える。
到達目標	1　乳幼児の発達において環境のもつ意味や乳幼児と環境の関わりの発達について理解する。 2　領域「環境」のねらい及び内容、指導上の留意点等について理解する。 3　乳幼児が環境に関わる力を養うための具体的な指導方法を構想することができる。
授業の概要	子どもが環境と関わる力を育てる保育の実践について、環境構成・保育者の関わりを中心に学ぶ。事例検討・指導案作成・発表・栽培活動等の課題解決型学習を通して、子どもが好奇心・探求心をもって環境に積極的に関わるための保育の構想、指導方法を身に付ける。

授業計画

1	保育の基本と領域「環境」 保育における「環境」の意味と領域「環境」の意義	9	文化や伝統に親しむ② 年中行事を行う際の指導案を作成し、発表準備をする。（課題解決型学習）
2	子どもの育ちと環境① 「環境を通して行う保育」のあり方や子どもの遊びと環境について考える。（事例検討・発表）	10	文化や伝統に親しむ③ 保育の中で行う年中行事についてグループ内で発表する。（グループワーク）
3	子どもの育ちと自然環境① 自然との関わりの中での育ちについて考え（事例検討・発表）、栽培活動（野菜の種まき）を行う。	11	文化や伝統に親しむ④ 保育の中で行う年中行事についてグループの代表者がクラスに向けて発表する。
4	子どもの育ちと自然環境② フィールドビンゴを作成し、子どもがどのように自然環境に興味をもつか考える（フィールドワーク）。	12	文字や数量との関わり 文字や数量への関心のもち方や興味・関心を高める関わりについて考える。（事例検討）
5	子どもの育ちと自然環境③ シャボン玉遊びを基に子どもが自然との関わりの中で経験することを考える。栽培活動（間引き）を行う。	13	子どもの育ちと自然環境③ 栽培活動（収穫）を行い、活動の経験を基に保育における栽培・飼育活動の意義について考える。
6	子どもの育ちと環境② 環境の課題性・アフォーダンス・環境構成における保育者の役割について学ぶ。（事例検討・発表）	14	「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と領域「環境」 領域「環境」と10の姿・3つの柱について考える。 （事例検討）
7	物的環境の役割 実習経験を基に園具・教具の意味を考える。 様々な素材の特性を確かめる。（課題解決型学習）	15	領域「環境」における保育者の役割 子どもと環境をつなぎ、「遊び」と「学び」をつなぐ保育者の役割について考える。（事例検討）
8	文化や伝統に親しむ① 年中行事について調べる。（課題解決型学習）		

成績評価の方法・基準	レポート80%、指導案の作成と発表10%、受講態度10%	
留意事項	覚えるのではなく理解するという姿勢で授業に臨むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	授業後にテキストを読み返し、配布物・提出物の整理を行うこと。 栽培する作物の観察と手入れを行うこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	課題は随時添削し、次回の授業で総評を行う。	
テキスト	岸井勇雄他、「保育内容・環境」、同文書院	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　及び各解説　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育内容　言葉 Childcare Content　Words	2年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	川俣　沙織

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○				

授業の目的	本科目は、子どもの発達を言語の面から理解することと、その発達を支える援助者としての保育者の関わりについて理解することを目的とする。 また、児童文化財の表現技術を獲得することも目的とする。
到達目標	1. 子どもの言語発達過程について説明することができる。 2. 子どもの言語発達を支える保育者の具体的援助について理解し、実践することができる。 3. 絵本をはじめとする児童文化財についてそれぞれの特性を理解した上で表現することができる。
授業の概要	主に幼稚園教育要領・保育所保育指針を用いて子どもの言語発達過程について学ぶとともに、彼らの成長を見守り、支えるための具体的な援助について理解する。 また、絵本をはじめとする複数の児童文化財の特性と表現技術についてグループワークを通して学ぶ。

授業計画

1	オリエンテーション、保育現場における保育内容「言葉」の実際①(0・1・2歳児)――『絵本 読み聞かせ今からはじめましょう』を通して学ぶ―	9	子どもの言語発達と児童文化財① ＜絵本＞教材選択の方法と実演の際の留意点
2	保育現場における保育内容「言葉」の実際②(3・4・5歳児)―『絵本 読み聞かせ今からはじめましょう』を通して学ぶ―、保育内容「言葉」の指導計画	10	子どもの言語発達と児童文化財② ＜ストーリーテリング＞教材選択の方法と実演の際の留意点
3	子どもの発達に則した保育とは―保育内容「言葉」と他領域との関連―	11	子どもの言語発達と児童文化財③ ＜紙芝居＞教材選択の方法と実演の際の留意点
4	子どもの言語発達と保育① ＜乳児＞	12	第9回～第11回まとめ 各種児童文化財の特性と実演に際しての留意点
5	子どもの言語発達と保育② ＜1 歳以上 3 歳未満児＞	13	グループワーク：児童文化財についてのプレゼンテーションおよび実演発表・ふりかえり① ＜絵本・ストーリーテリング＞
6	子どもの言語発達と保育③ ＜3 歳以上児＞	14	グループワーク：児童文化財についてのプレゼンテーションおよび実演発表・ふりかえり② ＜紙芝居・ペープサート＞
7	第4回～第6回まとめ 保育内容「言葉」の特性と子どもの発達に則した保育の留意点	15	グループワーク：児童文化財についてのプレゼンテーションおよび実演発表・ふりかえり③ ＜パネルシアター・エプロンシター＞
8	小テスト・第1回～第7回まとめ 計画・実践・省察・改善の重要性と実際		

成績評価の方法・基準	(1)小テスト　30%　(2)グループ発表　60%　(3)受講態度(積極的な参加が求められる。私語厳禁)10% 評価が「不可」であった場合、追加の課題を課す。	
留意事項	グループ発表・小テストはすべて評価の対象とする。	
準備学習 (予習・復習等)	次回授業内容に関連するテキストの該当箇所を通読する準備学習を行うこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	小テストは採点し、次週の授業で返却し補足説明を加えつつ総評する。グループ発表は、発表と並行して採点し、具体的な改善点を示しつつ総評を行う。	
テキスト	駒井美智子『保育者をめざす人の保育内容「言葉」』みらい	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育内容 表現 Childcare Content Expression	1年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	椎山 克己

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○	○		○	

授業の目的	領域「表現」の観点から子どもたちの発達を考察し、子どもの感受性や表現性を豊かにするために必要な援助についての知識と技能を習得する。また、子ども自身の表現を導き出す保育教材の事例研究・模擬保育を行い、創造性を育む保育者のかかわり方を学ぶ。
到達目標	1. 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「表現」のねらいと内容並びに全体像を理解する。 2. 子どもの表現力を豊かにするために幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。 3. 子どもの表現の受け止め方、評価の考え方、他の領域や小学校の教科等とのつながりを理解する。
授業の概要	幼稚園教育要領に示される領域「表現」のねらいと内容についての理解を行ったうえで、子どもの表しをどのように受け止め、保育者がどのように応えていくことが求められるかについて、事例研究やグループディスカッション、ICT を活用した振り返りを通して学ぶ。

授業計画

1	授業ガイダンス 幼稚園教育要領及における保育内容「表現」の位置づけについて	9	教材研究① 表現活動教材の研究発表、発表に対してのグループディスカッション、ICT を活用した振り返り
2	領域「表現」について 子どもの表現、領域「表現」の内容とねらい、他の領域との関係、小学校の教科とのつながり	10	教材研究② 表現活動教材の研究発表、発表に対してのグループディスカッション、ICT を活用した振り返り
3	事例研究「子どもの言語的発達」 表現の芽生えとその発達 乳児期の子どもの言語的発達	11	教材研究③ 表現活動教材の研究発表、発表に対してのグループディスカッション、ICT を活用した振り返り
4	「子どもの表現が生まれる源泉」 子どもが表現したいと思うまでのプロセス 季節を感じ表現する体験的学習の事例研究	12	教材研究④ 表現活動教材の研究発表、発表に対してのグループディスカッション、ICT を活用した振り返り
5	事例研究「表現の芽生えと発達」① 音楽的表現と造形的表現の芽生えとその発達	13	表現の総合的性質 子どもの表現の総合的性質 保育者の援助及び指導上の留意点
6	事例研究「表現の芽生えと発達」② 身体的表現の芽生えとその発達	14	子どもの表現と保育者の援助 保育者の役割、必要とされる資質 援助の基本的考え方、具体的な留意点
7	事例研究「子どもの体験活動」① 子どもの体験活動の保育実践 子どもの表現活動の観察	15	保育実践における表現活動 表現活動の指導案を作成するポイント 部分指導案の作成
8	事例研究「子どもの体験活動」②（子どもの表現についてグループディスカッションと発表		

成績評価の方法・基準	レポート90%（30%×3回）、受講態度10%で総合評価する。	
留意事項	レポートの提出期限を守ること。	
準備学習 （予習・復習等）	テキストは事前に読んでおくこと。また教材研究の発表については模擬保育として行うので、事前によく練習し、事後にその振り返りを行うこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	1、2回目のレポートは2週後の授業時に返却並びに総評を行う。3回目のレポートは個々に添削を行い、成績発表日に返却する。	
テキスト	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館内閣府	
参考書等	「保育所保育指針」厚生労働省 フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
音楽表現 Music Expression	2年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	椎山　克己

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○		○

授業の目的	リトミックの保育教材を実際に体験する中で、保育における音楽を通した表現について学ぶ。また、模擬保育を行う中で、子どもたちの創造性や表現性を引き出すために保育者が行う援助の技術について、指導案研究・模擬保育・グループディスカッションを通して学ぶ。
到達目標	1. リトミックの基本的な考え方と幼児期の子どもたちへの展開方法を習得する。 2. 音楽表現を中心とした指導案の立案ができるようになる 3. 音楽表現と通して子どもたちの表現性を引き出す援助方法の理解が深まる。
授業の概要	リトミックの保育教材を用いて、発達段階に応じた教材の展開について学ぶ。また、各自が指導案を立案、模擬保育を行うことを通して、指導案を立案や指導上の留意点を学ぶと共に、子どもへの言葉かけなど子どもに対して保育者が行う具体的な援助技術の習得を図る。

授業計画

1	授業ガイダンス 幼児の音楽表現活動と表現の源となる音の世界	9	3歳児を対象としたリトミックの模擬保育と指導案についてのグループディスカッションによる相互評価
2	縦割り保育でのリトミック① 音楽に反応して動く 音の長さや音楽の始まりと終わりを感じとる	10	3歳児を対象としたリトミックの模擬保育と指導方法・内容についてのグループディスカッションによる相互評価
3	縦割り保育でのリトミック② リズムに乗る楽しさ 友だちと協力して表現する楽しさ	11	4歳児を対象としたリトミックの模擬保育と指導案についてのグループディスカッションによる相互評価
4	縦割り保育でのリトミック③ 工夫したり、考えて表現する 道具を使って表現する楽しさ	12	4歳児を対象としたリトミックの模擬保育と指導方法・内容についてのグループディスカッションによる相互評価
5	部分指導案作成のポイント 音楽表現の部分指導案作成の方法とグループでのテーマ決め	13	5歳児を対象としたリトミックの模擬保育と指導案についてのグループディスカッションによる相互評価
6	年齢別保育でのリトミック① 3歳児向けのリトミック保育教材と指導案作成上の留意点	14	5歳児を対象としたリトミックの模擬保育と指導方法・内容についてのグループディスカッションによる相互評価
7	年齢別保育でのリトミック② 4歳児向けのリトミック保育教材と指導案作成上の留意点	15	9～14回に実施した模擬保育の振り返りと3・4・5歳児を対象とした指導案の作成
8	年齢別保育でのリトミック③ 5歳児向けのリトミック保育教材と指導案作成上の留意点		

成績評価の方法・基準	模擬保育（40%）、提出課題（50%）に受講態度（10%）を総合して評価する。	
留意事項	動きやすい服装（体操服等）で受講すること。	
準備学習 （予習・復習等）	発表前に指導案を作成する。その際他の発表をもとに行った相互評価の内容等を振り返り、それを参考にして作成すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	模擬保育の際に提出する指導案は、発表日に総評を行い、返却する。それ基に最終日に提出する指導案は、個々に添削を行い返却する。	
テキスト	「リトミック百科」石丸由理　ひかりのくに	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館、「リトミックピアノ曲集」石丸由理　ひかりのくに	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
造形表現 Modeling Expression	2年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	内野　香

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎			○

授業の目的	造形の基礎知識をもとに、実践的な造形教育のあり方を考え、制作することを目的とする。 技術・技法のみに捉われず、養った自身の美意識・創造性・表現力を制作に生かす。 子どもの発達段階に応じた、適切な知識や技術に基づいた造形教育の指導力を養う。
到達目標	1. 幼児教育における造形表現について理解を深める。 2. 幼児の発達段階に合わせた造形課題の提示及び指導法を学ぶ。 3. 将来の造形教育に必要な、授業計画の立案法を学ぶ。
授業の概要	授業前半は、造形理解及び技術・技法の習得。 後半は、幼児教育の現場を想定し、課題に必要な材料・道具・表現方法を考え、制作を行う。グループ制作・相互評価を行うことで、実践力・指導力の向上を目指す。

授業計画

1	ガイダンス　授業説明 年間授業計画・受講における心構えの説明。	9	身近な材料でおもちゃを制作する。③ 安心・安全に配慮し、制作する。
2	造形教育において、保育者自身の美意識・創造性・表現力を育てる必要性の意味について考える。	10	紙芝居制作　（グループ制作）① ストーリー・登場人物など、幼児が興味を持ち楽しいと思える内容を考える。
3	異素材を使用し、触って楽しい平面作品を制作する。① それぞれの素材のもつテクスチャーの違いを理解する。	11	紙芝居制作　（グループ制作）② ストーリー・登場人物などを考える。
4	異素材を使用し、触って楽しい平面作品を制作する。② 組み合わせることによる、視覚的な効果も考える。	12	紙芝居制作　（グループ制作）③ 幼児が興味を持ち楽しいと思える展開を考える。
5	紙粘土で子供を制作する。① 子どもらしい体の特徴を捉える。	13	紙芝居制作　（グループ制作）④ どのような方法で表現するか考える。
6	紙粘土で子供を制作する。② 子どもの動きを表現する。	14	紙芝居制作　（グループ制作）⑤ 実演できる完成度を目指す。
7	身近な材料でおもちゃを制作する。① 遊びの方法を考える。	15	紙芝居上演会 各グループの上演を、相互に評価する。
8	身近な材料でおもちゃを制作する。② 遊びにあった材料を考える。		

成績評価の方法・基準	提出物60%、基礎評価（受講態度等）40%で総合評価する。	
留意事項	日頃より、画集などに目を通し、美術館などに足を運び、美術や自然に触れることを心がける。	
準備学習 （予習・復習等）	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館、「幼児の造形表現」 編著：平田智久・小野　和 保育出版社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
身体表現 Physical Expression	2年後期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	新井　真実

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎			○

授業の目的	子どもの身体表現は、保育者の関わりによって、より豊かに広がる可能性を秘めている。本授業では、子どもの心の動きから生まれる自然な身体表現を大切に、創造的な身体表現活動のためのアイディアを実践的に学ぶ。また、子どもの興味をひきつけ、表現意欲を高めるようなプレゼンテーションスキルを養う。
到達目標	1. 子どもの身体表現の特徴を理解し、発達段階や個性に応じた働きかけを身につける。 2. 時節や流行に配慮したテーマの発見と、その展開方法を学ぶ。 3. 子どもの興味をひきつけ、表現意欲を高めるようなプレゼンテーションスキルを養う。
授業の概要	グループワークを中心とした授業形態をとる。課題に応じた身体表現を模索し、構成・展開を検討する。また、ワーク・イン・プログレス(創作途中での試験的発表)を重ねることで、観客(参加者)の意見を取り入れながらプランを練り上げる。最終的には、模擬保育形式で発表を行い、これを実技試験とする。

授業計画

1	オリエンテーション ―授業内容概要、評価方法の説明	9	グループワーク⑥ ―演出について
2	課題説明　グループ編成 ―グループワーク課題の説明、及びグループ編成	10	ワーク・イン・プログレス(中間発表)② ―全体を通しての発表
3	グループワーク① ―対象年齢、テーマについて	11	グループワーク⑦ ―ワーク・イン・プログレスを経ての反省 ―プレゼンテーションのブラッシュアップ
4	グループワーク② ―構成・展開について	12	グループワーク⑧ ―最終確認
5	グループワーク③ ―中心となるセクションについて	13	リハーサル ―発表(実技試験に向け、全員によるリハーサル)
6	ワーク・イン・プログレス(中間発表)① ―中心となるセクションの発表	14	実技試験 ―作品発表
7	グループワーク④ ―ワーク・イン・プログレスを経ての反省 ―音響効果や道具について	15	講評とまとめ
8	グループワーク⑤ ―空間構成について		

成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢30%、実技試験50%、レポート20%を原則とし、総合的に評価する。	
留意事項	腕時計・アクセサリー類は外し、長い髪の毛は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。	
準備学習 (予習・復習等)	取り扱ったテーマについて、授業後に関連する参考書やインターネット等を活用し、更に理解・考察を深めること。	必要時間:45分
課題のフィードバック	実技課題は授業内でグループ発表を実施し、並行して採点し、総評を行う。	
テキスト	プリント資料	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館、その他は授業内で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
言語表現 Linguistic Expression	1 年前期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	川俣　沙織

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎			○

授業の目的	本科目は、幼稚園教諭二種免許取得のための必修科目に位置づけられる。本科目は、小学校国語科の内容について学び、幼児教育・保育と国語科指導における幼児・児童への指導・援助についての理解を深める科目である。
到達目標	1. 小学校国語科の内容を踏まえ、幼児期から小学校への学びの連続性について説明できる。 2. 日本語の歴史と現代日本語の概観を理解し、説明することができる。 3. 幼稚園教諭・保育士として必要とされる基礎的な国語力を有している。
授業の概要	小学校国語科の目標及び内容、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」としての国語の歴史と国語の概観について学び、その上で「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の実際を詳しく学ぶ。さらには実践的言語コミュニケーションや児童文化財の実演についてもグループワークを通し学ぶ。

授業計画

1	オリエンテーション（授業概要・授業計画・授業形態・評価方法の説明）、グループ編成、国語の歴史と国語の概観、小テスト	9	「話すこと・聞くこと」⑤・「書くこと」③・「読むこと」② （総合的な指導の実際①指導計画立案について）、小テスト
2	「話すこと・聞くこと」① （小学校国語科の目標および内容、グループワーク①「私の好きな絵本」口頭発表）、小テスト	10	「話すこと・聞くこと」⑥・「書くこと」④・「読むこと」③ （総合的な指導の実際②指導計画に基づく実践・省察・改善とその往還について）、小テスト
3	「話すこと・聞くこと」②　（グループ代表者による「私の好きな絵本」口頭発表）、小テスト	11	「話すこと・聞くこと」⑦・「書くこと」⑤・「読むこと」④ （総合的な指導の実際③グループワーク②模擬授業）、小テスト
4	「書くこと」① （国語の歴史・「書くこと」―文字を中心に―）、小テスト	12	「話すこと・聞くこと」⑧・「書くこと」⑥・「読むこと」⑤ （総合的な指導の実際④模擬授業へのフィードバック）、小テスト
5	「書くこと」② （国語の歴史・「書くこと」―文法を中心に―、具体的な実践場面での「書くこと」の指導）、小テスト	13	「話すこと・聞くこと」⑨・「書くこと」⑦・「読むこと」⑥ （総合的な指導の実際④授業の精度を高める情報機器の活用と多様な教材について）、小テスト
6	「読むこと」① （国語の歴史・「読むこと」―文章を中心に―、具体的な実践場面での「読むこと」の指導）、小テスト	14	「話すこと・聞くこと」⑩・「書くこと」⑧・「読むこと」⑦ （総合的な指導の実際⑤授業の精度を高める多様な指導方法について）、小テスト
7	「話すこと・聞くこと」③ （国語の歴史・「話すこと・聞くこと」―語彙を中心に―）、小テスト	15	まとめ、小テスト
8	「話すこと・聞くこと」④ （国語の歴史・「話すこと・聞くこと」―方言を中心に一実践場面での「話すこと・聞くこと」の指導）、小テスト		

成績評価の方法・基準	(1)受講態度（積極的な参加が求められる。私語厳禁）25%　(2)提出物　50%　(3)小テスト　25% 評価が「不可」であった場合、追加の課題を課す。	
留意事項	提出物はすべて評価の対象とする。	
準備学習 （予習・復習等）	次回授業内容に関わる課題、あるいは授業のふりかえりにあたる課題を課すことがある。指定された課題に取り組むこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	小テストは学生自身が各自で採点し、授業内にフィードバックを行う。レポートは採点し、次週（あるいはそれ以降）の授業で返却し、具体的な改善点を示しつつ総評を行う。	
テキスト	なし（適宜資料を配布）	
参考書等	「小学校学習指導要領」・「幼稚園教育要領」文部科学省　「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育指導法Ⅰ Childcare Teaching Method Ⅰ	2年前期	演習	1	卒業選択 免許必修・資格選択必修	渡邊　由恵

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎		○	○	○

授業の目的	子どもが保育所・幼稚園で自ら環境に関わり、充実感、喜びや楽しさを味わえるための指導法を学ぶことを目的とする。様々な生活やあそびの場面で、子どもたちの気持ちや発達段階に寄り添い、保育の PDCA サイクルに基づく指導方法と遊びを通して育つ乳幼児期の諸能力について理解を深める。
到達目標	1. 多様な保育形態、生活・遊びの場面での具体的な指導法について学ぶ 2. 子どもの目線で保育環境を考える意識を養う 3. 具体的な場面での保育の質について考える意識を養う
授業の概要	映像・保育現場の環境写真を用いた具体的事例を通して、担当者の保育士および幼稚園教諭としての実務経験を活かし、様々な生活・遊びの場面で、子どもが何をどのように体験しているのか、そこで求められる指導法について、理論と実践を往還しながら学ぶ。主にグループワークを行いながら質の高い保育について協同的に学び合う。

授業計画

1	オリエンテーション 要領・指針における保育方法の基本的事項	9	あそびの環境構成と援助② 遊びの教材研究（グループワーク：発表）
2	子どもにふさわしい園生活の展開① 様々な保育形態	10	保育と行事 園生活の中での行事と計画
3	子どもにふさわしい園生活の展開② 1 日の生活の組み立て方	11	発達の時期に応じた保育のあり方
4	子どもにふさわしい園生活の展開③ 生活場面での保育のあり方	12	情報機器や視聴覚教材の活用方法
5	子どもの目線で考える保育環境① 園舎・室内	13	保育の計画・実践・評価
6	子どもの目線で考える保育環境② 戸外・園庭	14	子どもの育ちを支える保育の質と同僚性
7	あそびの環境構成と援助① 子ども理解に基づく遊びの環境構成	15	まとめ
8	あそびの環境構成と援助② 遊びの教材研究（グループワーク：遊びの実践）		

成績評価の方法・基準	①学習状況20%　②各回ワークシート40%　③期末に作成するレポート40%	
留意事項	グループワークに積極的な姿勢で参加すること。私語、スマートフォン・携帯操作、居眠りはしないように。 戸外で授業を行うこともあるので、毎回の授業内容を確認しておくこと。	
準備学習 （予習・復習等）	実習日誌や指導案を読み返し、実習での学びや経験を授業の学びに結び付けられるように意識すること。授業内容のテキストの該当箇所を熟読しておくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	ワークシートは次週の講義時に返却をして総評を行う。	
テキスト	「これからの保育と教育　-未来を見すえた人間形成-」 編著：吾田富士子　八千代出版	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 および各解説書 フレーベル館、「秋田喜代美と安見克夫が語る 写真で見るホンモノ保育～憧れを育てる～」 秋田喜代美・安見克夫 ひかりのくに	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育指導法Ⅱ Childcare Teaching Method Ⅱ	2年後期	演習	1	卒業選択 免許必修・資格選択必修	宮地　あゆみ

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○	○	◎		

授業の目的	園保育指導法Ⅰでの学びを踏まえ、保育現場における子どもの遊びと保育について理解し、保育を展開するための知識を身につけ実施できるようになる。
到達目標	1. 保育のねらいと内容を理解したうえで、保育計画が立案出来るようになる。 2. 子どもに寄り添った保育計画を立案し、実施することが出来るようになる。 3.　子ども達一人ひとりに合わせた保育の視点を身につけ、より実践的な保育が展開できるようになる。
授業の概要	担当者の保育士としての実務経験をもとに、子どもに寄り添った保育とは何かと考えるなかで、試行錯誤しながら保育を組み立てることが出来るようになる。また、より良い保育を実施するための配慮や工夫が出来るようになる。

授業計画

1	オリエンテーション	9	保育の展開③　折り紙あそび2 （グループワーク）
2	保育のねらいと内容	10	保育の展開③　制作ノート発表と保育のねらい （グループワーク）
3	領域と保育	11	保育の展開④　お散歩と保育のねらい
4	保育の展開①　自己紹介グッズ作成 （グループワーク）	12	保育の展開⑤　制作と保育のねらい （グループワーク）
5	保育の展開①　発表と保育のねらい （グループワーク）	13	保育の展開⑥　ペープサート作成1 （グループワーク）
6	保育の展開②　パラバルーンあそび	14	保育の展開⑥　ペープサート作成2 （グループワーク）
7	保育の展開②③　保育のねらいと保育計画 （グループワーク）	15	保育の展開⑥　ペープサート発表と保育のねらい （グループワーク）
8	保育の展開③　折り紙あそび1 （グループワーク）		

成績評価の方法・基準	課題（50%）、発表（30%）、その他（受講態度・発言）（20%）	
留意事項	講義内で指示された課題は必ず提出すること。	
準備学習 （予習・復習等）	保育者（社会人）になることを意識し、講義内で指示された準備物および課題は、講義前までに必ず準備しておくこと。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	毎回の講義後に振り返りシートを配布し、授業の理解度を確認したうえで、その後の講義へと反映させる。	
テキスト	「教育課程・保育の計画と評価」岩淳子、及川留美、粕谷亘正（2018）萌文書林 「幼稚園教育要領解説」文部科学省「保育所保育指針解説書」厚生労働省	
参考書等	「保育の学びスタートアップ」瀧川光治、小栗正裕、宮地あゆみ（編）（2018）青鞜社 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
乳児保育Ⅰ Infant Care Ⅰ	1年後期	講義	2	卒業選択 資格必修	武藤　好美

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○			○	

授業の目的	乳児は、他者による養護的関わりなしでは生きられず、人間として発達成長することはできない。人間形成の基盤としての乳児期は、子どもの心身の発達にとって最も重要な時期である。乳児保育の意義と関わり方を学び、乳児の愛着形成や心身共に発育発達・成長に導くための知識・技術等の専門性を身につける。
到達目標	1. 乳児保育の社会的意義と制度的変遷、保育目的と役割について理解する。 2. 3才未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 3. 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。
授業の概要	乳児の健やかで健全な発育発達を保障するための社会的取り組みや制度を学習することで、乳児保育の重要性を理解する。乳児にとって安全な保育環境を整え、安定した生活様式な中で、興味関心を持てる感覚遊びと保育内容を学び、一年間の保育での成長を見通した保育実践内容を理解する。

授業計画

1	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 乳児保育の役割と機能 乳児保育における養護及び教育	9	コミュニケーション形成と言語の発達 ・愛着形成（自己認知・感情分化）と大人の関わり方 ・自己表現（自己意志）としての言語活動と関わり方
2	乳児保育の現状と課題Ⅰ ・乳児保育と子育て家庭支援の社会的状況と課題 ・保育所や児童福祉施設における乳児保育	10	乳児保育における計画・記録・評価とその意義 ・日報・日案・月案・年間指導計画 ・自己評価と課題
3	乳児保育の現状と課題Ⅱ ・家庭的保育等における乳児保育 ・3才未満児と家庭を取り巻く環境と育児支援の場	11	3才井常時の保育に移行する時期の保育 ・基本的生活行為の自立 ・個別活動の充実と友達関係の形成
4	0才児の生活とあそびの内容と環境設定 ・デイリープログラムの設定と計画 ・あそび・食事・午睡・排泄等の生活設定	12	3才未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助や関わり方と配慮内容 ・発達遅滞児・障害児・虐待児・病児等の対応・
5	1才児の生活とあそびの内容と環境設定 ・デイリープログラムの設定と計画 ・あそび・食事・午睡・排泄等の生活設定	13	職員間の連携・協働 ・保育職場の職務体系 ・保育職員の職務内容
6	2才児の生活とあそびの内容と環境設定 ・デイリープログラムの設定と計画 ・あそび・食事・午睡・排泄等の生活設定	14	子育て支援と保護者連携 ・子ども情報の共有化と共通認識・課題の共同化 ・保護者との連携・協働での関わり方
7	安全管理と安全保育 ・安全な保育環境設定と日常的な安全管理方法 ・危険認知の学習と事故回避方法	15	保育園の社会的役割と地域連携 ・地域住民との理解・協力関係の構築 ・自治体や地域の関係機関等との連携・協働
8	健康管理と安全管理 ・清潔な生活環境設定と衛生管理 ・清潔感の認知と不衛生除去方法の学習		

成績評価の方法・基準	単位認定試験60%、授業内での小テスト20%、授業態度・姿勢20%で総合評価する。	
留意事項	子育てに関する記事・事件に関心を持つ。日常、意識的に乳幼児に関わる経験と親の育児体験を傾聴する。	
準備学習 （予習・復習等）	授業内容に関するテキストを読み、予習復習を行う。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	授業で実施した小テスト・レポートは、授業内で添削・採点し総評を行う。	
テキスト	プリント・乳児の保育・新時代[新版]　乳児保育研究会編　ひとなる書房	
参考書等	「保育所保育指針」厚生労働省　フレーベル館	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
乳児保育Ⅱ Infant CareⅡ	2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	萩尾　ミドリ

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○			○	

授業の目的	保育所保育指針では、「‥入所する子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進することに最もふさわしい生活の場でなければならない」と保育所保育のあり方が示されている。ここでは、0歳～3歳未満児の発育・発達の過程などを踏まえ、子どもを真ん中に据えて保育することの意義について学ぶ。
到達目標	1. 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 2. 養護及び教育の一体性を踏まえ、生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。 3. 乳児保育における配慮の実際、および計画の作成について、具体的に理解する。
授業の概要	担当者の保育士および園長としての実務経験を下に、乳児保育の基本として、子どもと保育士等との関係や個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わりができるよう事例に学び、援助のポイントなど具体的に学修する。事例をもとにグループワークを行う。

授業計画

1	乳児保育の基本 子どもの主体性の尊重と自己の育ち 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり	9	乳児保育における配慮の実際 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を 図るための配慮
2	乳児保育における生活・遊びの実際と援助 1日の流れで考える生活・遊びと環境構成 0歳児の発育・発達を踏まえた援助の実際　①	10	乳児保育における配慮の実際 集団での生活における配慮 環境の変化や移行に対する配慮
3	乳児保育における生活・遊びの実際と援助 0歳児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの 援助の実際　②	11	朝の受け入れ　（グループワーク） 保育事例：後追いと泣きへの対応 ：忘れ物が多い家庭への対応（レポート）
4	乳児保育における生活・遊びの実際と援助 1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊び の援助の実際　①	12	食事 離乳食を与える時の位置と態度 遊び食べの悩み
5	乳児保育における生活・遊びの実際と援助 1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊び の援助の実際　②	13	食事　（グループワーク） 保育事例：食事を拒否する際の対応 ：手づかみ食べへの対応　（レポート）
6	乳児保育における生活・遊びの実際と援助 子ども同士のかかわりとその援助の実際	14	乳児保育における計画と実際 長期計画と短期計画 個別的指導計画と集団の指導計画
7	遊び 保育事例：おとなしい子どもへの働きかけ ：気持ちの切り替えへの対応	15	乳児保育における計画と実際 立案の際の具体的な配慮点 まとめ
8	遊び　（グループワーク） 保育事例：子ども同士のトラブルへの対応 ：座り込みへの対応　（レポート）		

成績評価の方法・基準	レポート(3×20)60%、受講態度20%、最終回ノート提出20%で総合評価する。	
留意事項	日頃より保育関連のニュースに関心を持つことが望まれる。	
準備学習 （予習・復習等）	テキストに目を通し、質問及び疑問点を見つけておくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出されたレポートは次週の授業時に返却し総評を行う。	
テキスト	「乳児保育」 尾野明美　小湊真衣　菊地篤子　編著　萌文書林	
参考書等	「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
特別支援教育・保育Ⅰ Special Needs Education / Nursery Ⅰ	1年後期	演習	1	卒業選択 免許・資格必修	園田　貴章

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			◎	○			○	

授業の目的	この講義では、特別支援教育の関連法令や施策についてまず理解を図り、続いて聴覚障害、視覚障害、知的障害、注意欠如多動症、自閉スペクトラム症、学習障害の基本症状と支援方法の要点を捉えることができるようにする。そして、共生社会を目指すインクルーシブ教育システムとユニバーサルデザイン授業について把握できるようにする。
到達目標	1. ・特別支援教育の関連法令や施策について理解することができる 2. 知的障害、知的障害はないが特別の教育的ニーズを有する発達障害(自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症)、視覚障害、聴覚障害の症状を基本的に理解し、支援方法の要点を理解することができる。
授業の概要	特別支援教育の関連法令や施策についてまず講義する。続いて、知的障害、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症、視覚障害、聴覚障害の基本症状と支援方法の要点を説明する。さらに共生社会を目指すインクルーシブ教育システムとユニバーサルデザイン授業について講義する。

授業計画

1	特別支援教育とは	9	注意欠如症の支援
2	聴覚障害の理解	10	自閉スペクトラム症の理解
3	聴覚障害の支援	11	自閉スペクトラム症の支援
4	視覚障害の理解	12	学習障害の理解
5	視覚障害の支援	13	学習障害の理解
6	知的障害の理解	14	インクルーシブ教育システムとユニバーサルデザインの授業等の実施
7	知的障害の支援	15	講義のまとめ
8	注意欠如症の理解		

成績評価の方法・基準	定期テスト100%	
留意事項	6回以上欠席すると試験をうけられない。	
準備学習 （予習・復習等）	次回の講義のテーマを知らせるので、各自予習しておくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	毎回小レポートを課す。次回の講義の冒頭で質問等に回答する。	
テキスト	特に指定しない	
参考書等	前川久男他編『講座　特別支援教育［第2版］』全3巻　教育出版	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
特別支援教育・保育Ⅱ Special Needs Education / Childcare Ⅱ	2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	園田　和江

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	◎			○	

授業の目的	特別な配慮を要する子どもの多様性を理解したうえで、それぞれの子どもを尊重し、自己肯定感を育み、達成感を持ちながら生きる力を身につけられるように教育・保育ができるようになる。また、子ども同士が多様性を認め合ってかかわれる教育・保育を目指し、特別支援教育・保育の実践力を習得する。
到達目標	1. 発達障害や特別な教育的ニーズをもつ子どもの「障害特性」や「発達」を理解する。 2. 保護者支援のあり方や関係機関(教育機関・医療・福祉など)との連携について理解を深める。 3. 他の子どもたちとの関わり合いの中で育ちあう保育実践について、適切な支援を考えられる。
授業の概要	担当者の臨床発達心理士、保育士としての実務経験を活かし、特別支援教育・保育Ⅰで学んだ障害児その他の特別な配慮を要する子どもに関する理解を深め、具体的な支援方法について学ぶ。特に、個々の発達特性を理解し、個別の支援と子ども同士の育ち合いの視点を養う。また、家庭への支援や関係機関との連携について理解する。

授業計画

1	特別支援教育・保育Ⅰのまとめ 「グループワーク」特別支援教育・保育の理念や、個々の発達や障害等に応じた支援方法について。	9	障害児支援に関わる専門職 「グループワーク」専門職についてまとめる
2	障害児の保育方法 ①保育者の基本姿勢 「グループワーク」子どもの強みを活かす	10	障害児へのアセスメント ①保護者面談等 「ロールプレイ」保育者、保護者の立場で面談を行う
3	障害児の保育方法 ②幼稚園・保育所での教育・保育方法 「グループワーク」実習先等の現状についてまとめる	11	障害児へのアセスメント ②行動観察 「グループワーク」子どもの行動の意味を知る
4	保育実習課題での気になる子どもの対応 「グループワーク」実習先での気になる子どもの対応	12	障害児へのアセスメント ③心理調査 「グループワーク」子どもに関する心理調査についてまとめる
5	家庭への支援 ①障害のある子どもがいる保護者への支援 「グループワーク」障害受容と子どもへの関わり方について	13	困った行動の捉え方とクラスメートへの対応 「グループワーク」事例検討：子どもの障害特性と対応について
6	家庭への支援 ②障害のある子どもがいる兄弟への支援 「グループワーク」心理的課題と対応について	14	指導計画書の実際と評価 ①環境構成と留意点 「ディスカッション」子どもの特性と環境構成について
7	発達支援の技法 ①ソーシャルスキルトレーニング(SST) 「ロールプレイ」SST 指導、実例、具体的な方法について	15	指導計画書の実際と評価 ②園内外の支援体制・就学援助 「ディスカッション」子どもの特性と園内外の支援体制・就学援助について
8	発達支援の技法 ②ペアレントトレーニング 「グループワーク」ペアレントトレーニングの実際と重要性について		

成績評価の方法・基準	期末試験 50%、授業中の演習課題 30%、授業に取り組む態度 20%で採点し、60%以上取得で単位認定。	
留意事項	保育現場での実践力向上のため、演習課題に積極的に取り組むこと。	
準備学習 (予習・復習等)	次回の講義のテーマを知らせるので、各自予習すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	演習課題は、実施後に回収する。次週、理解の程度や、質問や疑問などを含めて解説する。返却は、授業期間中内に行う。	
テキスト	「実践的な特別支援を学びたい方へ　障害児保育ワークブック　インクルーシブ保育・教育をめざして」星山麻木編著　萌文書林	
参考書等	授業の中で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
声楽 Vocal Music	1年前期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	坂田　万代

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎			

授業の目的	本科目では、保育者として基礎的な歌唱力の修得を目指すとともに、音楽についても理解を深めることで、より豊かな感性や表現力を養うことを目的とする。そして、保育者として、歌うことを通して子どもたちに音楽の楽しさや喜びを伝え、心身の発達を促していく音楽教育への基盤となる力をつける。
到達目標	1. 基礎的な歌唱力(正しい音程、拍子、リズムなど)を修得する。 2. 歌について音楽理論も含めた理解を深める。 3. 到達目標1，2でつけた力を音楽表現に生かす。
授業の概要	「改訂　子どもとともに歌ううた」を中心に、こどものうた、わらべうた、手遊び歌、楽典などについて学習していく。参考書「コールユーブンゲン」の中から数曲を練習する。小テスト① までは、主に個人で歌う練習をするが、それ以降は斉唱、合唱などグループや全体での集団活動となる。

授業計画

1	声楽の授業内容を知り、目標と意義を理解する。テキストの内容確認をする。歌唱の正しい姿勢について学び、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。	9	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。テキスト中の7曲程度を歌い、小テスト① の課題を確認し、練習する。
2	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。音名について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。	10	〔小テスト①〕歌う姿勢や正しい音程、拍子、リズム等に気をつけながら課題曲を歌う。
3	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。音符や休符について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。	11	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。テキスト中の5曲程度を歌い、練習する。グループごとに合唱曲を練習する。
4	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。音符や休符について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。	12	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。テキスト中の5曲程度を歌い、練習する。グループごとに合唱曲を練習する。
5	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。リズムと拍子について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。	13	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。テキスト中の5曲程度を歌い、練習する。より豊かな表現を目指し合唱曲を練習する。
6	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。リズムと拍子について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。	14	〔基礎・全体練習〕腹式呼吸と声の仕組みについて学び、発声練習を行う。より豊かな表現を目指し合唱曲の仕上げをする。小テスト② の課題を確認し、練習する。
7	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。反復記号と省略記号について学習し、テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。	15	〔小テスト②〕発声の仕方や正しい音程、拍子、リズム等に気をつけながら、課題曲を歌う。授業評価を行う。
8	〔基礎練習〕歌唱の正しい姿勢について学び、発声練習を行う。テキスト中の7曲程度を歌い、練習する。		

成績評価の方法・基準	授業で行う2回の小テスト60%(各30%)と受講態度・普段の歌唱40%で総合評価する。	
留意事項	個人、またはグループでそれぞれ積極的に練習を行うこと。	
準備学習 (予習・復習等)	次週までに授業で学習した歌を復習し、出来ない部分を練習する。	必要時間：45分
課題のフィードバック	授業で実施する小テスト①②については採点し、授業で総評を行う。	
テキスト	「改訂　子どもとともに歌ううた」　　笠井キミ子・坂田万代　他　櫂歌書房	
参考書等	「コールユーブンゲン」 城多又兵衛解説　音楽之友社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
幼児音楽Ⅰ Infant Music Ⅰ	1年後期	演習	1	卒業必修 免許･資格選択必修	坂田 万代

学科のディプロマ･ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○		

授業の目的	幼児教育において保育者として必要な音楽の基礎的な技能を身に付けることを目的とし、弾き歌いや伴奏法について学ぶ。さらに楽典やハーモニーなどを理解した上で実践することで、演奏技術の向上を目指す。
到達目標	1. 幼児の前で童謡の指導ができるようになる。 2. 簡単な曲の伴奏ができるようになる。 3. 簡単な曲の弾き歌いができるようになる。
授業の概要	「こどものうた200」の中から弾き歌いや伴奏づけを授業の中で毎時間発表し、実践することで歌唱力･伴奏力をつける。また、音楽の基礎である楽典やハーモニーについて個人もしくはグループで学び、それらを演奏技術の向上に生かす。

授業計画

1	オリエンテーション 弾き歌い･伴奏づけの説明･グループワーク	9	⑤弾き歌い 『いもほり』 『どんぐりころころ』
2	①伴奏づけ 『てをたたきましょう』 『むすんでひらいて』	10	⑥弾き歌い 『メリーさんのひつじ』 『こぎつね』
3	②伴奏づけ 『おおきなくりのきのしたで』 『ごあいさつ』	11	⑦弾き歌い 『ジングルベル』 『おしょうがつ』
4	③伴奏づけ 『あたまであくしゅ』 『おおきなたいこ』	12	⑧弾き歌い 『まめまき』 『ゆき』
5	①弾き歌い 『ちょうちょう』 『チューリップ』	13	⑨弾き歌い 『うれしいひなまつり』
6	②弾き歌い 『ぶんぶんぶん』 『かたつむり』	14	⑩選択課題 小テスト準備
7	③弾き歌い 『しゃぼんだま』 『うみ』	15	弾き歌い小テスト
8	④弾き歌い 『めだかのがっこう』 『とんぼのめがね』		

成績評価の方法･基準	伴奏づけ･弾き歌い課題60%　小テスト30%　受講態度10%	
留意事項	毎週の課題をよく練習し、授業に臨むこと。	
準備学習 （予習･復習等）	毎週の演奏課題を練習し、シャトルカードに記録すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。	
テキスト	「こどものうた200」小林美実編　チャイルド社	
参考書等	「続こどものうた200」小林美実編　チャイルド社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
幼児音楽Ⅱ Infant Music Ⅱ	2年前期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	坂田 万代

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○		

授業の目的	子どもの発達や成長に合う教材曲を選び、指導することができるようになる。幼稚園実習・保育園実習を視野に入れ毎週の課題に取り組み実践することで、各自が弾き歌いのレパートリーを増やし、演奏技術の向上を目指す。
到達目標	1. 子どもの心身の成長・発達に合わせた教材曲を選択できるようになる。 2. 5月の幼稚園実習において、子どもに指導できる曲が3～5曲ある。 3. 8月の保育園実習において、子どもに指導できる曲が3～5曲ある。
授業の概要	子どもの発達段階に応じた教材を選び、適切な指導法を身に付けるために個人、またはグループで毎週の課題に取り組み、発表する。また、担当者の幼稚園教諭としての実務経験を下に、保育園実習・幼稚園実習を見据えた上で、保育者として現場で指導ができるようにレパートリーを増やし、演奏法を学ぶ。

授業計画

1	オリエンテーション ・授業の概要・目的 ・弾き歌いシートの作成・グループワーク	9	④弾き歌い実習 選択課題
2	①適切な導入・展開の仕方と弾き歌い実習 『こいのぼり』 「先生とおともだち」	10	⑤弾き歌い実習 『うみ』 『アイアイ』
3	②適切な導入・展開の仕方と弾き歌い実習 『おつかいありさん』 『ありさんのおはなし』	11	⑥弾き歌い実習 『たなばたさま』 『おばけなんてないさ』
4	③適切な導入・展開の仕方と弾き歌い実習 『おかあさん』 『おはながわらった』	12	⑦弾き歌い実習 『南の島のハメハメハ大王』 『おなかのへるうた』
5	④弾き歌い実習 選択課題	13	⑧弾き歌い実習 『おへそ』 『あらどこだ』
6	①弾き歌い実習 『はをみがきましょう』 『すてきなパパ』	14	⑨弾き歌い実習 選択課題
7	②弾き歌い実習 『とけいのうた』 『あめふりくまのこ』	15	実技小テスト 弾き歌いによる実技テスト
8	③弾き歌い実習 『ハッピーバースデー』 『おもちゃのチャチャチャ』		

成績評価の方法・基準	毎週の課題に対する評価60%、実技テスト30%、受講態度10%で総合評価する。	
留意事項	毎週の課題をよく練習し、授業に臨むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	毎週の演奏課題を練習し、シャトルカードに記録すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。	
テキスト	「こどものうた200」 小林美実編 チャイルド社	
参考書等	「子どもとともに歌ううた」 笠井キミ子他 櫂歌書房	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
幼児音楽Ⅲ Infant Music Ⅲ	2年後期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	坂田 万代

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎			○

授業の目的	子どもの表現活動や日本の伝統的な行事に歌われる歌についての教育的価値を理解する。また、それによって果たす音楽の役割について学ぶ。また、四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌などの弾き歌いの技能を習得し、毎週の課題を発表する。
到達目標	1. 子どもの表現活動における音楽の果たす役割がわかる。 2. 日本の伝統的な行事における歌の教育的価値がわかる。 3. 四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌の弾き歌いができるようになる。
授業の概要	担当者の幼稚園教諭としての実務経験を活かし、四季の歌、動物の歌、行事の歌、日常生活の歌を中心に弾き歌い実習を通して技能を高め、レパートリーを増やす。また、保育現場をイメージし、具体的な音楽指導についてグループで考え、弾き歌いシートを作成し実践する。

授業計画

1	オリエンテーション ・授業の概要・目的 ・弾き歌いシートの作成・グループワーク	9	⑧弾き歌い実習 選択課題
2	①弾き歌い実習 『まつぼっくり』 『虫のこえ』	10	⑨弾き歌い実習 『おにのパンツ』 『カレンダーマーチ』
3	②弾き歌い実習 『まっ赤な秋』 『ゆうやけこやけ』	11	⑩弾き歌い実習 『おもいでのアルバム』 「小さな世界」
4	③弾き歌い実習 『もみじ』 『きのこ』	12	⑪弾き歌い実習 『ホ！ホ！ホ！』 『せかいじゅうのこどもたちが』
5	④弾き歌い実習 選択課題	13	⑫弾き歌い実習 「さよならぼくたちのほいくえん」 『いちねんせいになったら』「はじめのいっぽ」
6	⑤弾き歌い実習 『ぞうさん』 『いぬのおまわりさん』	14	⑬弾き歌い実習 選択課題 ※弾き歌いシート提出
7	⑥弾き歌い実習 『やぎさんゆうびん』 『やまのおんがくか』	15	実技小テスト 弾き歌いによる実技テスト
8	⑦弾き歌実習 『赤鼻のトナカイ』 『こんこんクシャンのうた』		

成績評価の方法・基準	毎週の課題に対する評価60%、実技テスト30%受講態度10%で総合評価する。	
留意事項	毎週の課題をよく練習して授業に臨むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	毎週の演奏課題を練習し、シャトルカードに記録すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	毎週の演奏課題については、授業中に評価を行う。	
テキスト	「こどものうた200」 小林美実編 チャイルド社	
参考書等	「子どもとともに歌ううた」 笠井キミ子他 櫂歌書房	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
ピアノⅠ Piano Ⅰ	1 年前期	演習	1	卒業必修 免許選択必修	原　浩美・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○		

授業の目的	幼稚園教諭および保育士として必要なピアノ演奏の基礎を修得することを目的とする。ピアノⅠでは、楽譜に記載されているさまざまな記号や楽語の意味を理解し、楽譜を正しく読めるようになり、楽譜通りにピアノを演奏し、その知識・技術を習得する。
到達目標	1.　楽譜を正しく読む力がつく。 2.　楽譜をよく理解し、ピアノ演奏が出来るようになる。 3.　1．2で実践した基礎技術から、自己の改善点が理解できるようになる。
授業の概要	個人指導で受講する。楽譜の読み方を学ぶと同時に、個々に実技指導を受けるため、事前の練習が必要である。バイエルを中心に基礎技術を習得していくが、実技小テスト前は、グループディスカッションを行い互いの演奏や練習方法などを確認する。実技の小テスト及び筆記テストでは、一斉授業になる。

授業計画

1	オリエンテーション 1．授業の主旨・目的・概要の説明 2．楽譜の読み方(1)　3．課題曲 No12、13、20、23	9	個人指導 1．楽譜の読み方(8) 2．課題曲 No85、92
2	個人指導 1．楽譜の読み方(2) 2．課題曲 No29、31、37	10	個人指導 1．楽譜の読み方(9) 2．課題曲 No92、75
3	個人指導 1．楽譜の読み方(3) 2．課題曲 No48、44、52	11	個人指導 1．楽譜の読み方(10) 2．課題曲 No75、80
4	個人指導 1．楽譜の読み方(4) 2．課題曲 No66、55	12	個人指導 1．楽譜の読み方(11) 2．課題曲 No80、81
5	個人指導 1．楽譜の読み方(5) 2．課題曲 No61、72	13	個人指導 1．楽譜の読み方(12)　2．ブルグミュラーの選曲 3．課題曲の復習及び予備の練習曲 No79、83、84 等
6	個人指導 1．楽譜の読み方(6) 2．課題曲 No72　　3．グループディスカッション	14	個人指導 1．楽譜の読み方(13)　2．ブルグミュラーの選曲 3．　グループディスカッション
7	1．バイエルの実技小テスト ① 2．筆記小テスト　 拍子、音符、調性等を問う	15	1．バイエルの実技小テスト② 2．まとめ
8	個人指導 1．楽譜の読み方(7) 2．課題曲 No74、85		

成績評価の方法・基準	授業内で行う2回の実技小テスト70%(①30%・②40%)、筆記小テスト10%、受講態度・姿勢20%で総合評価する。	
留意事項	爪を切り、習熟度表を持参し出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。	
準備学習 (予習・復習等)	課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行い、今後の課題を確認する。筆記テストは採点し次週の授業で返却し、総評を行う。	
テキスト	「標準バイエルピアノ教則本」 全音楽譜出版社	
参考書等	適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
ピアノⅡ Piano Ⅱ	1 年後期	演習	1	卒業必修	原　浩美・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○		

授業の目的	ピアノⅠからの継続で、ピアノ演奏の基礎技術の向上と表現について学び実践する。バイエルに加えブルグミュラー25の練習曲や同等の楽曲を併用し、楽譜上の表現記号に配慮した奏法を学ぶ。音で伝える表現を実践し、表現の多様さを理解することを目的とする。
到達目標	1. 楽譜上の表現記号を理解する。 2. 表現記号の多様さを理解し、演奏する。 3.「ブルグミュラー25の練習曲」等より選曲し、音楽性を引き出す表現活動をする。
授業の概要	個人指導で受講する。実技小テストでは一斉授業となる。テスト前の回では互いの演奏を披露し、グループディスカッションをする。さらに表現力に重点を置いた演奏法を学ぶために「ブルグミュラー25 の練習曲」等から 1 曲を選び、音楽表現が深まる奏法を習得し、音楽に対する理解を深めていく。

授業計画

1	個人指導 1. 楽譜の読み方(1) 2. 課題曲 No86、マーチ等	9	個人指導 1. 楽譜の読み方(8) 2. 課題曲 No97、ブルグミュラー等
2	個人指導 1. 楽譜の読み方(2) 2. 課題曲 No88、マーチ等	10	個人指導 1. 楽譜の読み方(9) 2. 課題曲 No99、ブルグミュラー等
3	個人指導 1. 楽譜の読み方(3) 2. 課題曲 No91、マーチ等	11	個人指導 1. 楽譜の読み方(10) 2. 課題曲 No101、ブルグミュラー等
4	個人指導 1. 楽譜の読み方(4) 2. 課題曲 No93、マーチ等	12	個人指導　1. 楽譜の読み方(11) 2. 課題曲の復習、ブルグミュラー等 3. グループディスカッション
5	個人指導 1. マーチの実技小テスト①　2. 楽譜の読み方(5) 3.　課題曲 No94、ブルグミュラー等	13	個人指導　1. 楽譜の読み方(12) 2. 課題曲の復習、ブルグミュラー等 3. グループディスカッション
6	個人指導 1. 楽譜の読み方(6) 2. 課題曲の復習　　3. ブルグミュラー等	14	1. バイエルの実技小テスト③ 2. ブルグミュラー等
7	個人指導 1. 楽譜の読み方(7) 2. グループディスカッション　3. ブルグミュラー等	15	1. ブルグミュラー等の実技小テスト④ 2. まとめ
8	1. バイエルの実技小テスト②と筆記テスト 2. ブルグミュラー等		

成績評価の方法・基準	授業で行う4回の実技小テスト80%(各20%)、筆記小テスト10%、受講態度・姿勢10%で総合評価する。	
留意事項	爪を切り、習熟度表を持参し出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。	
準備学習 (予習・復習等)	課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。	必要時間:45分
課題のフィードバック	実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行い、今後の課題を確認する。筆記テストは採点し次週の授業で返却し、総評を行う。	
テキスト	「標準バイエルピアノ教則本」 全音楽譜出版社、 ブルグミュラー25の練習曲　 全音楽譜出版社、他	
参考書等	適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
ピアノ演奏法 Piano Playing Method	2年前期	演習	1	卒業選択 資格選択必修	原　浩美・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎	○	○	

授業の目的	ピアノⅠ・Ⅱで培った基礎技術を土台に、更なる技術の向上を目的とする。保育の現場に活かせるような様々なジャンルの楽曲を研究演奏し、表現力を深める。教育実習の準備として1～5回では幼児音楽に取り組む。6回以降は自由曲を１曲選択し、各々の演奏表現法を工夫し実践する。それに加え簡単な伴奏付と初見奏を身につける。
到達目標	1. 実習で弾く幼児音楽の雰囲気をつかみ、止まらずに弾き歌いをする。 2. 選択したピアノ曲の理解が深まり、表現豊かに演奏できるようになる。 3. 簡単な伴奏付と初見奏ができるようになる。
授業の概要	前半は、教育実習で弾く幼児の歌を準備・練習することから入る。実習後は、保育者として要求されるピアノ演奏をイメージしてその表現力をさらに深めることに主眼を置き学習する。中間発表会後はそれぞれのグループにおいてディスカッションをする。

授業計画

1	オリエンテーション 1. 授業の説明 2. 幼児音楽の選曲	9	個人指導 1. 選択曲 2. 簡単な伴奏付の練習(3)
2	個人指導 1. 実習に活かす幼児音楽(1) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏	10	個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏について
3	個人指導　1. 実習に活かす幼児音楽(2) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏 3. 実習園からの幼児の歌	11	個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏の練習(1)
4	個人指導　1. 実習に活かす幼児音楽(3) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏 3. 実習園からの幼児の歌	12	中間発表会 1.　各自の選択曲を演奏する。 2.　グループディスカッションをする
5	個人指導　1. 実習に活かす幼児音楽(4) 2. 季節の歌、行事の歌、生活の歌等の伴奏 3. 実習園からの幼児の歌	13	個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏の練習(2)
6	個人指導　1. 選択曲(クラシック、ディズニー、ジブリ等より教師と相談の上選曲する) 2. 簡単な伴奏付について	14	個人指導 1. 選択曲 2. 初見演奏の練習(3)
7	個人指導 1. 選択曲 2. 簡単な伴奏付の練習(1)	15	実技小テストとまとめ
8	個人指導 1. 選択曲 2. 簡単な伴奏付の練習(2)		

成績評価の方法・基準	実技小テスト60%、伴奏付・初見奏20%(各 10%)、受講態度・姿勢20%で総合評価する。	
留意事項	爪を切り、出席すること。欠席した場合は、次週の範囲も自習しておくこと。	
準備学習 (予習・復習等)	課題曲を予習練習し、授業のあったその日のうちに復習すること。毎日の練習を怠らないようにすること。	必要時間:45分
課題のフィードバック	実技小テスト終了後は、その日のうちに担当教員から各人に総評を行う。伴奏付・初見奏を採点し、次週の授業で振り返り演奏法をチェックして総評を行う。	
テキスト	「新・子どもの歌200」 チャイルド社、「こどものうた名曲大全集」 デプロ、「宮崎駿スーパーヒット曲集」 オンキョウ、「日本の子どもの歌」 音楽の友社等から選ぶ。	
参考書等	適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
器楽合奏 Instrumental Ensemble	2年後期	演習	1	卒業必修	椎山　克己

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎			

授業の目的	本科目では、保育現場において行われている幼児を対象とした合奏やマーチングの指導に必要な知識、並びに技術を習得することを目的とする。具体的にはパーカッションの奏法、リズム奏の創作、カラーガードの操法および合奏技術について、その知識・技術を習得する。
到達目標	1. 保育で使われるパーカッションの奏法、カラーガードの基本的操法を習得する。 2. 基本的なリズムの構造について理解し、リズムフレーズの創作ができるようになる。 3. 合奏やマーチングの指導に関する知識を習得する。
授業の概要	保育で用いられるリズム奏や器楽合奏を行う中で各楽器の奏法、合奏の指導方法を学び、カラーガードについても実際の創作演技を通してフラッグの操法を習得する。また、基本的なリズムの構造を学び、幼児に向いたリズム奏の創作を通して理解を深めて行く。

授業計画

1	器楽合奏の基礎知識 1. 授業オリエンテーション 2. 保育現場で行われている楽器を使った保育内容	9	リズムフレーズの創作 1. リズムフレーズの作り方 2. 自作したリズムを用いた合奏　3. 課題の提示
2	カラーガードの操法Ⅰ 1. カラーガードに関する基本的知識 2. フラッグの基本的な操法	10	小テスト リズム奏の実技テスト
3	カラーガードの操法Ⅱ 1. フラッグの様々な操法 2. 振り付けの創作方法	11	合奏Ⅰ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 合奏指導のポイント
4	カラーガードの振りつけ 1. 子どもを対象とした振り付け 2. 振り付けの創作	12	合奏Ⅱ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 合奏指導のポイント
5	小テスト カラーガード演技の実技テスト （グループごとに発表会形式で行う）	13	合奏Ⅲ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 各々の楽器のリズムフレーズの使い方
6	パーカッションの奏法Ⅰ 1. スティックやマレットの持ち方、ストロークの方法 2. 簡単なリズム奏、小テストの課題提示	14	合奏Ⅳ　　課題提出日 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 課題の提出
7	パーカッションの奏法Ⅱ 1. 基本的なリズムパターンを使ったリズム奏 2. パーカッションの各楽器の奏法	15	合奏Ⅴ 1. 子ども向けの曲の合奏 2. 提出課題の合奏
8	リズムに関する基礎知識 1. 基本的なリズムの構造 2. リズム奏の創作方法		

成績評価の方法・基準	講義中に行う実技テスト（30％×2）、課題作品（30％）に受講態度（10％）で総合評価する。	
留意事項	2回～5回は体を動かすため、動きやすい服装（体操服等）で受講すること。	
準備学習 （予習・復習等）	カラーガードとリズム奏は必ず個人・もしくはグループで放課後等に練習を行い、操作を確実に習得しておくこと。また合奏の際には事前に楽譜を読んでおくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出作品は添削を行い、最終回に返却する。その際に、いくつかの作品を実際に合奏し、総評を行う。	
テキスト	「保育にいかすマーチング曲集」、「保育にいかす器楽合奏曲集」 椎山克己　櫂歌書房	
参考書等	「マーチングバンド・バトントワーリング指導書」 上・下巻　日本マーチングバンド・バトントワーリング協会	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
音楽保育 Method of Pre-school Music Education	2年後期	演習	1	卒業選択 資格選択必修	椎山・原・坂田

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					○			◎

授業の目的	音楽に関する保育実践について、A:幼児音楽、B:器楽合奏、C:ピアノ演奏の3分野の中から1分野を選択して学ぶ。実際に保育の場で実践されている音楽的表現に関する保育教材の研究、並びに指導法研究を行い、指導のために必要な知識と技能を習得する。
到達目標	1. 選択した分野(幼児音楽・器楽合奏・ピアノ演奏)の技能が深まる。 2. 音楽的な保育実践に必要な教材研究を行う能力が高まる。 3. 音楽的な保育実践の発表に必要な知識を習得する。
授業の概要	A:幼児音楽では、弾き歌いの表現の工夫を行い、レパートリーを増やし、最後に発表会を行う。 B:器楽合奏では、おもに合奏曲の編曲法を学び、自分でアレンジした作品の発表を行う。 C:ピアノ演奏では、オペレッタや連弾を通して自分のピアノ伴奏法を研究し、その発表を行う。

授業計画

1	講義ガイダンス 1. 幼児音楽、器楽合奏、ピアノ演奏の選択の決定 2. 選択分野ごとのガイダンス	9	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす② B:器楽合奏曲への編曲法(曲の構成について)③ C:保育にかかわるピアノ音楽⑧生活
2	A:童謡の弾き歌いにおける表現の工夫① B:器楽合奏曲への編曲法(リズム楽器について)① C:保育にかかわるピアノ音楽①行事	10	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす③ B:日常の保育における楽器遊びについて C: 保育にかかわるピアノ音楽⑨生活
3	A:童謡の弾き歌いにおける表現の工夫② B:器楽合奏曲への編曲法(リズム楽器について)② C:保育にかかわるピアノ音楽②行事	11	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす④ B:幼児のマーチング指導法について C:保育にかかわるピアノ音楽⑩生活
4	A:童謡の弾き歌いにおける表現の工夫③ B:器楽合奏曲への編曲法(ハーモニーについて)① C:保育にかかわるピアノ音楽③行事	12	A:研究発表会の準備① B:幼児の器楽合奏指導法について C:幼児が喜ぶピアノ音楽について①
5	A:童謡の歌唱法① B:器楽合奏曲への編曲法(ハーモニーについて)② C:保育にかかわるピアノ音楽④行事	13	A:研究発表会の準備② B:発表会の演出方法について① C:幼児が喜ぶピアノ音楽について②
6	A:童謡の歌唱法② B:器楽合奏曲への編曲法(ハーモニーについて)③ C:保育にかかわるピアノ音楽⑤季節	14	A:研究発表会の準備③ B:発表会の演出方法について② C:幼児が喜ぶピアノ音楽について③
7	A:童謡の歌唱法③ B:器楽合奏曲への編曲法(曲の構成について)① C:保育にかかわるピアノ音楽⑥季節	15	A:研究発表会と相互評価 B:課題作品発表と相互評価 C:保育にかかわるピアノ音楽について年間スケジュール作成とプレゼンテーション
8	A:童謡の弾き歌いのレパートリーを増やす① B:器楽合奏曲への編曲法(曲の構成について)② C:保育にかかわるピアノ音楽⑦季節		

成績評価の方法・基準	研究発表または課題作品(90%)、受講態度10%を総合して評価する。	
留意事項	A:欠席をしない。B:課題作品の提出期限を守ること。C:欠席をしない。	
準備学習 (予習・復習等)	A:毎週の演奏課題曲を充分に練習すること。B:課題の復習、各楽器の個人練習を行うこと。C. 演奏課題曲を練習し、研究発表の場を自ら設ける機会を持つこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	A:課題については授業中に評価する。 B:課題作品は発表時に総評を行い返却する。C. 課題曲の発表時に総評を行う。	
テキスト	A:「子どもの歌200」 小林美実編 チャイルド社、B・C:プリントを配布する。	
参考書等	A:なし B:「幼児に生かす編曲法」 椎山克己 櫂歌書房 C:適宜紹介する	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
基礎造形Ⅰ Basic Design and Art Ⅰ	1年前期	演習	1	卒業必修 免許必修・資格選択必修	内野 香

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎			○

授業の目的	幼児教育における造形教育の重要性を基礎知識の習得及び実制作で学ぶことを目的とする。 具体的な道具の使用方法・材料・技法などの知識を身に着け実際の保育の現場で生かせるように習得する。さまざまな材料、技法に触れながら、造形が楽しく有意義であることに理解を深める。
到達目標	1. 造形の基礎知識を学び、表現する技能を身に着ける。 2. 1. で学んだ基礎知識を制作に生かすことができる。 3. 新鮮な目で物・材料などを見て、制作のアイデアにつなげることができる。
授業の概要	授業前半は基礎的な造形理解及び道具の使用法を学ぶ。 後半はそれを元に様々な表現技法を習得し、実践的な作品制作を行い、造形表現の楽しさを感じさせる作品をグループで制作する。

授業計画

1	ガイダンス 授業説明	9	石・木・葉で昆虫をつくる。② 生き生きした昆虫を表現する。
2	造形教育において、保育者自身の美意識・創造性・表現力を育てる必要性の意味について考える。（Ⅰ）	10	様々な表現技法 ① スパッタリング・マーブリング・デカルコマニーなど、
3	幼児の目で物を見る。 幼児の目線、幼児になったつもりで新鮮にモチーフを見て描く。	11	様々な表現技法 ② ①の表現技法を組み合わせ、作品化する。
4	描画材料を知る。 一つのモチーフを、様々な描画材料で違いが分かるよう描く。	12	身近な材料で「乗り物」を制作する。① 身近な素材から発想し、素材の利用方法を考える。
5	紙で立体を製作する。 ハサミ・カッター・テープ・接着剤などの道具の使用法を習得する。	13	身近な材料で「乗り物」を制作する。② 具体的な形にしていく方法を考える。
6	三原色で模様を描く。 基礎的な色彩知識を学ぶ。	14	終了制作 ① 基礎造形Ⅰで学んだ表現方法を再確認し、発想に基いた表現方法を考える。
7	自然の中の形や色を見つける。 自然の中の色彩や形の豊かさを感じ取る。	15	終了制作 ② 終了作品について、基礎造形Ⅰで学んだ表現方法を再確認し、グループでディスカッションする。
8	石・木・葉で昆虫をつくる。① 昆虫の持つ形態の面白さを見つけ出す。		

成績評価の方法・基準	提出物60%、基礎評価（受講態度等）40%で総合評価する。	
留意事項	日頃より、画集などに目を通し、美術館などに足を運び、美術や自然に触れることを心がける。	
準備学習 （予習・復習等）	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書等	「幼児の造形」 編著：野村知子・中谷孝子 保育出版社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
基礎造形Ⅱ Basic Design and Art Ⅱ	1年後期	演習	1	卒業必修 資格選択必修	内野 香

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
					◎			○

授業の目的	基礎造形Ⅰで習得した知識・技術・創造性を更に深め、幼児教育においての造形教育の重要性を再認識する。習得した技術・技法を保育の現場で実践的に活用・応用できる力を身に着ける。 指導者として必要な応用力と創造性を身につける。
到達目標	1. 造形の基礎知識を更に学び、表現方法の幅を広げる。 2. 発想力を養い、1と合わせて作品を制作する。 3. 幼児教育の現場で、習得したことを活用できるようにする。
授業の概要	授業前半は、基礎的な造形理解及び道具の使用法、教材に使用する材料の知識などを学ぶ。 後半は、習得した技術、技法を制作において、実践的な作品制作をグループで行い、造形表現の楽しさを感じさせる作品を制作する。

授業計画

1	ガイダンス 授業説明 年間授業計画・受講における心構えの説明。	9	紙版画制作。② 材料から発想する力及び、発想から作品にするまでの構成力を養う。
2	造形教育において、保育者自身の美意識・創造性・表現力を育てる必要性の意味について考える。(Ⅱ)	10	ステンシルで蝶を制作する。 ステンシルの効果を考える。
3	描画材料と身の回りにある物で季節を描く。① それぞれの季節の特徴を考え、表現方法を考える。	11	ペープサートを制作する。① 自画像をモチーフにして、豊かな表情を考える。(グループワーク)
4	描画材料と身の回りにある物で季節を描く。② 毛糸・小枝・落ち葉などと、組み合わせる。	12	ペープサートを制作する。② 厚紙・フェルトを使用して制作する。(グループワーク)
5	粘土で動物をつくる。① 動物の持つ身体的特徴を面白さにつなげて制作する。	13	ペープサートを制作する。③ 厚紙・フェルトを使用して制作する。(グループワーク)
6	粘土で動物をつくる。② モデリング(肉付け)の方法を学ぶ。	14	ペープサート劇の舞台制作。③ 舞台の制作。(グループワーク)
7	音楽を色彩・形・構成で表現する。 音楽鑑賞後、生まれた感情を表現する。	15	ペープサート劇の上演会 各グループの上演を、相互に評価する。
8	紙版画制作。① 画用紙や厚紙で版画を制作し、刷ることで出来る表現の面白さを学ぶ。		

成績評価の方法・基準	作品提出物60%、基礎評価(受講態度等)40%で総合評価する。	
留意事項	日頃より、画集などに目を通し、美術館などに足を運び、美術や自然に触れることを心がける。	
準備学習 (予習・復習等)	授業で難しいと感じた技法・技術に関しては、復習し、習得に努めること。	必要時間:45分
課題のフィードバック	提出された作品は、採点した上で次週の授業で総評を行う。	
テキスト	授業中にプリントを配布する。	
参考書等	「幼児の造形」 編著:野村知子・中谷孝子 保育出版社	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
体育 Physical Education	2年前期	演習	1	卒業必修 免許必修・資格選択必修	新井　真実

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				○	◎	○		○

授業の目的	保育者の心と身体の「しなやかさ」は、子どもたちが安心して身体表現活動を行うための、かけがえのない環境となる。本授業では、子どもの生き生きとしたからだづくりを援助する、からだあそびの基礎的な知識とレパートリーを習得する。また自身の身体意識を高め、からだを通した周囲とのコミュニケーション能力を養う。
到達目標	1. 自身の身体と向き合う楽しさ、仲間の身体を感じる喜びを味わう。 2. からだあそびのバリエーションに触れ、レパートリーを習得すると共に、アレンジの方法を学ぶ。 3. 子どもたちの身体能力の目覚め、動きの発見を促す、効果的な働きかけ・言葉かけを身につける。
授業の概要	各回テーマに沿ったからだあそびやリズム運動のバリエーションに触れ、子どもの育ちに視点を置きながら体験することで、理論と実践の両面から体得していく。グループワークでは、グループ毎の課題について模擬保育形式で発表を行い、これを実技試験とする。

授業計画

1	オリエンテーション ―授業内容概説、評価方法の説明	9	素材を用いたからだあそび ―身近な素材の特性を生かした動きの発見・発展
2	アイスブレイキング ―自己紹介ゲーム、他己紹介ゲーム　等	10	手具を用いたからだあそび ―手具の特性を生かした動きの発見・発展
3	ストレッチ ―柔軟性向上、姿勢の維持、リラクゼーションの為に	11	幼児体操・キッズダンスの基礎レッスン① ―ステップワークを中心に
4	コミュニケーションを楽しむからだあそび ―表情・視線・身振り・相手との距離に着目して	12	幼児体操・キッズダンスの基礎レッスン② ―コンビネーションを中心に
5	手あそびうたを使ったからだあそび ―身近な手あそびうたからの発展を楽しむ	13	グループワーク① ―課題の確認と計画づくり
6	わらべうたをつかったからだあそび ―伝統的なわらべうたを使ったあそびの魅力を探る	14	グループワーク② ―発表準備
7	じゃんけん・鬼ごっこを使ったからだあそび ―ポピュラーなあそびを、より豊かにアレンジ	15	グループワーク③ ―最終確認 実技試験
8	輪になって楽しむからだあそび ―輪(サークル)の隊形の特性を生かして		

成績評価の方法・基準	受講態度・姿勢50%、実技試験30%、レポート20%を原則とし、総合評価する。	
留意事項	腕時計・アクセサリー類は外し、長い髪は束ね、動きやすく危険のない身なりを整えること。 自ら積極的に楽しみ、グループワークが円滑にできるよう心掛けること。	
準備学習 （予習・復習等）	取り扱ったテーマについて、授業後に関連する参考書やインターネット等を活用し、更に理解・考察を発展させること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	実技課題は授業内でグループ発表を実施し、並行して採点、総評を行う。	
テキスト	プリント資料	
参考書等	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　フレーベル館、その他は授業内で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
モンテッソーリ教育法Ⅰ Montessori Education Ⅰ	2年前期	演習	1	卒業選択 資格選択必修	関　聡

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				◎				○

授業の目的	モンテッソーリ教育法に関心を持つ者に対して、①モンテッソーリ教育法の理論（思想・原理）、②モンテッソーリ法の実践（日常・感覚・数・言語・文化の領域）の基礎を講じ、モンテッソーリ法導入園への就職を支援し、将来モンテッソーリ教育法の実践者となる基礎を培う。
到達目標	1. モンテッソーリ教育法の成立過程・基本原理及びモンテッソーリの子ども観・教育観を理解する。 2. モンテッソーリ教育法の実践について、教具の提供法の基礎を身につける。 3. 将来モンテッソーリ教育法導入園での教師となる自覚や資質を養う。
授業の概要	90分を前半・後半に分け、前半はテキストを用いてモンテッソーリ教育法の理論についての学習を進める。後半は教具を用いてモンテッソーリ教育法の実践についての学習を進める。「モンテッソーリ教育法Ⅰ」においては、5領域（日常・感覚・数・言語・文化）のうち、日常生活の練習の領域について学習する。

授業計画

1	オリエンテーション 1、「モンテッソーリ教育法Ⅰ」の科目の意味 2、テキストと教具に関する説明	9	1、前半　誕生からの教育（乳児期の発達について）Ⅱ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「磨く」
2	1、前半　モンテッソーリ教育法の発見と展開Ⅰ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「注ぐ」	10	1、前半　言語の神秘（乳児期の発達について）Ⅰ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「絞る」
3	1、前半　胎生学（胎生期の発達について）Ⅰ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「巻き伸ばし」	11	1、前半　言語の神秘（乳児期の発達について）Ⅱ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「お茶のサービス」
4	1、前半　胎生学（胎生期の発達について）Ⅰ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「巻き伸ばし」	12	1、前半　運動の意味（1歳～）Ⅰ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「花の水替え」
5	1、前半　胎生学（胎生期の発達について）Ⅱ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「掃く」	13	1、前半　運動の意味（1歳～）Ⅱ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「野菜の皮むき」
6	1、前半　環境と人間（新生児期の発達について）Ⅰ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「折る」	14	前期のまとめⅠ 1、グループディスカッション 2、レポート作成
7	1、前半　環境と人間（新生児期の発達について）Ⅱ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「拭く」	15	前期のまとめⅡ 1、グループディスカッション 2、レポート作成
8	1、前半　誕生からの教育（乳児期の発達について）Ⅰ 2、後半　日常生活の練習 【グループ・ワーク】 「洗う」		

成績評価の方法・基準	レポート（80%）・授業態度（20%）を原則として総合評価する。 この科目でいうレポートとはモンテッソーリ教育法の実践で使用する個人用の教本を指す。	
留意事項	モンテッソーリ教育法に興味・関心のある者が受講する科目である。 就職等の理由で履修届を出していない者の中途受講を認める。ただし単位認定はできない。	
準備学習（予習・復習等）	予習：テキストを読んでおくこと。復習：授業で行った提供法（M 教具の使用方法）を指定の様式（アルバム）で次回までにまとめておくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	レポート作成前に、必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。	
テキスト	「新しい世界のための教育」 マリア・モンテッソーリ著　関聡訳　青土社	
参考書等	本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
モンテッソーリ教育法Ⅱ Montessori Education Ⅱ	2年後期	演習	1	卒業選択 資格選択必修	関　聡

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				◎				○

授業の目的	モンテッソーリ教育法に関心を持つ者に対して、①モンテッソーリ教育法の理論（思想・原理）、②モンテッソーリ法の実践（日常・感覚・数・言語・文化の領域）の基礎を講じ、モンテッソーリ法導入園への就職を支援し、将来モンテッソーリ教育法の実践者となる基礎を培う。
到達目標	1. モンテッソーリ教育法の成立過程・基本原理及びモンテッソーリの子ども観・教育観を理解する。 2. モンテッソーリ教育法の実践について、教具の提供法の基礎を身につける。 3. 将来モンテッソーリ教育法導入園での教師となる自覚や資質を養う。
授業の概要	90分を前半・後半に分け、前半はテキストを用いてモンテッソーリ教育法の理論についての学習を進める。後半は教具を用いてモンテッソーリ教育法の実践についての学習を進める。「モンテッソーリ教育法Ⅱ」においては、5領域（日常・感覚・数・言語・文化）のうち、日常生活の練習以外の領域について学習する。

授業計画

1	オリエンテーション 1、「モンテッソーリ教育法Ⅱ」の科目の意味 2、テキストと教具に関する説明	9	1、前半　意志の発達（3歳～6歳）Ⅱ 2、後半　感覚教育 【グループ・ワーク】 「幾何立体」
2	1、前半　活動のはじまり（1歳半～）Ⅰ 2、後半　感覚教具 【グループ・ワーク】 「円柱さし」Ⅰ	10	1、前半　モンテッソーリ教師Ⅰ 2、後半　感覚教具 【グループ・ワーク】 「布合わせ」
3	1、前半　活動のはじまり（1歳半～）Ⅱ 2、後半　感覚教具 【グループ・ワーク】 「円柱さし」Ⅱ	11	1、前半　モンテッソーリ教師Ⅱ 2、後半　数教具 【グループ・ワーク】 「数の棒と数字カード」
4	1、前半　自分をつくる（3歳）Ⅰ 2、後半　感覚教具 【グループ・ワーク】 「ピンクタワー」	12	1、前半　モンテッソーリ教師Ⅲ 2、後半　言語教具 【グループ・ワーク】 「絵カード」
5	1、前半　自分をつくる（3歳）Ⅱ 2、後半　感覚教具 【グループ・ワーク】 「茶色の階段」	13	1、前半　モンテッソーリ教師Ⅳ 2、後半　文化教具 【グループ・ワーク】 「国旗」
6	1、前半　性格の形成について（3歳～6歳）Ⅰ 2、後半　感覚教育 【グループ・ワーク】 「赤い棒」	14	後期のまとめⅠ 1、グループディスカッション 2、レポート作成
7	1、前半　性格の形成について（3歳～6歳）Ⅱ 2、後半　感覚教育 【グループ・ワーク】 「色つき円柱」	15	後期のまとめⅡ 1、グループディスカッション 2、レポート作成
8	1、前半　意志の発達（3歳～6歳）Ⅰ 2、後半　感覚教育 【グループ・ワーク】 「色板」		

成績評価の方法・基準	レポート（80%）・授業態度（20%）を原則として総合評価する。 この科目でいうレポートとはモンテッソーリ教育法の実践で使用する個人用の教本を指す。	
留意事項	モンテッソーリ教育法に興味・関心のある者が受講する科目である。 就職等の理由で履修届を出していない者の中途受講を認める。ただし単位認定はできない。	
準備学習（予習・復習等）	予習：テキストを読んでおくこと。復習：授業で行った提供法（M 教具の使用方法）を指定の様式（アルバム）で次回までにまとめておくこと。	必要時間：45分
課題のフィードバック	レポート作成前に、必要に応じて補習等を行う。学期途中にも確認の作業を行う。質問は授業中いつでも受け付けるが、オフィスアワーを十分に活用すること。	
テキスト	「新しい世界のための教育」 マリア・モンテッソーリ著　関聡訳　青土社	
参考書等	本学図書館に備えてあるものを中心に適宜、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
レクリエーション概論 Introduction to Recreation	1年後期	講義	2	卒業選択 資格必修	原田　弘美

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
								◎

授業の目的	レクリエーションとは心を元気にすることを主旨として行われることを理解する。レクリエーションの歴史や支援者の役割、個人や社会の様々なニーズに多様に応えるレクリエーション運動の意義を理解し、楽しさや心地よさを活用した信頼関係づくりや自主的・主体的に楽しむ力を育む基礎的な考え方や技術を学ぶ。
到達目標	1. レクリエーションが地域社会の課題に幅広く用いられていることを理解する。 2. レクリエーションの支援の知識を学び、対象者の主体性を尊重する姿勢を身につける。 3. レクリエーション・インストラクターの資格を取得する。
授業の概要	現代社会のなかで余暇やレクリエーションの持つ意味を理解し、レクリエーションが充実した人生づくり・豊かな人間関係の基盤になることを学習する。レクリエーションの支援方法の幅広さ、対象者の主体性を尊重した姿勢などレクリエーション支援を理解し、一人ひとりの豊かなライフスタイルにむけてレクリエーションを意図的に活用することを学習する。

授業計画

1	ガイダンス　レクリエーション概論 ① レクリエーション支援とは レクリエーションの主旨を理解する	9	レクリエーション支援の理論 ④ 良好な集団づくりの理論を学ぶ
2	レクリエーション概論 ② レクリエーション・インストラクターの役割を理解する	10	レクリエーション支援の理論 ⑤ アイスブレーキングのプログラムと基本技術を理解する
3	楽しさと心の元気づくりの理論 ① 楽しさをとおした心の元気づくりと対象者の心の元気について学ぶ	11	レクリエーション支援の理論 ⑥ 自主的・主体的に楽しむ力を育む理論を学ぶ
4	楽しさ心の元気づくりの理論 ② 活動を心の元気づくりに活かす 2 つの視点について理解する	12	レクリエーション支援の理論 ⑦ 楽しむ力を高める目標設定の方法・アレンジについてグループワークを通して理解する
5	レクリエーション概論・楽しさとこころの元気づくりの理論のまとめと小テスト	13	レクリエーション支援の理論 ⑧ 相互作用を促進するコミュニケーション技術を理解する
6	レクリエーション支援の理論 ① コミュニケーションと信頼関係づくりの方法を学ぶ	14	レクリエーション支援のプログラム リスクマネジメントの方法について理解する
7	レクリエーション支援の理論 ② あたたかくもてなす意識と配慮についてグループワークをとおして理解する	15	レクリエーション支援のまとめと小テスト 全体のふりかえり
8	レクリエーション支援の理論 ③ 気持ちを一つにするコミュニケーション技術をグループワークを通して理解する		

成績評価の方法・基準	筆記試験60%、課題・提出物40%で総合評価する。	
留意事項	単元ごとの小テストを活用して、授業で理解できなかった点を質問し解決していくように努力すること。	
準備学習 （予習・復習等）	身近な地域のレクリエーション協会の組織や展開している事業など事前に調べておく。 身の周りの課題や対象者の課題にレクリエーション協会がどのように応えているのか自分なりにまとめる。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	単元ごとの小テストは添削、採点し総評をおこなう	
テキスト	「楽しさをとおした心の元気づくり」 編集・発行（財）日本レクリエーション協会 「楽しいをつくる～レクリエーション・ハンドブック～」 編集・発行NPO法人福岡県レクリエーション協会	
参考書等	随時、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
スポーツ・レクリエーション概論 Overview of Sports recreation	2年後期	講義	2	資格必修	新井 真実

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				○			○	◎

授業の目的	スポーツを活用したレクリエーション活動を通じて、運動嫌いの子どもや、運動に親しんでいない人たちを含め、だれもがスポーツ・レクリエーションを継続的に楽しめる場をクリエイトするための、基礎的な知識と手法を修得する。
到達目標	1. 運動効果を、科学的な知見や客観的な数値にもとづき、わかりやすく解説することができる。 2. 運動やスポーツに無関心な人の意識を刺激し、参加を促す手法について理解する。 3. 楽しさと運動効果で、運動やスポーツを持続する意欲を高める手法について理解する。
授業の概要	「レクリエーション概論」及び「レクリエーション指導法」で修得した内容を踏まえ、特にスポーツを活用したレクリエーションのあり方について学修する。グループワークでは、課題に基づき、スポーツ・レクリエーションのプログラムを立案・発表し、実践に必要な企画力とコミュニケーション能力を身に着ける。

授業計画

1	オリエンテーション	9	動機づけの支援技術(1) ―スポレク効果の理解、意欲を高める指導法
2	スポーツ・レクリエーション概論 ―スポレク指導者の使命、役割の理解	10	動機づけの支援技術(2) ―継続意欲を高める指導法
3	スポーツ未実施者参加促進法 ―スポーツ未実施者掘起しのための手法	11	スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 ―グループワーク(1) 対象者の主体性
4	スポーツ行政の仕組みと実際 ―スポーツ基本計画の推進に向けた取組み	12	スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 ―グループワーク(2) 双方向の関わり
5	スポーツ・レクリエーション継続のための場づくり ―活動の場づくりの必要性、継続させるための支援方法	13	スポーツ・レクリエーションプログラムの立案 ―グループワーク(3) 継続への意欲促進
6	スポーツ・レクリエーション生理学 ―高齢期に訪れる危機を回避する運動効果	14	グループ発表
7	スポーツ・レクリエーション心理学 ―運動、レクリエーションの心理的効果	15	講評とまとめ
8	安全管理の基礎 ―安全管理の基礎、体調管理の手法		

成績評価の方法・基準	グループ発表(40%)、受講姿勢(60%)で総合評価する。	
留意事項	理論と実技の回があるため、服装・持ち物については都度確認の上、準備すること。	
準備学習 (予習・復習等)	授業計画に沿って予習・復習を行い、疑問点についてはオフィスアワーに質問し解決すること。また日頃からスポーツ行政に関心を持ち、自主的に調べておくこと。	必要時間:3時間
課題のフィードバック	グループ発表については、授業最終回に講評を行う。	
テキスト	スポーツ・レクリエーション指導者養成テキスト―スポレク活動で健康寿命を延伸・編集 発行(財)日本レクリエーション協会	
参考書等	授業内で適宜紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
レクリエーション指導法 Recreation Teaching Method	2年前期	演習	1	卒業選択 資格必修	原田　弘美

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				○	○	○		◎

授業の目的	様々な集団や個人のニーズに応じたレクリエーション活動の多様さを学ぶ。仲良く楽しい人間関係を作り出すためのコミュニケーションワークについて学習を深め、集団をリードし一体感を生み出す楽しい時間を演出する指導技術の習得をめざす。さらに目的や対象に応じたレクリエーションの支援を試みる。
到達目標	1. レクリエーション、インストラクターに必要とされる各分野の指導法を身につけるとともに、自ら工夫、発見していく創造的姿勢を養う。 2. 授業全体を通して、楽しい人間関係を作り出す支援者の基本的な考え方、仲間づくり、人々のふれあい活動等の方法を学ぶ。 3. レクリエーション演習をとおして企画・実施・評価の流れを体験し指導力を確かなものにする。
授業の概要	レクリエーション活動における指導、援助の基礎を学び、仲良く楽しい人間関係を作り出すためのコミュニケーションワークについて学習する。さらに集団をリードし一体感を生みだすアイスブレーキングの技術を身につける。さまざまなレクリエーション活動を習得し、課題にそった集いを安全に留意しながら企画・実施し評価を共有することで指導力を確かなものにする

授業計画

1	レクリエーション支援の方法 信頼関係づくりの方法と技術を学ぶ	9	レクリエーション演習 対象や目的に合わせた行事の企画
2	モデルプログラムの習得　1（子ども対象） 仲良く楽しい人間関係を作り出すための展開を学ぶ	10	レクリエーション支援の実施　① 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり
3	モデルプログラムの習得　2（子ども対象） 目的や対象に合わせたプログラムの展開を学ぶ	11	レクリエーション支援の実施　② 対象者の課題に合わせたレクエーションのつどいの演習とふりかえり
4	レクリエーション活動の習得1 ルールや用具を工夫したニュースポーツを学ぶ	12	レクリエーション支援の実施　③ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり
5	レクリエーション活動の習得2 音楽（うたやダンス）に合わせた身体活動を学ぶ	13	レクリエーション支援の実施　④ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり
6	レクリエーション活動の習得3 つくって遊ぶ　創作活動を学ぶ	14	レクリエーション支援の実施　⑤ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり
7	レクリエーション活動の習得4 レクリエーション支援のためのゲームを学ぶ	15	レクリエーション支援の実施　⑥ 対象者の課題に合わせたレクリエーションのつどいの演習とふりかえり　全体のまとめ
8	レクリエーション活動の習得5 レクリエーション支援のためのゲームを学ぶ		

成績評価の方法・基準	実技発表70%、受講態度・姿勢30%で総合評価する。	
留意事項	楽しい人間関係を作り出すよう心掛ける。	
準備学習 （予習・復習等）	必要時間：45分	必要時間：45分
課題のフィードバック	ふりかえりシートを活用しながら演習の良かった点や改善点を全体で共有し、次回の単元に反映できるように総評をおこなう	
テキスト	「楽しいをつくる～レクリエーション・ハンドブック～」 編集・発行NPO法人福岡県レクリエーション協会 「楽しさをとおした心の元気づくり」 編集・発行（財）日本レクリエーション協会	
参考書等	随時、紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
在宅保育論 At-home Childcare Theory	2年後期	講義	2	卒業選択 資格必修	濱元　篤子

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
				○			◎	○

授業の目的	少子高齢社会における子育て支援のあり方について考える。「子ども・子育て新システム」において家庭訪問保育（在宅保育）が位置づけられたことの意義を理解し、全国ベビーシッター協会認定のベビーシッター資格取得を目指して、在宅における乳幼児の個人もしくは、小集団の保育について学習する。
到達目標	1. 多様な保育ニーズについて把握する。 2. 家庭訪問保育（在宅保育）の意義を理解する。 3. 家庭訪問保育者（ベビーシッター）の業務に必要なスキルを習得する。
授業の概要	担当者のベビーシッターとしての実務経験を活かし、在宅における保育の特殊性や在宅保育の子育て支援としての役割について、また、職業としての在宅保育と法的責任を理解する。1対1，2程度の少人数の保育に対しての理解を深めると同時に、病後児保育、産後のケア等についても理解する。在宅保育におけるマナーや緊急時の対応についても学習する。

授業計画

1	居宅訪問保育の概要① ・児童福祉における居宅訪問保育の社会的背景 ・居宅訪問保育の実態 ・子供・子育て支援士信制度の概要	9	居宅訪問保育におけるマナー② ・社会人としてのマナー
2	居宅訪問保育の概要②（ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ/ﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ） ・地域の子育て支援事業の概要 ・地域の子育て支援事業の中の居宅訪問保育事業	10	居宅訪問保育におけるマナー③ ・コミニュケーションスキル
3	ベビーシッターの実務① ・乳幼児の発達と心理	11	さまざまなベビーシッターサービス① ・障害児保育　・送迎保育　・グループ保育 ・学童保育
4	ベビーシッターの実務② 乳幼児の生活と遊び①	12	さまざまなベビーシッターサービス② ・病児、病後児保育・（体調不良時の保育）
5	ベビーシッターの実務③（ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ） 乳幼児の生活と遊び②在宅保育に役立つ遊び	13	さまざまなベビーシッターサービス③ ・産後ケア
6	ベビーシッターの実務④ 乳幼児の生活と遊び③　絵本の読み聞かせ	14	ベビーシッターの実務⑤ ・訪問保育体験談
7	ベビーシッターのマネジメント ・リスクマネジメントとクレーム処理 ・居宅訪問保育における保育内容と環境整備 ・事故防止と安全確保	15	まとめ…在宅保育論を学んで 「実習日誌の書き方」 ・保育計画の立案 ・実習日誌の作成
8	・居宅訪問保育におけるマナー① ・家族との信頼関係		

成績評価の方法・基準	レポート課題（60%）に出席状況・受講態度等（40%）を加え、総合的に評価する	
留意事項	全国ベビーシッター協会認定によるベビーシッター資格が取得できる。欠席せず受講すること。	
準備学習 （予習・復習等）	次回予定を伝えるので講義内容及びテーマを確認、準備をすること。	必要時間：3時間
課題のフィードバック	各回の実習レポートは最終回に総評及び返却する。 課題レポートは評価の後返却する。	
テキスト	「在宅保育論ー家庭訪問保育の理論と実際ー」 社団法人全国ベビーシッター協会　中央法規	
参考書等	必要に応じて指示	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
チャイルドプロジェクト Child Project	1 年後期 2年通年	演習	2	卒業必修 資格選択必修	学科教員

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						○		◎

授業の目的	地域社会が抱える子どもや子育てに関する様々な問題について、各自の興味・関心のある分野を選び自主研究を行うことを通して、保育者としての専門性を高める。また、学生が主体的に研究課題を設定し、地域社会と連携した研究を行うことにより、学生各自が自己研鑽力を高めていく。
到達目標	1. 自分たちで研究テーマや課題を設定し、研究方法を立案できる。 2. 研究の成果を文章にまとめる力を身につける。 3. 地域社会が抱える子ども・子育てに関する問題を知り、その問題解決に取り組むことができる。
授業の概要	地域社会が抱える子ども・子育てに関する課題を見つけ、その問題解決を図るための研究をアクティブ・ラーニングの手法を用いて実施する。学生自身が取り組む分野・研究テーマを選び、各研究会に分かれて 1 年間の研究を行い、その成果を発表し報告集に掲載する。

授業計画

研究分野

令和元年度実績

表現研究会
ピアノ・トーンチャイム研究会
ボランティア研究会
保育の心理学研究会
からだあそび研究会
科学遊び研究会
造形の楽しみ

どの分野で学ぶかは、学生の希望を事前にアンケート調査し、調整の上、決定する。
具体的な研究課題・内容については講義の中で決定する。
研究の成果については報告会で発表を行い、研究報告書を30回目に提出する。

成績評価の方法・基準	各研究会での活動・成果80%、受講態度20%で総合評価する。	
留意事項	学生が主体的に研究をおこなうので、意欲的に取り組むこと。	
準備学習 （予習・復習等）	各自の課題についての取り組みを放課後等に実施すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	提出した研究報告書については、報告集を作成し配布する。	
テキスト	必要に応じてプリントを配布。	
参考書等	各研究会にて指示する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育実習指導Ⅰ Guidance to Childcare Field Study Ⅰ	1・2年 通年	演習	2	卒業選択 資格必修	増田・坂田・園田 他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						◎	○	○

授業の目的	保育･施設実習の意義目的、実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。事前指導では、各施設での実習内容について具体的に理解する。実習直前指導では書類の準備を行い、オリエンテーションで具体的な実習の情報を習得する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行い新たな課題や実習目標を明確にする。
到達目標	1. 実習の意義･目的を理解し、実習の内容と自らの課題を明確にする。 2. 事前指導では、各施設での実習内容について具体的に理解する。 3. 事後指導では、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や実習目標を明確にできる。
授業の概要	保育実習の意義･目的を理解し、プライバシーの保護と守秘義務、実習の計画、記録の方法や内容について学ぶ。施設実習の意義と目的を理解し、各種施設(児童養護施設、福祉型障害児入所施設、医療型障害児入所施設、その他)について学習する。事後指導では実習の総括と自己評価を行い、反省とまとめを行う。

授業計画

	保育所		施設
1	保育実習にいくための実習依頼の手順について	1	施設実習の意義と目的
2	保育実習の意義と目的･実習の方法について	2	施設保育士の役割
3	実習生としての心構え、全国保育士倫理綱領について	3	福祉の理念
4	実習に必要な事務手続きについて	4	種別の理解(1) 児童養護施設･乳児院
5	実習記録の意義と方法、観察の視点について	5	種別の理解(2) 障害児･者入所施設ほか
6	実習記録の実際①日誌の各項目の理解	6	実習記録の取り方(1)児童養護施設･乳児院ほか
7	実習記録の実際②ワーク 実習先でのオリエンテーションについて	7	実習記録の取り方(2)障害児･者入所施設ほか
8	実習記録の実際③フィードバック	8	個人票や書類の作成を通した実習の目標設定や守秘義務等について
9	指導計画の意義と方法	9	施設実習の不安を軽減しよう
10	指導案作成の実際①基本的事項と設定(部分)保育	10	施設でのオリエンテーションについて(施設実習書類の準備)
11	指導案作成の実際②教材研究の基本	11	施設実習班員での事前学習と打ち合わせ
12	指導案のプレゼンテーション 腸内細菌検査について	12	施設実習直前指導 (腸内細菌検査･実習生としてのマナー･諸注意他)
13	学内直前指導	13	事後指導における実習の自己評価と振り返り
14	事後指導における実習の総括と自己評価	14	事後指導における実習体験報告会
15	事後指導における振り返りと課題の明確化	15	事後指導における施設実習のまとめと総括

成績評価の方法･基準	毎回のレポート･指導案50%、課題レポート40%、受講態度10%で評価する。	
留意事項	体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。施設でのプライバシー保護に留意する。	
準備学習 (予習･復習等)	授業後は講義内容を他の講義と関連付けながら確認していくこと。 実習前には実習指導のノートやテキストを読み返すこと。	必要時間:45分
課題のフィードバック	各回提出のノートは次週の授業時に返却し総評を行う。	
テキスト	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育･保育要領」内閣府･文部科学省･厚生労働省及び各解説 フレーベル館 「幼稚園･保育所･施設実習完全ガイド―準備から記録･計画･実践まで―」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房	
参考書等	授業中に知らせる。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育実習指導Ⅱ Guidance to Childcare Field Study Ⅱ	1年後期 2年通年	演習	1	卒業選択 資格選択必修	増田・坂田・園田他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○	○	◎		

授業の目的	保育実習Ⅱの意義・目的、授業の内容を理解し、自らの課題を明確にする。事前指導では、指導案・日案等について準備を行う。また個人情報の取り扱い、子どもの安全に対する配慮、職員間の連携などについて学び、実習生として留意すべき事項を理解する。事後指導では、実習の総括と自己評価を行う。
到達目標	1. 保育実習の意義と目的を理解し、実習に向けての自己の課題を明らかにする。 2. 今までの実習や既習の科目の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を培う。 3. 実習の総括と自己評価を通して、保育実践における自己の課題を明らかにできる。
授業の概要	保育実習Ⅱの意義と目的、内容について学ぶ。保育実習Ⅰを振り返り、自己の課題を明らかにして改善する。具体的には日誌、指導案等の振り返りや今までの学習を基に指導案や日誌等の作成を行う（課題解決型学習）。また、実習後には総括と自己評価を行い、自己の目標を明確にする。

授業計画

1	オリエンテーション 実習依頼の注意事項について 実習園探しの心得、依頼の手順とマナー	9	実習事前指導⑦ 作成した指導案の評価（グループワーク） 日案作成のポイント
2	保育実習Ⅱの意義と目的、内容 実習の意義と目的、保育実習Ⅱの位置づけ・内容 ルーブリック評価を用いた到達度の確認	10	実習事前準備⑦ 実習生としての心得・マナー
3	実習事前準備① 子どもの発達に合わせた教材研究 指導案作成のポイント	11	実習事後指導① 実習の自己評価
4	実習事前準備② 指導案の作成	12	実習事後指導② 実習日誌・指導案の振り返り（グループワーク）
5	実習事前準備③ 保育実習Ⅰの振り返りと自己課題の明確化 個人票作成	13	保育士資格の申請について 申請手続きの説明
6	実習事前準備④ 子どもの姿の捉え方 個人情報の取り扱い及び誓約書作成	14	実習事後指導③ 実習報告会
7	実習事前準備⑤ 実習日誌の書き方（子どもの活動・保育者の援助）	15	まとめ 保育者として成長するための課題を考える ルーブリック評価を用いた到達度の確認
8	実習事前準備⑥ 実習日誌の書き方（気づき・反省・考察）		

成績評価の方法・基準	毎回のノート・指導案50%、課題レポート40%、受講態度10%で評価する。	
留意事項	欠席が無いよう注意し、他教科との連携を意識すること。提出物の期限は厳守すること。	
準備学習 （予習・復習等）	テキストに目を通し、授業内容を復習する。 理解が不足している点は質問して解決する。	必要時間：45分
課題のフィードバック	各回提出のノートは添削して次週の授業時に返却し総評を行う。	
テキスト	太田光洋編、「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」、ミネルヴァ書房 保育所保育指針解説	
参考書等	適宜指示する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育実習指導Ⅲ Guidance to Childcare Field Study Ⅲ	2年後期	演習	1	卒業選択 資格選択必修	増田・坂田・園田他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○		◎	○	

授業の目的	保育実習Ⅲ（保育所以外の施設実習）に関し、施設内処遇を中心に学びをすすめていくことにより、施設に関する一層の理解の一助とする。又、実習を通して児童の現状、地域社会、保護者（家庭）、関係機関、ボランティア等幅広い理解の機会とする。
到達目標	1. 保育実習Ⅰの施設における実習を通して体得した知識、実践力の一層の進展をはかる。 2. 希望園(種別)に関する全般理解。 3. 施設保育士の専門性の視点から、実習後の自己評価及び施設に関する知識、理解、処遇の在り方を総合的にとらえる。
授業の概要	保育実習Ⅰ（施設）の総括、自己評価を通して施設保育士としての処遇に関する実践力の確認と共に、実習園に関する概要についての詳細な理解により実習の意義を深めると共に実習終了後の自己評価、課題認識等を通して施設保育士としての専門性確立への一助とする。

授業計画

1	保育実習Ⅰの施設実習の総括と自己評価のふりかえり。	9	施設の全体計画（年間、月課、週間、日課）に基づく、実践の位置づけを学ぶ。
2	施設実習の意義と目的を基盤に、施設処遇について総合的に学ぶ。	10	以上1～9の把握をもとに、学生個々の希望園、希望種別園について、意見交換、話し合いのうえ選定（決定）する。
3	施設保育士としての専門性と職業倫理について学ぶ。	11	実習決定園及び種別等に関する概要の説明。 当該施設の変遷・現状等。
4	施設実習に関するポイントの学び ①子どもの最善の利益を目指した処遇の在り方を理解する。	12	実習施設におけるオリエンテーション（その為の心得、事前準備等を含む）。
5	②子どもの処遇と保護者支援の実際を学ぶ。 事例をもとに理解する。	13	実習施設におけるオリエンテーション内容をもとに、実習に関する心得・必要な知識等を確認する。
6	施設処遇の実践力について学ぶ。 ①子どもの状態に応じた適切なかかわりについて学ぶ。	14	事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い課題や認識を明確にする。
7	②施設の専門性（処遇技術）をもとにした実践への応用を事例を通して学ぶ。	15	まとめ（補足） 実習を通して体得した施設に関する知識、理解の確認を行う。
8	施設実習における観察、記録の意義及びポイントについて学ぶ。		

成績評価の方法・基準	毎回のノート45%、課題レポート20%、受講態度・姿勢20%、最終回ノート提出15%で総合評価する。	
留意事項	自ら主体的に問題意識を持ち希望施設（種別）の理解、把握に努めること。	
準備学習 （予習・復習等）	授業内容の復習を通して、実習に伴う多様な要素の把握に努めること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	課題レポートに関し、解説及び復習を行う。	
テキスト	「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 及び各解説 フレーベル館」、「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋 ミネルヴァ書房	
参考書等	授業中に知らせる。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育実習Ⅰ Field Study in Childcare Ⅰ	別に示す	実習	4	卒業選択 資格必修	増田・坂田・園田他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						○	◎	○

授業の目的	既修科目の内容を踏まえ、保育所、児童福施設等の役割や機能を理解し保育士の役割、職業倫理を学ぶ。保育所実習では、観察や子どものかかわりを通じて、発達過程に応じた保育内容や環境を学ぶ。児童福施設における実習では、種別ごとの養護内容や生活環境を学び個々の状態に応じた援助を理解する。
到達目標	1. 保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する 2. 観察や子どもとの関わりを通して子ども、利用者への理解を深める 3. 保育士の役割と倫理を理解する。
授業の概要	保育所実習では、保育所で生活を営む乳幼児への理解を深め、保育所の機能やそこで働く保育士の職務について学ぶ。施設実習ではその意義と目的を理解し、各種施設（保育所、障害児入所施設、障害者支援施設、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、その他）で働く保育士の職務について学習する。

授業計画

保育所実習2単位（学外）：1年次2月（おおむね10日間）
施設実習2単位（学外）：2年次9月（おおむね10日間）
「保育所実習の内容」
1. 実習施設について理解を深める
2. 保育所の状況や一日の流れを理解する
3. 乳幼児の発達を理解する
4. 保育計画・指導計画を理解する
5. 保育技術を習得する
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
7. 家庭・地域社会との連携について理解する
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
9. 保育士の倫理観を具体的に学ぶ
10. 安全及び疾病予防への配慮について学ぶ

「居住型福祉施設等及び障害児・者支援施設等における実習の内容」
1. 施設実習の意義と目的を理解する
2. 各種施設の役割と機能を理解する
3. 各種施設の利用児・者について理解する
4. 専門職としての施設保育士の役割と倫理を学ぶ
5. 各種施設の養護内容（支援内容）と生活環境を理解し、実習記録のとり方を理解する
6. 利用児・者の個別の支援計画と援助について理解する
7. 健康管理・安全対策について理解する
8. 多様な専門職との連携や役割分担について理解する
9. 宿泊実習に伴う生活上の注意点を理解する
10. 施設実習のふり返りを通して自己課題を明確化する

成績評価の方法・基準	保育実習の評価80%と、実習日誌20%で総合評価する。	
留意事項	体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。	
準備学習 （予習・復習等）	保育実習指導Ⅰでの学びを準備学習とし、各回の内容を振り返っておくこと。 実習先でのオリエンテーションで指示された課題の準備を行うこと。	必要時間：指定せず
課題のフィードバック	実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う	
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋　ミネルヴァ書房 「保育所保育指針　解説書」厚生労働省　フレーベル館	
参考書等	「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　及び　各解説　フレーベル館、　および適宜、授業内で紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育実習Ⅱ Field Study in Childcare Ⅱ	別に示す	実習	2	卒業選択 資格選択必修	増田・坂田・園田他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						○	◎	

授業の目的	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、子ども・保育についての理解や保育所の機能や役割、職業倫理についての理解を深め、家庭や地域との連携について学ぶ。特に保育士としての配慮や援助についての理解に基づいて保育を実践し、保育士のあり方について体験的に学ぶことを目的とする。
到達目標	1. 保育士の援助や配慮の意義や意図を理解し、子どもとの関わりの中で実践できる。 2. 子ども理解を基盤とした指導計画を作成し、保育を実践・評価することができる。 3. 子どもとの関わりや保育実践を通して、保育士としての課題を考えることができる。
授業の概要	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、子どもとの関わりや指導の経験を通して子ども理解や保育士の職務内容についての理解を深める。また、指導計画を立案し、実際に指導を行い評価することを通して、子ども理解を深め、保育技術を向上させると共に、より質の高い保育を行う方法を考える。

授業計画

実施時期：2年次8月におおむね10日間実施する。

実習の内容：
1. 保育所の役割や機能について理解を深める
2. 保育所の一日の流れ、保育士の援助や配慮について理解する
3. 子どもとの関わりを通して、乳幼児の発達を理解する
4. 指導計画を立案し、実践、評価する
5. 保育技術を習得する
6. 職員間の役割分担とチームワークについて理解する
7. 家庭・地域社会との連携について理解する
8. 子どもの最善の利益を具体化する方法について学ぶ
9. 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育等の保育の基本についての理解を深める
10. 安全および疾病予防への配慮について学ぶ
11. 保育士の倫理観を具体的に学び、多様な保育の展開と業務を理解する

成績評価の方法・基準	実習園による評価80%、実習日誌20%で総合評価する。	
留意事項	体調管理に特に注意を払い、欠席がないようにすること。	
準備学習 （予習・復習等）	保育実習指導Ⅱでの学びを準備学習とし、各回の内容を振り返っておくこと。 実習先でのオリエンテーションで指示された課題の準備を行うこと。	必要時間：指定せず
課題のフィードバック	実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う	
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイドー準備から記録・計画・実践までー」太田光洋編著　ミネルヴァ出版 「保育所保育指針　解説書」厚生労働省　フレーベル館	
参考書等	適宜指示する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育実習Ⅲ Field Study in Childcare Ⅲ	別に示す	実習	2	卒業選択 資格選択必修	増田・坂田・園田他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○		○	◎	

授業の目的	児童福祉施設等の多様な側面(養護の目的、内容、対象児童、年齢規定、専門職配置及び他の専門職との連携)に関して、実習を通して正しい理解をもとに実践力の向上を図る。 さらに、保護者・家庭への支援、地域社会との関わり、他機関、施設との連携(協働)状況に関し理解を深める。
到達目標	1. 当該種別及び施設に関する深い理解。 2. 当該種別及び施設に関する日常生活への専門性の必要性の理解把握。 3. 自立支援への専門的関わりについての修得。
授業の概要	当該(希望)施設に焦点をあて、その成り立ち及び変遷、社会的意義、地域との関わり、対象及び実際の状況、日課にそった処遇の展開の状況、諸行事及びその意義、ほかの施設機関等との連携、職員としての専門性、課題等全般把握に努め、正しい理解をすすめる。

授業計画

実習期間:2年次12月～1月(おおむね10日間)

内容
1. 児童福祉施設(保育所以外)の役割と機能について理解する。
2. 施設における支援の実際に関し、子どものニーズの把握と理解について、個人差、生活環境をもとに把握する。
3. 保育士以外の専門職との連携、協働の在り方について学ぶ。
4. 施設と地域とのかかわりについて学ぶ。
5. 実習施設(種別)一覧
・乳児院
・母子生活支援施設
・児童養護施設
・知的障害児施設
・知的障害児通園施設
・盲ろうあ児施設
・肢体不自由児施設　　障害児支援施設
・重症心身障害児施設
・児童心理治療施設
・児童自立支援施設
・児童厚生施設
・知的障害者更生施設
・知的障害者授産施設　　障害者支援施設

成績評価の方法・基準	実習施設のオリエンテーション及び実習状況、出席状況、実習日誌の記載内容、実習施設の講評及び評価80%、学内事前事後指導等の受講態度・姿勢20%で総合評価する。	
留意事項	問題意識と正しい理解の維持及び深化	
準備学習 (予習・復習等)	実習内容のふり返りを通して、施設全般の正しい理解に努めること。	必要時間:指定せず
課題のフィードバック	課題レポートに関し、総評及び補足解説による復習を行う。	
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋　ミネルヴァ書房 「保育所保育指針　解説書」厚生労働省　フレーベル館	
参考書等	「保育所保育指針」厚生労働省　「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省　及び　各解説　フレーベル館、　および適宜、授業内で紹介する。	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
教育実習 Teaching Practice	別に示す	実習	5	卒業選択・免許必修 資格選択必修	原・新井・他

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
			○	○			◎	

授業の目的	学校で学んだ理論や実技を幼児教育の場で実践し、直接子どもとふれあい、幼児の実態と保育のあり方を学ぶ。また、事前事後指導を行い、教育実習の意義や目的、幼児理解の観察の視点や援助方法を学ぶと同時に、実習後の振り返りを通して、現場での教育実習の効果を高めていく。
到達目標	1，幼稚園の施設、設備、教育方針とそれに基づく園生活のあり方を知る。 2. 幼児理解(興味、関心、年齢ごとの発達等)ができるようになる。 3. 保育者理解(保育場面での役割、その他の業務)ができるようになる。
授業の概要	・久留米信愛幼稚園での教育実習　1年次5月・6月の1週間と10月の1週間(計2週間) ・学外の幼稚園での教育実習　2年次5月から6月にかけての2週間 ・事前事後指導　1年次～2年次の期間で、教育実習の予定に合わせて行う。

授業計画

1	幼稚園教諭・教育実習の意義と目的について	14	後期信愛幼稚園実習の事後指導② 評価のフィードバック
2	実習生としての心構え ルーブリック評価を用いた到達度の確認	15	実習先提出書類について
3	実習先提出書類について	16	外部幼稚園実習に関するオリエンテーション 提出書類配布
4	信愛幼稚園実習日誌の書き方①　日誌の基本的事項	17	実習生としての心構え
5	信愛幼稚園実習日誌の書き方②　記録の実践	18	実習に関する準備① 実習日誌及び指導案の書き方
6	信愛幼稚園実習日誌の書き方③　フィードバック	19	実習に関する準備② 指導案の書き方と教材研究
7	信愛幼稚園実習の心構え 信愛幼稚園園長先生の講話	20	外部幼稚園実習直前指導 教材研究
8	前期信愛幼稚園実習の直前指導	21	外部幼稚園実習事後指導① 報告書作成と自己評価
9	前期信愛幼稚園実習に関する事後指導① 自己評価とグループ内評価(グループワーク)	22	外部幼稚園実習事後指導② 外部評価より　フィードバック
10	外部幼稚園実習の依頼手順について	23	外部幼稚園実習事後指導③ 実習についてグループディスカッション ルーブリック評価を用いた到達度の確認
11	後期信愛幼稚園実習に関する準備 部分指導について	24	外部幼稚園実習事後指導④ 訪問指導担当教員との報告会
12	後期信愛幼稚園実習の直前指導	上述した24回の教育実習事前事後指導に加えて、久留米信愛幼稚園ならびに学外の幼稚園で合計4週間の実習を行う。	
13	後期信愛幼稚園実習の事後指導① 自己評価とグループ内評価(グループワーク)		

試験・評価	事前事後指導(30%)・信愛幼稚園実習(35%)・外部幼稚園実習(35%)を総合して評価する。	
留意事項	体調管理を常に意識し、実習指導の授業・実習共に欠席がないようにすること。 提出物は、期日を厳守すること。	
準備学習 (予習・復習等)	授業後は講義内容を他の講義と関連付けながら確認していくこと。 実習前には実習指導のノートやテキストを読み返すこと。	必要時間：指定せず
課題の フィードバック	実習終了後、実習先からの評価票・実習日誌の内容を踏まえフィードバックを行う	
テキスト	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド―準備から記録・計画・実践まで―」編著者太田光洋　ミネルヴァ書房 「保育所保育指針　解説書」厚生労働省　フレーベル館	
参考書等	実習指導の授業時に紹介する	

科目名	開講時期	授業形態	単位数	必修／選択	担当者
保育・教職実践演習（幼稚園） Childcare and Practical Training Exercise (Kindergarten)	2年後期	演習	2	卒業選択 免許・資格必修	椎山・桑原・増田

学科のディプロマ・ポリシーとの関連	1	2	3	4	5	6	7	8
						◎	○	○

授業の目的	今までの学修を振り返り、保育者の職責を果たすための自己研鑽力を身につけ、保育環境の理解を深め、コミュニケーション能力や課題への対処力を高める。また、子どもの状況に配慮した教育活動を行う知識・能力を身につけ、指導方法・教材研究を活かした指導案等を作成する力、子どもに対応した関わり方を学ぶ。
到達目標	1. 今までの実習を含めた学修を振り返り、保育者となるために自己の不足している点を明らかにする。 2. 保育者の役割を認識し、それを果たすための自己研鑽力を身につける。 3. 指導案や教材研究、模擬保育を通して子どもへの対応力が高まる。
授業の概要	保育者像やその職責、保育現場を取り巻く環境などについて、事例研究やグループディスカッションを通してその理解を深める。また、今までの学修の振り返りをもとに、各自の不足している点を明らかにすると共に、模擬保育を通して保育の実践力を高め、自己研鑽力を養う。

授業計画

1	学修・実習を振り返り（グループ討議） 【桑原】	16	指導案研究と模擬保育と相互評価⑤ 【椎山】
2	設定保育等の振り返りとグループ討議 【椎山】	17	保育現場を取り巻く人間関係 【桑原】
3	保育職の意義・役割について 【桑原】	18	指導案研究と模擬保育と相互評価⑥ 【椎山】
4	履修カルテを活用した自己分析 【椎山】	19	保育者に必要な人間関係の構築 【桑原】
5	事例研究① 子どもとの関わり 【桑原】	20	指導案研究と模擬保育と相互評価⑦ 【椎山】
6	分析、面談をもとにしたプログラム作成 【椎山】	21	保護者に対する子育て支援の事例研究 【桑原】
7	事例研究② 子どもの安全 【桑原】	22	指導案研究と模擬保育と相互評価⑧ 【椎山】
8	指導案研究と模擬保育と相互評価① 【椎山】	23	保護者や地域社会との連携の理解を図る。 【桑原】
9	事例研究③ 保護者との関わり 【桑原】	24	倉橋惣三「育ての心」を読む 【増田】
10	指導案研究と模擬保育と相互評価② 【椎山】	25	保護者支援についてのグループ討議 【桑原】
11	事例研究④ 地域との関わり 【桑原】	26	幼児理解、保護者への対応の事例研究 【椎山】
12	指導案研究と模擬保育と相互評価③ 【椎山】	27	家庭との連携、クラスだよりの作成 【桑原】
13	幼児理解の事例研究とグループ討議 【桑原】	28	子どもと楽しむ製作遊び 【増田】
14	指導案研究と模擬保育と相互評価④ 【椎山】	29	目指す保育者像、必要な資質・能力の確認 【桑原】
15	学級経営に関する事例研究とグループ討議 【桑原】	30	模擬保育の振り返りと総評 【椎山】

成績評価の方法・基準	事例発表25%、指導案20%、模擬保育20%、レポート20%、小テスト5%、受講態度10%で総合評価する。	
留意事項	日誌等で実習の振り返りを行っておくこと。	
準備学習 （予習・復習等）	実習日誌、指導案等を振り返り、自己の課題を認識して模擬保育に臨むこと。理解できなかったこと、課題作成の質問はオフィスアワーを利用し解決すること。	必要時間：45分
課題のフィードバック	指導案は模擬保育ごとに総評を行い返却する。模擬保育および相互評価については最終回で総評を行う。	
テキスト	「幼稚園教育要領」文部科学省 「保育所保育指針」厚生労働省 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館、その他プリントを配布する。	
参考書等	「幼稚園・保育所・施設実習完全ガイド」 太田光洋編著 ミネルヴァ書房	

マークシートの記入方法

本マークシートは、履修届を電算化することにより履修漏れを未然に防いだり、適切な履修指導をおこなうための補助となるものです。
従来の履修届に本マークシートを添えて提出して下さい。

【マークシート記入要領】
①氏名を記入
②届出年月日を記入
③学科コードを記入し数字を塗りつぶす
④学年を記入し数字を塗りつぶす
⑤クラスコードを記入し数字を塗りつぶす
⑥出席番号（２ケタ）を番号欄に記入し数字を塗りつぶす
⑦「履修届」の中の「マークシート問番号」の数字とマークシートの問１～問１００は対応していますので、今回履修する科目（通年科目含む）については、マークシート「履修届(単位)」欄の①~⑤を塗りつぶす（①~⑤は単位数）。（すでに単位取得済みの科目や履修しない科目は「履修届(単位)」欄の〇を塗りつぶす。）

【記入例】（マークシート問番号が８２までの場合）

フリガナ	シンアイ　ハナコ
氏 名	信愛　花子

年	月	日
2	4	6

記入上の注意
1. 記入は、必ずHBの黒鉛筆で、〇の中を正確に、ぬりつぶしてください。
2. 書き損じた場合は、プラスチック製消しゴムで、きれいに消してください。
3. 用紙を、折り曲げたり汚さないでください。

良い例	●
悪い例	⊘ ⓘ

学科	学年	クラス	番号	
7	1	2	0	5

学科コード
6 ： フードデザイン学科
7 ： 幼児教育学科

クラスコード(幼児教育学科のみ)
1 ： Aクラス
2 ： Bクラス

問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)	問	履修届(単位)
1	● ② ③ ④ ⑤ ○	21	① ● ③ ④ ⑤ ○	41	① ② ③ ④ ⑤ ●	61	① ② ③ ④ ⑤ ●	81	① ② ③ ④ ⑤ ●
2	① ● ③ ④ ⑤ ○	22	① ② ③ ④ ⑤ ●	42	① ② ③ ④ ⑤ ●	62	① ② ③ ④ ⑤ ●	82	① ② ③ ④ ⑤ ●
3	① ② ③ ④ ⑤ ●	23	① ② ③ ④ ⑤ ●	43	● ② ③ ④ ⑤ ○	63	① ② ③ ④ ⑤ ●	83	① ② ③ ④ ⑤ ○
4	① ② ③ ④ ⑤ ●	24	● ② ③ ④ ⑤ ○	44	① ② ③ ④ ⑤ ●	64	● ② ③ ④ ⑤ ○	84	① ② ③ ④ ⑤ ○
5	① ● ③ ④ ⑤ ○	25	① ② ③ ④ ⑤ ●	45	① ② ③ ④ ⑤ ●	65	① ② ③ ④ ⑤ ●	85	① ② ③ ④ ⑤ ○
6	● ② ③ ④ ⑤ ○	26	① ● ③ ④ ⑤ ○	46	① ● ③ ④ ⑤ ○	66	① ② ③ ④ ⑤ ●	86	① ② ③ ④ ⑤ ○
7	● ② ③ ④ ⑤ ○	27	● ② ③ ④ ⑤ ○	47	① ② ③ ④ ⑤ ●	67	① ② ③ ④ ⑤ ●	87	① ② ③ ④ ⑤ ○
8	① ② ③ ④ ⑤ ●	28	① ● ③ ④ ⑤ ○	48	① ② ③ ④ ● ○	68	● ② ③ ④ ⑤ ○	88	① ② ③ ④ ⑤ ○
9	① ② ③ ④ ⑤ ●	29	① ② ③ ④ ⑤ ●	49	① ② ③ ④ ⑤ ●	69	① ② ③ ④ ⑤ ●	89	① ② ③ ④ ⑤ ○
10	① ② ③ ④ ⑤ ●	30	① ② ③ ④ ⑤ ●	50	● ② ③ ④ ⑤ ○	70	① ② ③ ④ ⑤ ●	90	① ② ③ ④ ⑤ ○
11	● ② ③ ④ ⑤ ○	31	① ② ③ ④ ⑤ ●	51	① ② ③ ④ ⑤ ●	71	① ● ③ ④ ⑤ ○	91	① ② ③ ④ ⑤ ○
12	① ② ③ ④ ⑤ ●	32	① ② ③ ④ ⑤ ●	52	① ② ③ ④ ⑤ ●	72	● ② ③ ④ ⑤ ○	92	① ② ③ ④ ⑤ ○
13	① ● ③ ④ ⑤ ○	33	① ● ③ ④ ⑤ ○	53	① ② ③ ④ ⑤ ●	73	① ② ③ ④ ⑤ ●	93	① ② ③ ④ ⑤ ○
14	① ② ③ ④ ⑤ ●	34	● ② ③ ④ ⑤ ○	54	① ● ③ ④ ⑤ ○	74	① ② ③ ④ ⑤ ●	94	① ② ③ ④ ⑤ ○
15	● ② ③ ④ ⑤ ○	35	① ② ③ ④ ⑤ ●	55	● ② ③ ④ ⑤ ○	75	① ② ③ ④ ⑤ ●	95	① ② ③ ④ ⑤ ○
16	● ② ③ ④ ⑤ ○	36	● ② ③ ④ ⑤ ○	56	① ● ③ ④ ⑤ ○	76	① ② ③ ● ⑤ ○	96	① ② ③ ④ ⑤ ○
17	① ② ③ ④ ⑤ ●	37	① ② ③ ④ ⑤ ●	57	① ● ③ ④ ⑤ ○	77	① ② ③ ④ ⑤ ●	97	① ② ③ ④ ⑤ ○
18	① ② ③ ④ ⑤ ●	38	① ② ③ ④ ⑤ ●	58	① ② ③ ④ ⑤ ●	78	● ② ③ ④ ⑤ ○	98	① ② ③ ④ ⑤ ○
19	① ● ③ ④ ⑤ ○	39	① ● ③ ④ ⑤ ○	59	① ② ③ ④ ⑤ ●	79	① ② ③ ④ ⑤ ●	99	① ② ③ ④ ⑤ ○
20	① ② ③ ④ ⑤ ●	40	① ② ③ ④ ⑤ ●	60	● ② ③ ④ ⑤ ○	80	① ② ③ ④ ⑤ ●	100	① ② ③ ④ ⑤ ○